

東京近郊の高校生 400 人に聞く

現代高校生の食生活 家族で育む『食』

2012 年 4 月

農林中央金庫

目次

■調査企画	1
■調査結果の内容	5

I 東京近郊の高校生 400 名に聞く 三食の摂取の実態と意識

1. 朝ごはん..... 7

朝ごはんを「毎日」家で食べる人が7割強(72.5%)を占めるが、「食べない」(6.5%)という人もみられる。平均は、週に「5.9回」。

朝ごはんを家で食べない日がある理由は、「起きるのが遅い」(75.5%)が突出して多く、次いで「食欲がない」(39.1%)。

一緒に食べる人は「きょうだい」(47.9%)が最も多いが、次いで「ひとりで」(44.7%)もそれに近い割合。以下、「母親」(37.2%)、「父親」(20.6%)の順。

朝ごはんをひとりで食べるのは、「家を出るのが家族より早いから」(51.5%)が最も多く、次いで「家を出るのが家族より遅いから」(28.1%)と、“家族と生活時間が違う”という理由が多い。

朝ごはんに食べているものは、「パン」(73.5%)の方が「ごはん」(67.4%)よりも多く、“朝はパン食”という傾向が強い。以下、「卵料理」(46.3%)、「味噌汁」(43.9%)、「牛乳・ヨーグルト」(38.2%)、「ハム・ベーコン」(34.8%)など、どちらかという洋食系が多い。

●《女子》の方が“洋食”、《男子》の方が“和食”志向。

7割近くの人が家族と“同じ” (68.4%)朝ごはんを食べており、“違う” (16.6%)という人は少ない。

2. 昼ごはん..... 13

学校での昼食は、「弁当を親に作ってもらう」(88.8%)が圧倒的だが、「コンビニなど校外の店で買う」(38.5%)、「学校の売店で買う」(30.3%)の“買い食い派”や、「学校の食堂、カフェテリアなどを利用する」(20.0%)人も多い。

よく食べるものは、「ごはんとおかず」(91.3%)が断然多く、以下「おにぎり」(42.0%)、「パン」(41.3%)、「サンドイッチ」(23.3%)などの順で、朝食と違って洋食系よりも和食系の方が優位。

3. タごはん..... 15

8割近く(77.8%)は「毎日」家で夕食を食べるが、“家で毎日は食べない”(22.3%)高校生も。

タごはんを家で食べない日がある理由は、「外で食べる」(53.9%)が最も多く、次いで「塾や習い事がある」(36.0%)、「太りたくない」(11.2%)など。

一緒にタごはんを食べることが多い人は、「母親」(82.5%)、「きょうだい」(68.0%)、「父親」(45.8%)などが多いが、「ひとり」も2割(20.3%)。

「ひとり」で食べる理由は、「部活やスポーツクラブで遅くなるから」(44.4%)、「塾や習い事に行くから」(42.0%)と“時間が合わない”という理由が多い。

よく出てくる料理は、「野菜などの炒め物」(73.0%)、「味噌汁」(68.8%)、「サラダ」(66.8%)、「チキンなどの揚げ物」(66.8%)、「焼き魚」(64.0%)、「シチュー・カレー」(62.8%)、「野菜・魚などの煮物」(62.0%)など、洋食系・和食系を問わずさまざま。

好きな料理は、「カレーライス」(92件)と「ハンバーグ」(88件)が特に多く、以下「からあげ」(66件)、「ギョウザ」(47件)、「肉料理」(46件)、「パスタ・スパゲティ」(44件)などの順。

「買ったおかず」など手作り以外のものが出る頻度は、「1・2回」(38.3%)、「3・4回」(14.5%)など“出る”(58.3%)という家庭が多く、「出ない」(21.3%)は少数。

II 東京近郊の高校生 400名に聞く 食事や料理に対する意識

1. 家で食事の時にしていること 22

「家族と話をする」(85.0%)、「テレビを見る」(84.3%)が多いが、「携帯電話で話す、メールをする」(15.3%)や「だまって食べているだけ」(10.0%)という高校生も。

2. 家で食事の時、家族と話していること 23

「学校で起きた出来事」(62.5%)、「友だちのこと」(56.5%)、「勉強のこと」(30.0%)、「クラブ活動」(28.3%)、「家族や親戚のこと」(25.3%)など“子どもの身の回りの話題”や、「テレビ番組やタレントのこと」(50.5%)、「ニュース」(24.3%)などを話題にしている。

●「学校で起きた出来事」「友だちのこと」「テレビ番組やタレントのこと」など、《女子》の方が高い割合の項目が多いが、「スポーツ」は《男子》の方がよく話題にしている。

3. 毎日の食事で好きな食材 25

「肉類」(83.5%)が突出して多く、以下「ごはん・パンなど穀類」(53.3%)、「くだもの」(43.0%)、「魚類」(42.5%)、「卵」(42.5%)、「淡色野菜」(39.8%)、「いも類」(34.3%)などの順。

●《男子》は「肉類」、《女子》は「くだもの」「淡色野菜」「いも類」「わかめ・昆布など藻類」が高く、《女子》の方がバランス志向。

4. 主食で好きなもの 26

「ごはん」(82.5%)が最も好きで、以下「ラーメン」(62.8%)、「パスタ」(58.8%)、「パン」(54.8%)、「ピザ、お好み焼きなど小麦粉」(49.8%)、「うどん」(42.8%)など。

●《男子》は「ごはん」「ラーメン」、《女子》は「パスタ」「パン」「もち」「コーンフレーク」が好み。

5. 「ごはん」をどのようにして食べるのが好きか 27

「白いごはんのままで」(69.3%)が最も多く、以下「チャーハン」(53.8%)、「納豆や卵をかける」(45.5%)などの順。

6. 嫌いな食べ物 28

「野菜全般」(67件)、「ピーマン」(43件)、「トマト」(30件)、「セロリ」(21件)、「ゴーヤ」(20件)、「玉ねぎ・ねぎ」(20件)など“野菜”が多いほか、「果物(アボカド・柿・バナナなど)」(33件)、「魚」(30件)、「牛乳・乳製品」(25件)、「納豆」(21件)、「きのこ」(21件)などが嫌い。

7. 好きな料理のタイプ 29

「洋食」(76.8%)が最も好きで、以下「和食」(65.0%)、「中華」(53.8%)、「イタリアン」(47.5%)、「韓国」(19.3%)などの順。

●「イタリアン」は《男子》(42.0%)よりも《女子》(53.0%)の方が好き。

8. 好きな飲み物 30

「コーラなど炭酸飲料」(54.3%)、「紅茶」(49.8%)、「日本茶」(44.0%)、「ウーロン茶」(42.0%)、「ジュース(果汁100%)」(41.0%)、「水」(34.5%)、「果汁飲料」(33.8%)、「牛乳」(28.8%)、「乳酸・乳酸菌飲料」(27.5%)、「スポーツドリンク」(27.0%)、「コーヒー」(24.0%)など、さまざまな飲料があげられる。

9. 食事を残すことがあるか 31

“残す” (39.3%)人が4割近くに達する。

●《男子》(26.5%)よりも《女子》(52.0%)の方が“残す”割合が高い。

10. 食事を残すことについて、どう思うか 32

「もったいない」(73.5%)、「作ってくれた人に悪い」(59.0%)と“罪悪感を抱く”人が多く、「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「きれいなもの時は仕方がない」(13.8%)、「太らないため仕方がない」(3.3%)など“仕方がない”という意見はあまり多くない。

11. 毎日の食事の他に、おやつなどの間食をいつ食べているか 34

間食を“食べる” (92.8%)人が大半で、時間帯としては「帰宅後、家で」(62.3%)が断然多く、以下「放課後、帰宅途中」(36.0%)、「午前中の授業の合間」(24.0%)、「夜食」(19.5%)、「塾や習い事に行く前」(18.3%)など。

●間食を食べる回数は、1日「2回くらい」(39.4%)、「1回くらい」(32.1%)が多く、平均「1.6回」。

12. 食事を誰と一緒に食べるのが楽しいか 36

「友だち」(85.8%)と食べるのが最も楽しいが、以下「母親」(57.5%)、「父親」(42.3%)、「兄弟」(35.0%)、「姉妹」(26.5%)、「祖母」(17.5%)の“家族”が続く。中には「ひとりで」(8.3%)食べるのが楽しいという人も。

III 東京近郊の高校生 400 名に聞く コンビニや外食に関する意識と実態

1. 「コンビニ」の利用状況 37

「ほとんど利用しない」(11.3%)という人は少なく、利用率は 88.8%。頻度は「週に2~3回」(34.8%)、「週に1回くらい」(24.3%)くらいが多く、平均週に「2.2 回」。

コンビニへ一緒に行く人は、「友人と」(77.2%)、もしくは「一人で」(64.5%)が多い。

よく購入する飲食物は、「パン」(58.6%)、「おにぎり・おすし」(51.3%)、「スナック菓子類」(48.2%)、「コーラ等の炭酸飲料」(38.6%)、「アイスクリーム」(34.1%)、「お茶(麦茶・ウーロン茶を含む)」(33.8%)、「チョコレート、キャンディなど」(30.7%)などの順で、おやつや軽食類が多い。

コンビニで買った食べ物を食べる場所は、「家で」(54.1%)、「学校で、昼食に」(47.3%)、「歩きながら」(38.9%)、「学校で、昼食以外に」(32.1%)など、屋内屋外を問わずいろいろな場で食べている。

2. 「ファストフード店」の利用状況 41

利用率は9割弱(88.3%)で、「月に1、2回」(47.5%)の頻度が最も多い。平均は週に「0.8 回」。

一緒に行く人は、「友人と」(91.5%)が圧倒的に多く、以下「家族と」(30.0%)、「一人で」(15.3%)、「彼氏・彼女と」(11.6%)など。

よく購入するファストフードは、「ハンバーガー」(84.4%)が最も多く、以下「フライドポテト」(71.7%)、「ドリンク」(49.9%)、「牛丼・豚丼」(21.8%)、「フライドチキン」(20.7%)など。

3. 「飲食店(ファストフード店以外)」の利用状況 44

利用率は8割強(80.5%)で、「月に1、2回」(58.0%)の頻度が多く、平均は週に「0.6 回」。ファストフード店よりやや低め。

一緒に行く人は、「友人と」(73.6%)に次いで「家族と」(64.3%)行くケースも多く、「ファストフード店」とはかなり異なる。

よく利用する飲食店は、「ファミリーレストラン」(87.9%)が突出して多く、以下「すし・回転寿司」(46.9%)、「ラーメン、中華料理」(41.0%)、「パスタ、イタリアン」(34.8%)、「焼肉店」(32.6%)などの順。

IV 東京近郊の高校生 400 名に聞く 食に関するしつけの実態

1. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか 47

第一に「母親」(91.5%)、次いで「父親」(55.0%)と“両親”の教えが大きい。以下、「学校の授業(調理実習)」(40.0%)、「祖母」(29.8%)、「テレビ番組」(25.5%)、「祖父」(15.3%)、「友人」(14.3%)など。

2. 子どもの頃から家で食事のマナーについて守るように言われてきたこと 48

「食卓に肘をつかない」(77.3%)をはじめ、「好き嫌いをしない」(63.3%)、「食べ物を粗末にしない」(59.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(58.8%)、「はしを正しく持つ」(54.0%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(48.0%)、「食事中に電話やメールをしない」(47.3%)などをしつけられてきた。

●《女子》の方がしつけられてきたことは多い。

3. おはしを正しく持っているか 50

「正しく持っている」(78.5%)人が多いものの、「正しく持っていない」人も2割強(21.5%)と少なくない。

4. ナイフとフォークをきちんと使って食事ができるか 51

「できる」(64.0%)という人が主になっており、「できない」(5.8%)人はわずか。

5. ごはんと汁物がある食事の時、どのように置いて食事をする人が多いか 52

「ごはんが左、汁物が右」(57.0%)と正しい置き方をしている人が過半数を占めるが、「ごはんが右、汁物が左」(21.8%)や「その時によって違う」(20.8%)とマナーを知らないか、無視している人も合わせて4割以上。

6. 家で、食事の支度をしたり手伝ったりする程度 53

2割の人が「全く行わない」(20.8%)。“行う”(79.3%)人の頻度は「週に2~3回」(18.3%)、「毎日」(17.5%)、「週に1回くらい」(16.0%)、「週に1回未満」(16.0%)、「週に4~5回」(11.5%)などさまざまで、平均週に「2.4回」。

●男子よりも女子の方がよく手伝っている。

7. 父親は、食べ物や食事についてどんなことをしているか 58

約7割(69.5%)は“何らかをしている”父親で、その内容は「食事後の食器を運ぶ」(35.6%)、「食器を洗う」(32.6%)、「食品の買い物」(31.8%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(25.9%)といった簡単な手伝いのほか、「料理を作る」(28.3%)という父親も3割近い。

V 東京近郊の高校生 400 名に聞く 食に関する意識

1. 食について、関心があること 60

「料理の作り方」(61.8%)、「おいしい食品・店」(42.3%)、「からだに良い食べ物」(38.5%)、「栄養」(33.8%)、「カロリー・ダイエット」(33.0%)、「正しい食べ方、マナー」(28.5%)、「安全性」(21.3%)など、関心の幅は広い。「特にない」(11.3%)という人は少なく、大半の人は何らかの関心のあることをあげている。

●総じて《女子》の方が関心は高い

2. 「食の安全」への関心度 62

“関心がある”人がほぼ6割(59.3%)を占めるが、“関心がない”(32.8%)人も少なくない。

具体的な関心の内容は、「食品添加物」(51.9%)、「農薬」(46.8%)、「保存期間」(39.2%)、「輸入食品」(35.0%)、「産地や材料」(30.0%)、「ファストフードやインスタント食品」(22.8%)、「遺伝子組換え食品」(22.4%)など。

3. 郷土料理や行事食の作り方を知りたいと思うか 64

「すでに知っている」(1.5%)や「習っているところ」(1.8%)という人は少ないが、「これから習いたい」(35.3%)と意欲を示す人が3割を超える。

●《女子》では「これから習いたい」(51.5%)という人が半数を超えているが、《男子》(19.0%)では少ない。

4. 好きな郷土料理・行事食 65

「雑煮」(70件)、「ちらし寿司」(63件)、「お節料理」(45件)、「栗きんとん」(29件)、「伊達巻」(24件)、「餅」(22件)などの順で、総じて正月料理が多い。

5. 農業や食物の収穫で、行ってみたいこと 66

「野菜やくだものを収穫する」(38.8%)、「野菜やくだものを育てる」(35.8%)、「魚つり」(33.8%)、「いもや竹の子を掘る」(15.0%)、「きのこ狩り」(13.3%)、「山菜採り」(11.5%)などをしてみたい割合が高いが、「どれもしたいと思わない」という人も3割(30.5%)。

●総じて《男子》よりも《女子》の方が行ってみたいことは多いが、「魚つり」は《男子》(40.0%)の方が《女子》(27.5%)よりもかなり多い。

6. 遠い産地から運んで来た野菜や果物と、地元でとれたもののどちらを利用したいか 68

「地元でとれたもの」(43.3%)という人の方が「遠い産地から運んできたもの」(10.5%)よりもはるかに多い。

7. 野菜や果物などの農産物を購入する時、安い輸入食材と高い国産食材のどちらを選ぶか 70

「安い輸入食材」(29.5%)と「高い国産食材」(26.0%)はほぼ同率で、“安全性”と“価格”で意見が分かれる。

8. 現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うか 71

「40%(正解)」は約4人に1人(26.5%)にとどまり、「30%」(21.8%)、「20%」(15.3%)や「わからない」(12.0%)など、4人に3人は不正解。

9. 日本は、どの程度食料を自給すべきだと思うか 72

「3分の2くらい」(45.3%)、「半分くらい」(30.5%)くらいが多く、「100%」(11.8%)は1割程度。

VI 東京近郊の高校生 400 名に聞く 東日本大震災以降の食や食生活の変化

1. 昨年の東日本大震災から1年過ぎて、家族との食や食生活はどのような変化があったか 73

“そう思う”割合は、【④なるべく残さず食べるようになった】(47.8%)と【⑤家族との食事時間を大切に思う気持ちが強くなった】(47.3%)で半数近くと高い。【②家族と食事時の会話が増えた】(35.3%)、【③食事の支度など、手伝いをすることが増えた】(30.5%)、【①家族と食事することが増えた】(30.3%)は3割台。

調査企画

1. 調査目的

この調査は、東京近郊に住む高校生を対象に“食”をとりまく状況について聞き、現代高校生の“食”に関する意識と実態を探ることを目的に実施しました。

なお、2005年12月に行った高校生を対象に行った調査「現代高校生の食生活 家族で育む『食』」との比較も一部試みていきます。

2. 調査対象

首都 20km～50km のドーナツ圏に居住する男女高校生

3. 調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する高校生を調査対象とするエリアサンプリング法

4. 調査方法

調査票を用いた自記式留置法

5. 調査期間

2012年3月19日～30日

6. 標本構成

有効回収 400名の標本構成は以下の通りです（上段：サンプル数、下段：構成比 %）。

F1. 学 年

サンプル数	高校1年生	高校2年生	高校3年生
400	133	133	134
100.0	33.3	33.3	33.5

F2. 性 別

サンプル数	男子	女子
400	200	200
100.0	50.0	50.0

F3. 高校の種類

サンプル数	普通科	商業科	農業科	工業科	その他
400	355	16	3	14	12
100.0	88.8	4.0	0.8	3.5	3.0

F4. 同居している家族(複数回答)

サンプル数	父親	母親	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	そのほかの人
400	374	398	95	103	135	128	38	69	1
100.0	93.5	99.5	23.8	25.8	33.8	32.0	9.5	17.3	0.3

F5. 同居家族人数(自分も含む) (平均:4.5人)

サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人以上
400	4	57	173	98	68
100.0	1.0	14.3	43.3	24.5	17.0

F6. 塾に通っているか

サンプル数	通っている	通っていない
400	120	280
100.0	30.0	70.0

F7. 身長と体重【1】身長】

	サンプル数	155cm未満	155～160cm未満	160～165cm未満	165～170cm未満	170～175cm未満	175～180cm未満	180～185cm未満	185cm以上	無回答	平均(cm)
全体	400	45	76	79	61	58	60	16	2	3	164.9
	100.0	11.3	19.0	19.8	15.3	14.5	15.0	4.0	0.5	0.8	
男子	200	0	0	25	41	56	60	16	2	0	171.6
	100.0	0.0	0.0	12.5	20.5	28.0	30.0	8.0	1.0	0.0	
女子	200	45	76	54	20	2	0	0	0	3	158.1
	100.0	22.5	38.0	27.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5	

F7. 身長と体重【2】体重】

	サンプル数	40kg未満	40～45kg未満	45～50kg未満	50～55kg未満	55～60kg未満	60～65kg未満	65～70kg未満	70～75kg未満	75～80kg未満	80kg以上	無回答	平均(kg)
全体	400	8	38	82	84	76	49	35	12	10	3	3	54.3
	100.0	2.0	9.5	20.5	21.0	19.0	12.3	8.8	3.0	2.5	0.8	0.8	
男子	200	1	2	11	31	53	46	32	12	9	3	0	60.0
	100.0	0.5	1.0	5.5	15.5	26.5	23.0	16.0	6.0	4.5	1.5	0.0	
女子	200	7	36	71	53	23	3	3	0	1	0	3	48.6
	100.0	3.5	18.0	35.5	26.5	11.5	1.5	1.5	0.0	0.5	0.0	1.5	

F7. 身長と体重 <肥満度(日比式)>

	サンプル数	やせすぎ	やせ気味	普通／標準	過体重／太り気味	肥満	無回答
全体	400 100.0	20 5.0	93 23.3	246 61.5	26 6.5	12 3.0	3 0.8
男子	200 100.0	5 2.5	37 18.5	131 65.5	19 9.5	8 4.0	0 0.0
女子	200 100.0	15 7.5	56 28.0	115 57.5	7 3.5	4 2.0	3 1.5

※日比式は体重と身長別に算出した標準体重から肥満度を判定

$$\text{肥満度} = (\text{体重(kg)} - \text{標準体重(kg)}) \div \text{標準体重(kg)} \times 100$$

−20%未満「やせすぎ」、−20〜−10%未満「やせ気味」、−10〜10%未満「普通／標準」、10〜20%未満「過体重／ふとり気味」、20%以上「肥満」

F8. 食物アレルギーの有無

サンプル数	ある	ない
400	15	385
100.0	3.8	96.3

F8-1. アレルギー反応がでたのは何歳くらいか (平均:5.3歳)

サンプル数	0〜1歳	2〜3歳	4〜5歳	6〜8歳	9〜12歳	13歳以降	無回答
15	3	4	1	1	4	0	2
100.0	20.0	26.7	6.7	6.7	26.7	0.0	13.3

調査結果の内容

1. 朝ごはん

1-1. 家で朝ごはんを食べる回数

朝ごはんを「毎日」家で食べる人が7割強(72.5%)を占めるが、「食べない」(6.5%)という人もみられる。平均は、週に「5.9回」。

朝ごはんを家で食べない日がある理由は、「起きるのが遅い」(75.5%)が突出して多く、次いで「食欲がない」(39.1%)。

一緒に食べる人は「きょうだい」(47.9%)が最も多いが、次いで「ひとりで」(44.7%)もそれに近い割合。以下、「母親」(37.2%)、「父親」(20.6%)の順。

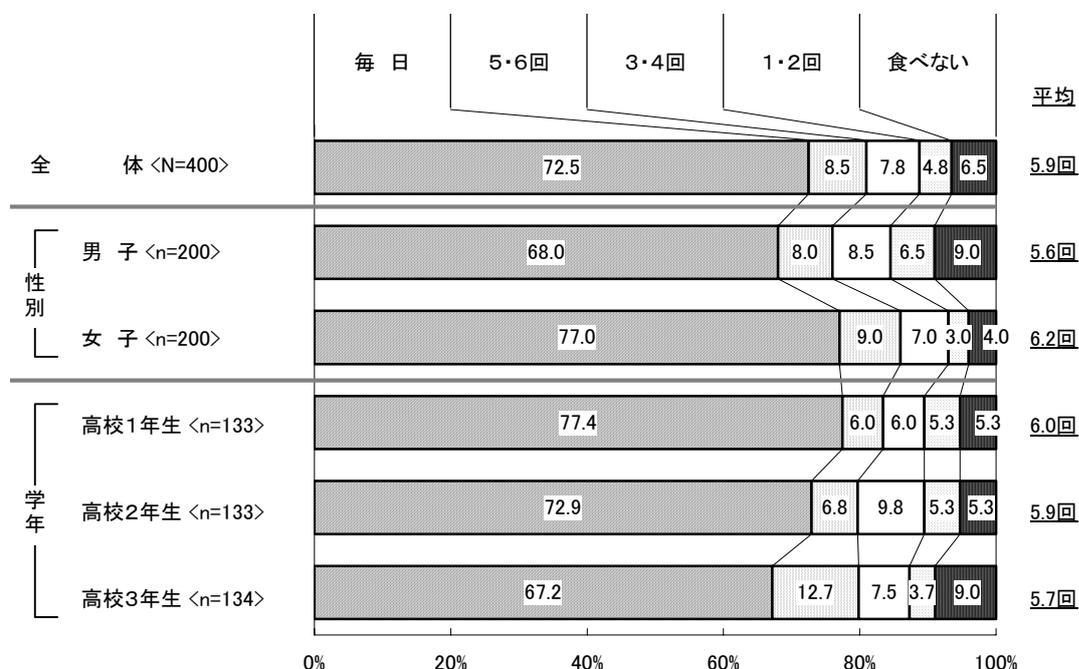
朝ごはんをひとりで食べるのは、「家を出るのが家族より早いから」(51.5%)が最も多く、次いで「家を出るのが家族より遅いから」(28.1%)と、“家族と生活時間が違う”という理由が多い。

朝ごはんに食べているものは、「パン」(73.5%)の方が「ごはん」(67.4%)よりも多く、“朝はパン食”という傾向が強い。以下、「卵料理」(46.3%)、「味噌汁」(43.9%)、「牛乳・ヨーグルト」(38.2%)、「ハム・ベーコン」(34.8%)など、どちらかという洋食系が多い。

●《女子》の方が“洋食”、《男子》の方が“和食”志向。

7割近くの人が家族と“同じ” (68.4%)朝ごはんを食べており、“違う” (16.6%)という人は少ない。

図 1. 家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているか



家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているかをみると、「毎日」という人が7割強(72.5%)と多数を占めています。逆に言えば3割近い人は毎日食べておらず、「5・6回」(8.5%)、「3・4回」(7.8%)、「1・2回」(4.8%)、そして中には「食べない」(6.5%)という人も少数ながらみられます。朝ごはんは、三食の中でも大切とされていますが、全員が毎日摂取しているというわけではないようです。なお、平均は週に「5.9回」となっています。

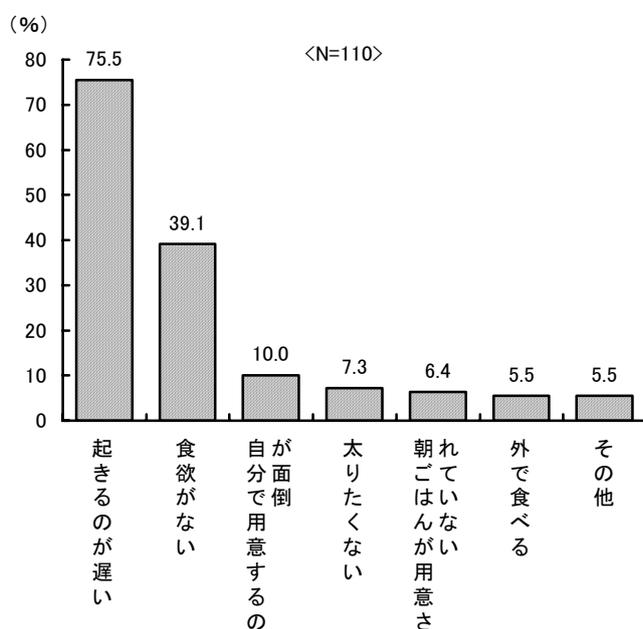
性別にみると、男女とも「毎日」が多数を占めていますが、《男子》(68.0%)よりも《女子》(77.0%)の方がより高い割合です。

学年別にみると、「毎日」食べる割合は学年が低いほど高く、《高校1年生》(77.4%)では《高校3年生》(67.2%)よりも10ポイントほど高くなっています。

【前回調査との比較】

2005年に同じく高校生を対象に実施した調査と比較してみると、「毎日」食べている割合は前回68.8%→今回72.5%とやや増えていますが、平均は「6.0回」→「5.9回」とやや減っており、大きな変化はありません。

図 2. 朝ごはんを家で食べない日がある理由（複数回答）



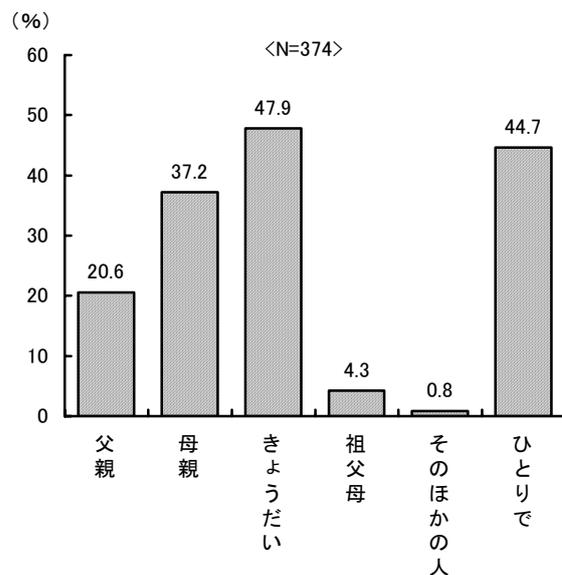
性別	男子 <n=64>	81.3	37.5	9.4	3.1	4.7	3.1	3.1
女子 <n=46>	67.4	41.3	10.9	13.0	8.7	8.7	8.7	8.7

朝ごはんを家で食べない日がある人に対して、その理由を聞いてみたところ、「起きるのが遅い」を4人に3人(75.5%)の人があげており、勉強あるいはそれ以外の理由で、遅寝遅起きの高校生が多いようです。次いで、「食欲がない」(39.1%)が4割弱で続き、この2つの理由が目立っています。そのほかの回答はいずれも少数で、「自分で用意するのが面倒」(10.0%)、「太りたくない」(7.3%)などが続いています。

性別にみると、いずれも「起きるのが遅い」が最も多くなっていますが、《女子》(67.4%)よりも《男子》(81.3%)の方が10ポイント以上高率です。

1-2. 誰と一緒に朝ごはんを食べることが多いか

図 3. 誰と一緒に朝ごはんを食べることが多いか（複数回答）



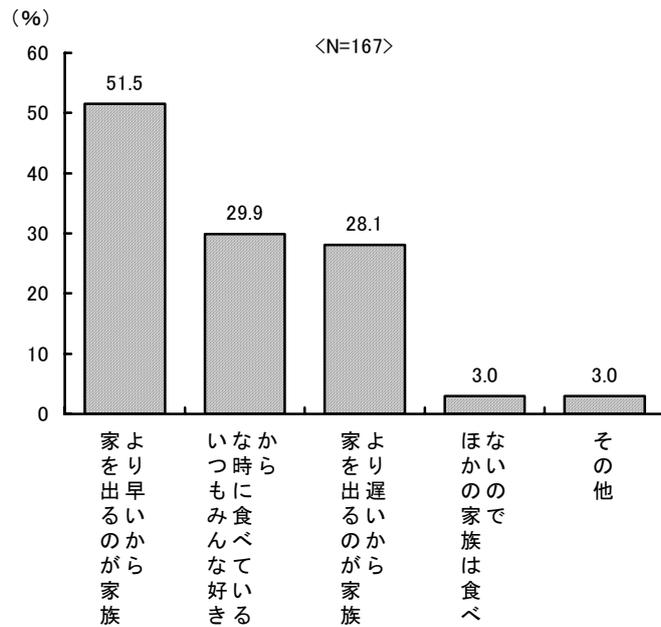
性別	男子 <n=182>	22.0	36.3	47.3	4.4	1.1	46.7
	女子 <n=192>	19.3	38.0	48.4	4.2	0.5	42.7
学年	高校1年生 <n=126>	23.8	41.3	50.8	4.8	-	36.5
	高校2年生 <n=126>	16.7	31.7	42.9	2.4	2.4	51.6
	高校3年生 <n=122>	21.3	38.5	50.0	5.7	-	45.9

誰と一緒に朝ごはんを食べることが多いかをみると、「きょうだい」（47.9%）が半数近くで最も多くなっていますが、次いで「ひとりで」（44.7%）もそれに近い割合を占めているのが目立ちます。以下、「母親」（37.2%）、「父親」（20.6%）などの順となっています。家族に朝食を食べない人がいたり、時間が合わなかったりして、家族そろって食べられないことが少なくないことがうかがえます。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「父親」（前回 29.5%→今回 20.6%）、「母親」（同 47.4%→37.2%）の割合がそれぞれ 10 ポイント前後減り、「ひとりで」（同 37.8%→44.7%）の割合が増えています。7年前と比べ、家族と朝ごはんを食べる機会は減っているようです。

図 4. 朝ごはんをひとりで食べる理由（複数回答）



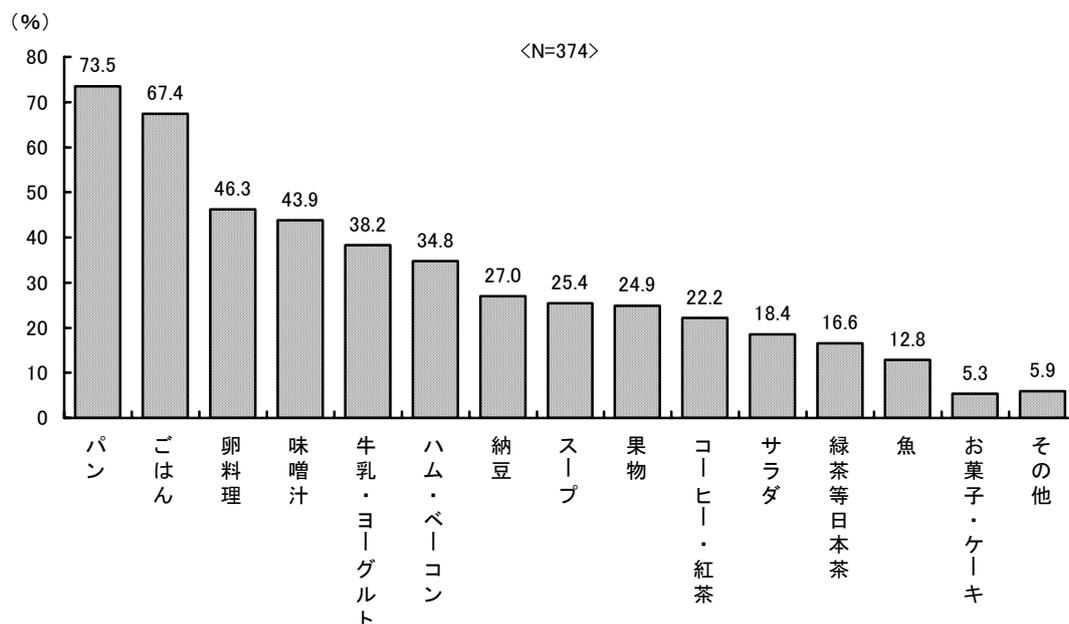
性別	男子 <n=85>	50.6	28.2	28.2	2.4	3.5
	女子 <n=82>	52.4	31.7	28.0	3.7	2.4

朝ごはんをひとりで食べる理由は、「家を出るのが家族より早いから」（51.5%）が半数を超えて最も多く、また「家を出るのが家族より遅いから」も3割弱（28.1%）で、“家族と生活時間が違う”ことが主たる理由となっています。そのほか、「いつもみんな好きな時に食べているから」もほぼ3割（29.9%）と少なくありません。

性別ではほとんど差はありません。

1-3. ふだん、朝ごはんにかけているもの

図 5. ふだん、朝ごはんにかけているもの（複数回答）



性別	男子 <n=182>	69.2	72.0	46.7	49.5	34.6	38.5	30.8	20.3	18.1	22.0	15.4	13.2	14.8	0.5	4.9
	女子 <n=192>	77.6	63.0	45.8	38.5	41.7	31.3	23.4	30.2	31.3	22.4	21.4	19.8	10.9	9.9	6.8
学年	高校1年生 <n=126>	73.0	72.2	40.5	44.4	46.0	33.3	28.6	25.4	23.0	19.0	21.4	19.8	15.1	7.1	4.8
	高校2年生 <n=126>	72.2	64.3	39.7	38.1	34.1	32.5	22.2	23.8	23.8	19.0	18.3	16.7	11.1	4.8	5.6
	高校3年生 <n=122>	75.4	65.6	59.0	49.2	34.4	38.5	30.3	27.0	27.9	28.7	15.6	13.1	12.3	4.1	7.4

ふだん、朝ごはんにかけているものは、「パン」(73.5%)の方が「ごはん」(67.4%)よりも多く、“朝はパン食”という傾向がうかがえます。以下、「卵料理」(46.3%)、「味噌汁」(43.9%)、「牛乳・ヨーグルト」(38.2%)、「ハム・ベーコン」(34.8%)、「納豆」(27.0%)、「スープ」(25.4%)、「果物」(24.9%)、「コーヒー・紅茶」(22.2%)どの順で、どちらかという洋食系が多くなっています。

性別にみると、「ごはん」(男子 72.0%、女子 63.0%)、「味噌汁」(同 49.5%、38.5%)などは《男子》の方が、「パン」(男子 69.2%、女子 77.6%)、「スープ」(同 20.3%、30.2%)などは《女子》の方が高い割合で、《女子》は“洋食”、《男子》は“和食”志向が強いようです。

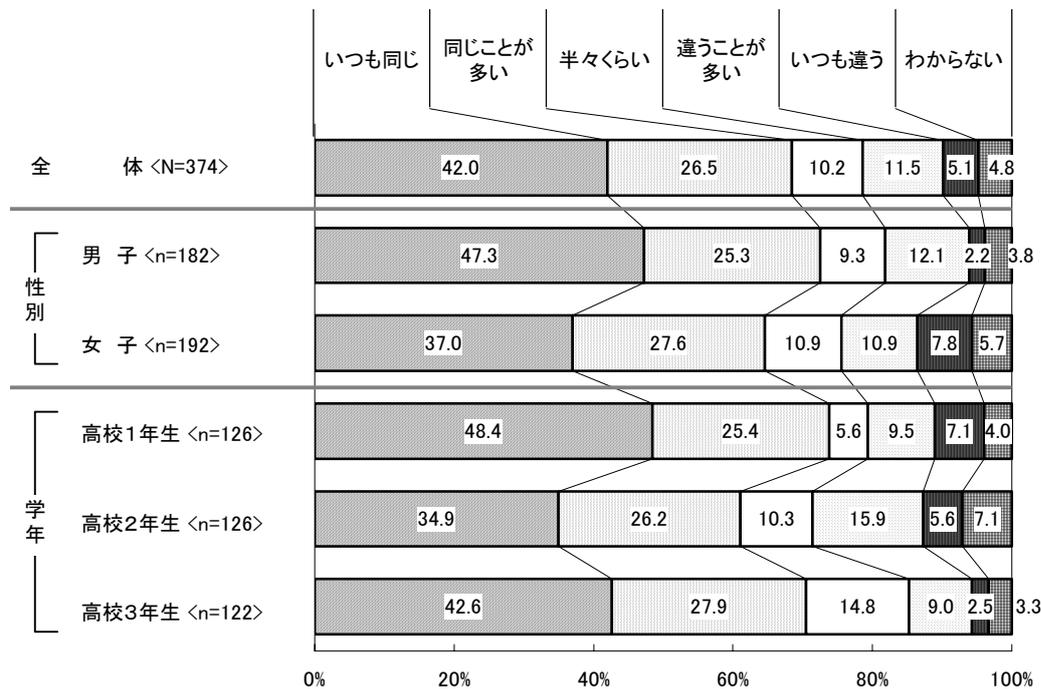
学年別による大きな差はありませんが、「卵料理」は《高校3年生》(59.0%)で高い割合となっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「ごはん」(前回 51.0%→今回 67.4%)、「スープ」(同 15.8%→25.4%)、「果物」(同 13.5%→24.9%)が増えている一方、「卵料理」(前回 55.2%→今回 46.3%)、「牛乳・ヨーグルト」(同 49.5%→38.2%)などは減っています。

1-4. 自分が食べる朝ごはんは、家族の朝ごはんと同じか

図 6. 自分が食べる朝ごはんは、家族の朝ごはんと同じか



自分が食べる朝ごはんは、家族の朝ごはんと同じかどうかをみると、「いつも同じ」が4割強（42.0%）、次いで「同じことが多い」（26.5%）が続き、合わせて“同じ”という人が約7割（68.4%）を占めています。「違うことが多い」（11.5%）や「いつも違う」（5.1%）を合わせた“違う”（16.6%）という人は1割台で、家族と同じごはんを食べているケースが主になっています。

性別にみると、男女とも「いつも同じ」が多くなっていますが、《男子》（47.3%）の方が《女子》（37.0%）よりも10ポイント高い割合です。

学年別にみると、「いつも同じ」の割合は《高校1年生》（48.4%）、《高校3年生》（42.6%）に比べて《高校2年生》（34.9%）ではやや低めです。

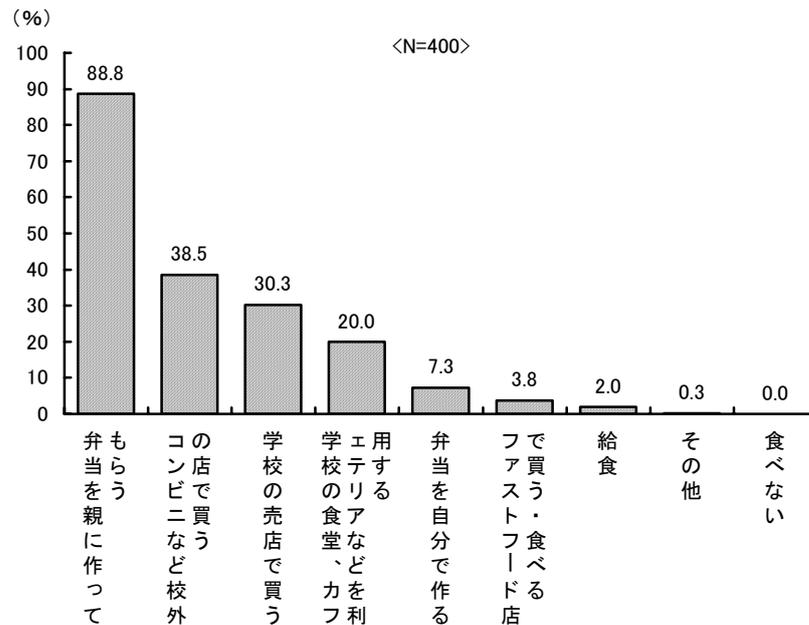
2. 昼ごはん

学校での昼食は、「弁当を親に作ってもらう」(88.8%)が圧倒的だが、「コンビニなど校外の店で買う」(38.5%)、「学校の売店で買う」(30.3%)の“買い食い派”や、「学校の食堂、カフェテリアなどを利用する」(20.0%)人も多い。

よく食べるものは、「ごはんとおかず」(91.3%)が断然多く、以下「おにぎり」(42.0%)、「パン」(41.3%)、「サンドイッチ」(23.3%)などの順で、朝食と違って洋食系よりも和食系の方が優位。

2-1. 普段、学校の昼食をどのように用意したり購入したりしているか

図 7. 普段、学校の昼食をどのように用意したり購入したりしているか (複数回答)



性別	男子 <n=200>	85.5	31.5	31.5	22.5	1.5	3.5	3.0	-	-
	女子 <n=200>	92.0	45.5	29.0	17.5	13.0	4.0	1.0	0.5	-
学年	高校1年生 <n=133>	89.5	30.8	24.1	14.3	7.5	2.3	2.3	0.8	-
	高校2年生 <n=133>	89.5	40.6	28.6	18.8	6.0	3.0	1.5	-	-
	高校3年生 <n=134>	87.3	44.0	38.1	26.9	8.2	6.0	2.2	-	-

普段、学校の昼食をどのように用意したり購入したりしているかをみると、「弁当を親に作ってもらう」(88.8%)が9割近くを占めて圧倒的に多くなっていますが、そのほか「コンビニなど校外の店で買う」(38.5%)、「学校の売店で買う」(30.3%)の“買い食い派”や、「学校の食堂、カフェテリアなどを利用する」(20.0%)人も少なくありません。

性別にみると、「コンビニなど校外の店で買う」は《男子》(31.5%)よりも《女子》(45.5%)の方がかなり多くなっています。また、「弁当を自分で作る」は《女子》では1割強(13.0%)の人が行っています(《男子》では1.5%)。

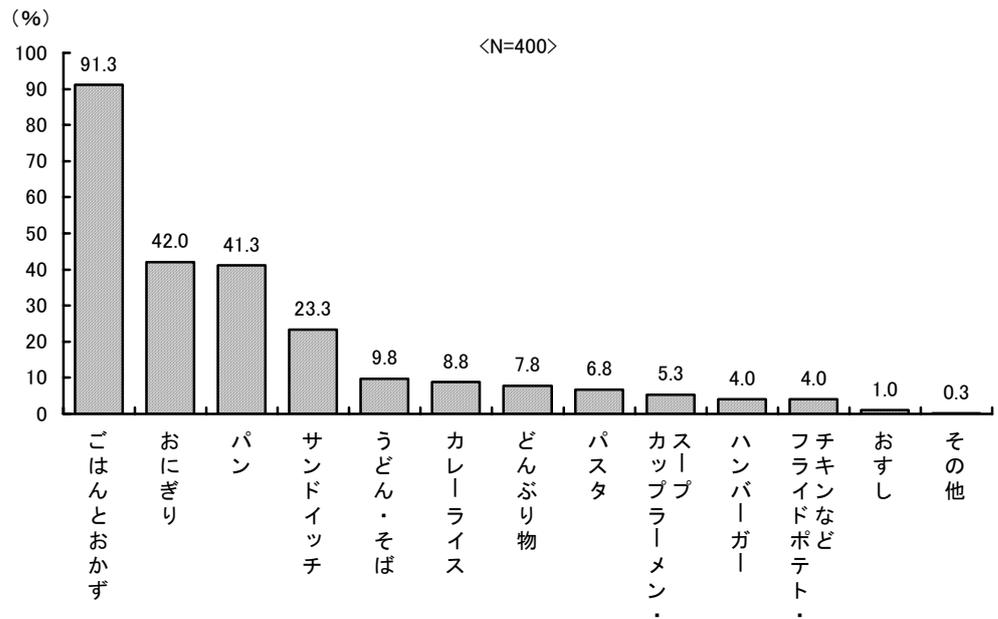
学年別にみると、いずれも「弁当を親に作ってもらう」が9割近くを占めていますが、「コンビニなど校外の店で買う」「学校の売店で買う」「学校の食堂、カフェテリアなどを利用する」は学年が上がるほど高くなっており、学年が上がるにつれて買い食いや食堂で食べるが多くなっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較してみると、「弁当を親に作ってもらう」（前回 65.5%→今回 88.8%）が大きく増えているのが目立ちます。また、「コンビニなど校外の店で買う」（同 29.0%→38.5%）も増えていますが、「学校の売店で買う」（前回 40.5%→今回 30.3%）は10ポイント以上減っています。

2-2. 学校の昼食時によく食べるもの

図 8. 学校の昼食時によく食べるもの（複数回答）



性別	男子 <n=200>	90.5	36.5	35.5	16.0	13.0	14.0	11.5	4.5	8.0	6.0	5.0	1.0	-
	女子 <n=200>	92.0	47.5	47.0	30.5	6.5	3.5	4.0	9.0	2.5	2.0	3.0	1.0	0.5
学年	高校1年生 <n=133>	91.7	41.4	42.9	20.3	6.8	8.3	6.0	6.8	2.3	3.0	5.3	1.5	-
	高校2年生 <n=133>	91.0	38.3	38.3	24.1	6.8	6.8	6.0	4.5	3.8	3.8	3.0	0.8	-
	高校3年生 <n=134>	91.0	46.3	42.5	25.4	15.7	11.2	11.2	9.0	9.7	5.2	3.7	0.7	0.7

学校の昼食時によく食べるものは、「ごはんとおかず」（91.3%）が9割を超えて断然多くなっています。以下、「おにぎり」（42.0%）、「パン」（41.3%）が4割台、「サンドイッチ」（23.3%）が2割台で続いています。先にみた“朝食”の場合と違い、洋食系よりも和食系の方がどちらかと言うと優位なようです。

性別にみると、男女とも「ごはんとおかず」が圧倒的に多い点は変わりませんが、「おにぎり」（男子 36.5%、女子 47.5%）、「パン」（同 35.5%、47.0%）、「サンドイッチ」（同 16.0%、30.5%）は《女子》の方が多く、対し、「カレーライス」（男子 14.0%、女子 3.5%）は《男子》の方が多くあげています。

学年別にみると、全般的にあまり大きな差はありませんが、《高校3年生》で高い割合となっている項目が多く、3年生になると選択肢が広がるようです。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「ごはんとおかず」（前回 67.9%→今回 91.3%）が今回20ポイント以上増えているのが目立ちます。一方、「カップラーメン・スープ」（前回 17.5%→今回 5.3%）などは今回減っています。

3. タごはん

8割近く(77.8%)は「毎日」家で夕食を食べるが、“家で毎日は食べない”(22.3%)高校生も。

タごはんを家で食べない日がある理由は、「外で食べる」(53.9%)が最も多く、次いで「塾や習い事がある」(36.0%)、「太りたくない」(11.2%)など。

一緒にタごはんを食べることが多い人は、「母親」(82.5%)、「きょうだい」(68.0%)、「父親」(45.8%)などが多いが、「ひとりで」も2割(20.3%)。

「ひとりで」食べる理由は、「部活やスポーツクラブで遅くなるから」(44.4%)、「塾や習い事に行くから」(42.0%)と“時間が合わない”という理由が多い。

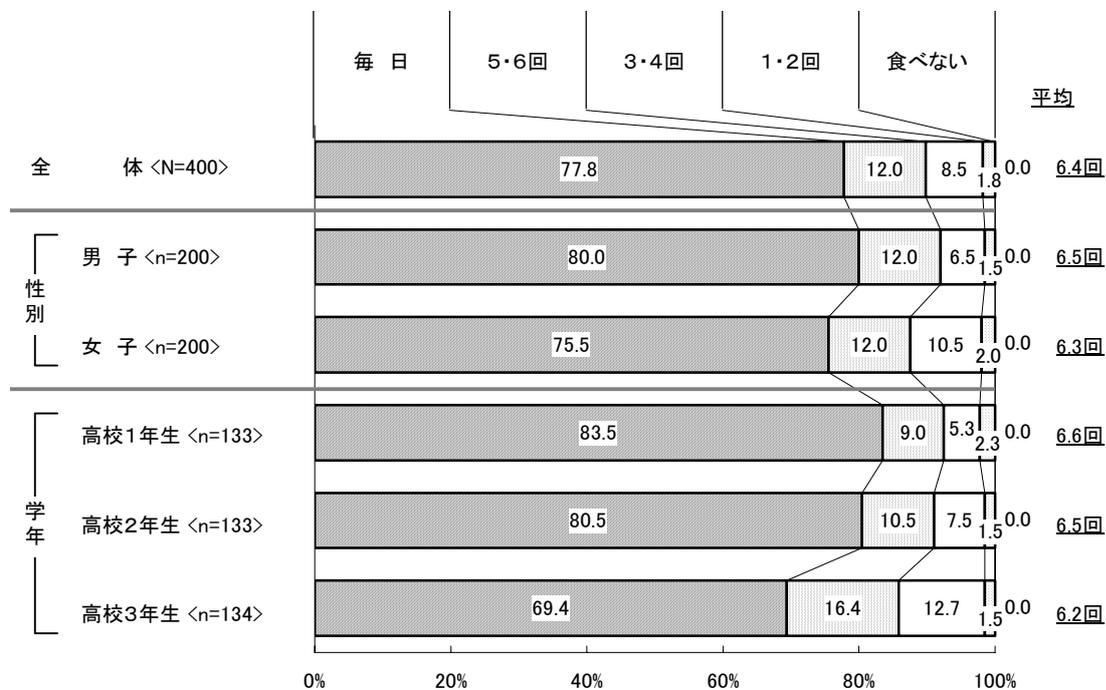
よく出てくる料理は、「野菜などの炒め物」(73.0%)、「味噌汁」(68.8%)、「サラダ」(66.8%)、「チキンなどの揚げ物」(66.8%)、「焼き魚」(64.0%)、「シチュー・カレー」(62.8%)、「野菜・魚などの煮物」(62.0%)など、洋食系・和食系を問わずさまざま。

好きな料理は、「カレーライス」(92件)と「ハンバーグ」(88件)が特に多く、以下「からあげ」(66件)、「ギョウザ」(47件)、「肉料理」(46件)、「パスタ・スパゲティ」(44件)などの順。

「買ったおかず」など手作り以外のものが出る頻度は、「1・2回」(38.3%)、「3・4回」(14.5%)など“出る”(58.3%)という家庭が多く、「出ない」(21.3%)は少数。

3-1. 家で週に何回くらい「タごはん」を食べているか

図 9. 家で週に何回くらい「タごはん」を食べているか



家で週に何回くらい「タごはん」を食べているかをみると、「毎日」が8割近く(77.8%)を占めていますが、残りの2割強は「食べない日がある」(22.3%)人で、具体的には「5・6回」(12.0%)、「3・4回」(8.5%)、「1・2回」(1.8%)などとなっています。平均は、週に「6.4回」です。

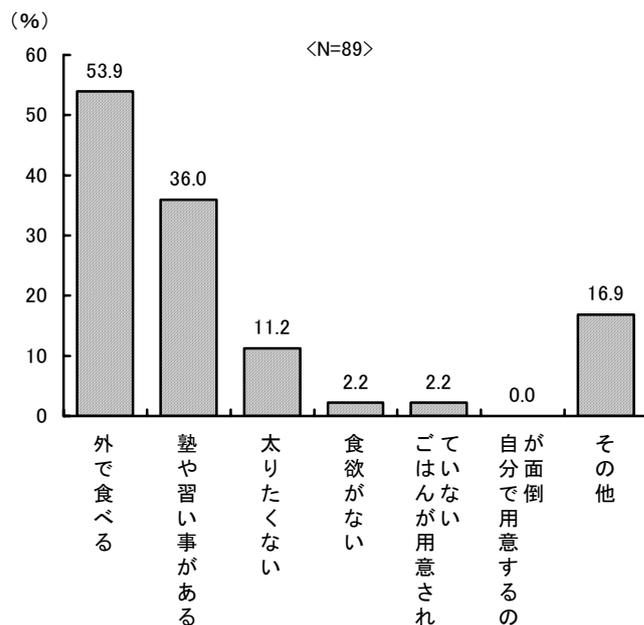
性別にみると、《女子》よりも《男子》の方が家で「夕ごはん」を食べる頻度はやや高くなっています。

学年別にみると、学年が上がるほど「毎日」食べる割合が低くなっており、特に《高校1年生》(83.5%)、《高校2年生》(80.5%)の8割台に比べ、《高校3年生》(69.4%)では7割に満たない割合にとどまっています。受験などの影響があるのでしょうか。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「毎日」の割合は前回の「81.0%」から今回の「77.8%」とわずかに減り、週平均の回数も前回「6.5回」→今回「6.4回」とわずかながら減っています。

図 10. 夕ごはんを家で食べない日がある理由（複数回答）



性別	男子 <n=40>	60.0	40.0	-	2.5	-	-	7.5
	女子 <n=49>	49.0	32.7	20.4	2.0	4.1	-	24.5
学年	高校1年生 <n=22>	40.9	40.9	18.2	4.5	4.5	-	13.6
	高校2年生 <n=26>	57.7	34.6	7.7	3.8	3.8	-	11.5
	高校3年生 <n=41>	58.5	34.1	9.8	-	-	-	22.0

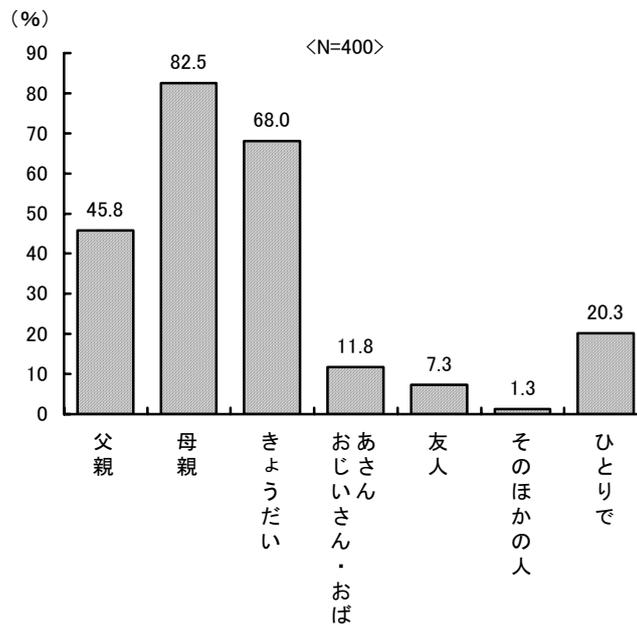
「毎日」以外の回答をした人に対し、夕ごはんを家で食べない日がある理由を聞いたところ、「外で食べる」(53.9%)を半数以上があげて最も多く、次いで「塾や習い事がある」(36.0%)、「太りたくない」(11.2%)などが続いています。

性別にみると、「太りたくない」は《女子》(20.4%)では2割を超えていますが、《男子》(0.0%)では皆無です。一方、「外で食べる」は《男子》(60.0%)の方が《女子》(49.0%)よりも多くなっています。

学年別にみると、学年が上がるほど「外で食べる」をあげる割合が高くなっています。

3-2. 誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いか

図 11. 誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	42.5	79.5	67.0	9.5	6.5	1.0	23.0
	女子 <n=200>	49.0	85.5	69.0	14.0	8.0	1.5	17.5
学年	高校1年生 <n=133>	45.1	85.7	69.9	15.0	6.0	1.5	16.5
	高校2年生 <n=133>	44.4	75.9	63.2	10.5	6.8	1.5	22.6
	高校3年生 <n=134>	47.8	85.8	70.9	9.7	9.0	0.7	21.6
祖母父	同居 <n=77>	42.9	72.7	66.2	53.2	11.7	-	24.7
	非同居 <n=323>	46.4	84.8	68.4	1.9	6.2	1.5	19.2
塾	通っている <n=120>	38.3	80.0	65.8	10.0	6.7	-	29.2
	通っていない <n=280>	48.9	83.6	68.9	12.5	7.5	1.8	16.4

誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いかをみると、「母親」が8割強（82.5%）で最も多く、以下「きょうだい」（68.0%）、「父親」（45.8%）などの順で、家族と食べるが多くなっていますが、「ひとりで」も2割（20.3%）に達しているのが気になるところです。「夕ごはん」は家族団らんの場と言われることが多いのですが、高校生が一人で夕食を食べるもことも少なくないのが現実のようです。

性別や学年別にみても、いずれもあまり大きな差はありません。

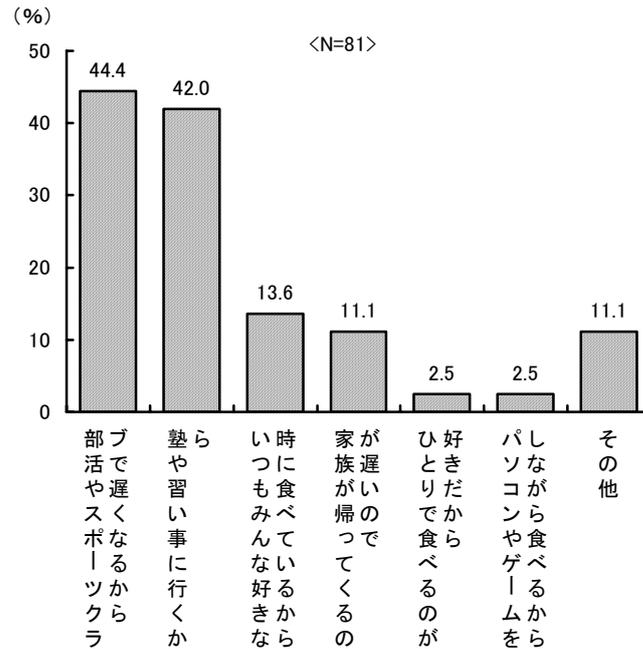
なお、祖父母が《同居》している人では、「おじいさん・おばあさん」（53.2%）と食べるという割合が半数を超えています。

また、塾に《通っている》人は、《通っていない》人に比べて「ひとりで」（順に29.2%、16.4%）食べるという割合がかなり高率です。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較しても、ほとんど結果は変わっていません。

図 12. タごはんをひとりで食べる理由（複数回答）



性別	男子 <n=46>	52.2	41.3	13.0	13.0	2.2	-	8.7
	女子 <n=35>	34.3	42.9	14.3	8.6	2.9	5.7	14.3
学年	高校1年生 <n=22>	40.9	40.9	4.5	18.2	-	-	13.6
	高校2年生 <n=30>	46.7	36.7	20.0	10.0	6.7	6.7	6.7
	高校3年生 <n=29>	44.8	48.3	13.8	6.9	-	-	13.8
塾	通っている <n=35>	25.7	85.7	5.7	8.6	-	-	-
	通っていない <n=46>	58.7	8.7	19.6	13.0	4.3	4.3	19.6

「タごはんを「ひとりで」食べると答えた人の理由」をみると、「部活やスポーツクラブで遅くなるから」（44.4%）、「塾や習い事に行くから」（42.0%）といった“用事があって時間が合わない”という理由がともに4割台で多く、以下「いつもみんな好きな時に食べているから」（13.6%）、「家族が帰ってくるのが遅いので」（11.1%）などの順となっています。

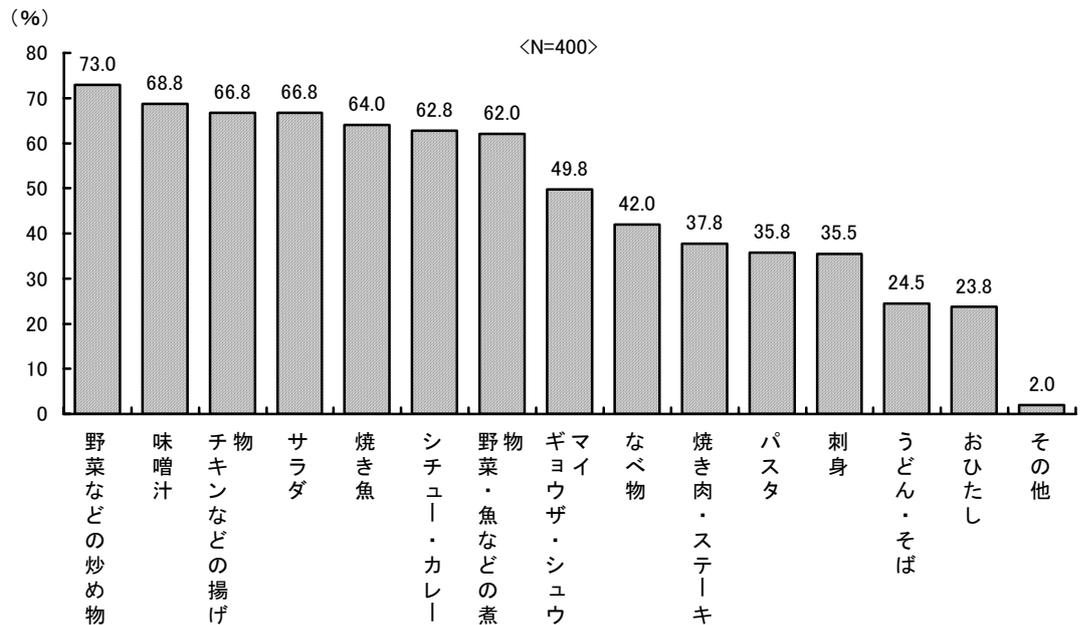
性別にみると、「部活やスポーツクラブで遅くなるから」は《女子》（34.3%）よりも《男子》（52.2%）の方がかなり高い割合です。

学年別にみると、サンプル数が少ないことによる数値のぶれはありますが、目立った傾向の差はみられません。

また、塾に《通っている》人では「塾や習い事に行くから」（85.7%）が理由の大半を占めていますが、《通っていない》人では「部活やスポーツクラブで遅くなるから」（58.7%）が最も多くなっています。

3-3. 家の夕ごはんによく出てくる料理・食品

図 13. 家の夕ごはんによく出てくる料理・食品（複数回答）



性別	男子 <n=200>	70.5	67.5	71.0	64.0	66.0	68.5	58.5	55.0	42.5	46.0	33.5	35.0	22.0	24.5	2.5
	女子 <n=200>	75.5	70.0	62.5	69.5	62.0	57.0	65.5	44.5	41.5	29.5	38.0	36.0	27.0	23.0	1.5

家の夕ごはんによく出てくる料理・食品は、「野菜などの炒め物」(73.0%)が最も多く、以下「味噌汁」(68.8%)、「サラダ」(66.8%)、「チキンなどの揚げ物」(66.8%)、「焼き魚」(64.0%)、「シチュー・カレー」(62.8%)、「野菜・魚などの煮物」(62.0%)などの順となっており、洋食系・和食系を問わずさまざまな料理が出てきているようです。

性別にみると、「焼き肉・ステーキ」(男子46.0%、女子29.5%)、「シチュー・カレー」(同68.5%、57.0%)、「ギョウザ・シューマイ」(同55.0%、44.5%)などでは《男子》の方が高い割合となっています。一方、《女子》の方が高い割合の料理はあまり目につきません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較すると、「味噌汁」(前回40.0%→今回68.8%)、「サラダ」(同46.5%→66.8%)、「パスタ」(同17.5%→35.8%)、「野菜・魚などの煮物」(同44.5%→62.0%)など、前回より増えている項目が多く、料理のバラエティが広がっていることがうかがえますが、「焼き肉・ステーキ」(前回57.0%→今回37.8%)は前回よりかなり少なくなっています。

3-4. 家の夕ごはんでは好きな料理・おかず

表 1. 家の夕ごはんでは好きな料理・おかず（自由回答：ベスト10）

順位		件数	男子	女子
1	カレーライス	92	57	35
2	ハンバーグ	88	41	47
3	からあげ	66	35	31
4	ギョウザ	47	25	22
5	肉料理	46	23	23
6	パスタ・スパゲティ	44	15	29
7	サラダ	39	9	30
	味噌汁・スープ	39	15	24
9	煮物	32	5	27
10	鍋	31	13	18

家の夕ごはんでは好きな料理・おかずを自由回答であげてもらったところ、「カレーライス」（92件）と「ハンバーグ」（88件）が特に多く、以下「からあげ」（66件）、「ギョウザ」（47件）、「肉料理」（46件）、「パスタ・スパゲティ」（44件）などの順となっています。

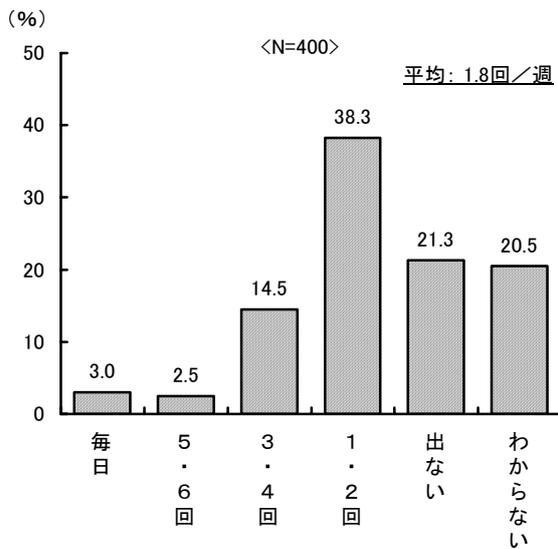
性別にみると、「男子」は「カレーライス」（57件）がトップですが、「女子」では35件とやや少なく、「ハンバーグ」（47件）がトップとなっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較すると、前回も「カレーライス」が1位でしたが、次いで今回ベスト10に入らなかった「シチュー」が2位になっており、今回2位の「ハンバーグ」は、前回は6位でした。家の夕ごはんでは好きな料理・おかずの内容は若干変わってきているようです。

3-5. 家の夕ごはん「買ったおかず」など手作り以外のものは週に何回くらい出るか

図 14. 家の夕ごはん「買ったおかず」など手作り以外のものは週に何回くらい出るか



家の夕ごはん「買ったおかず」など手作り以外のものが週に何回くらい出るか聞いたところ、「わからない」という人が約2割（20.5%）いますが、それ以外では、「出ない」（21.3%）という回答は比較的少数で、「1・2回」（38.3%）、「3・4回」（14.5%）など“出る”（58.3%）ことがあるという回答が6割近くを占めています。便利さゆえか、週に何度かは利用する家庭が多く、平均は週に「1.8回」です。

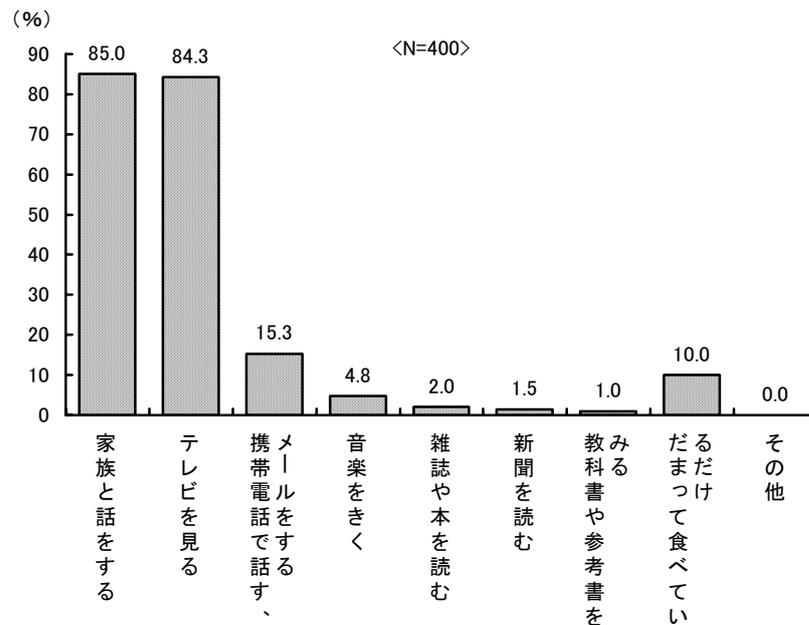
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較すると、あまり大きな変化はなく、平均も前回「1.9回」→今回「1.8回」とあまり変わりません。

1. 家で食事の時にしていること

「家族と話をする」(85.0%)、「テレビを見る」(84.3%)が多いが、「携帯電話で話す、メールをする」(15.3%)や「だまって食べているだけ」(10.0%)という高校生も。

図 15. 家で食事の時にしていること (複数回答)



性別	男子 <n=200>	80.0	83.5	13.0	5.0	2.0	1.5	2.0	11.5	-
	女子 <n=200>	90.0	85.0	17.5	4.5	2.0	1.5	-	8.5	-
学年	高校1年生 <n=133>	86.5	82.7	15.0	3.8	3.0	0.8	0.8	9.8	-
	高校2年生 <n=133>	78.9	86.5	18.8	3.0	2.3	0.8	1.5	12.8	-
	高校3年生 <n=134>	89.6	83.6	11.9	7.5	0.7	3.0	0.7	7.5	-

家で食事の時にしていることはどんなことでしょうか。「家族と話をする」(85.0%)、「テレビを見る」(84.3%)の2項目がともに8割台で多くなっています。そのほかの項目はいずれもあまり多くありませんが、「携帯電話で話す、メールをする」(15.3%)や「だまって食べているだけ」(10.0%)などがみられます。

性別にみると、あまり大きな傾向の差はありませんが、「家族と話をする」の割合は《男子》(80.0%)よりも《女子》(90.0%)の方が10ポイント高い割合です。

学年別ではあまり大きな差はみられません。

【前回調査との比較】

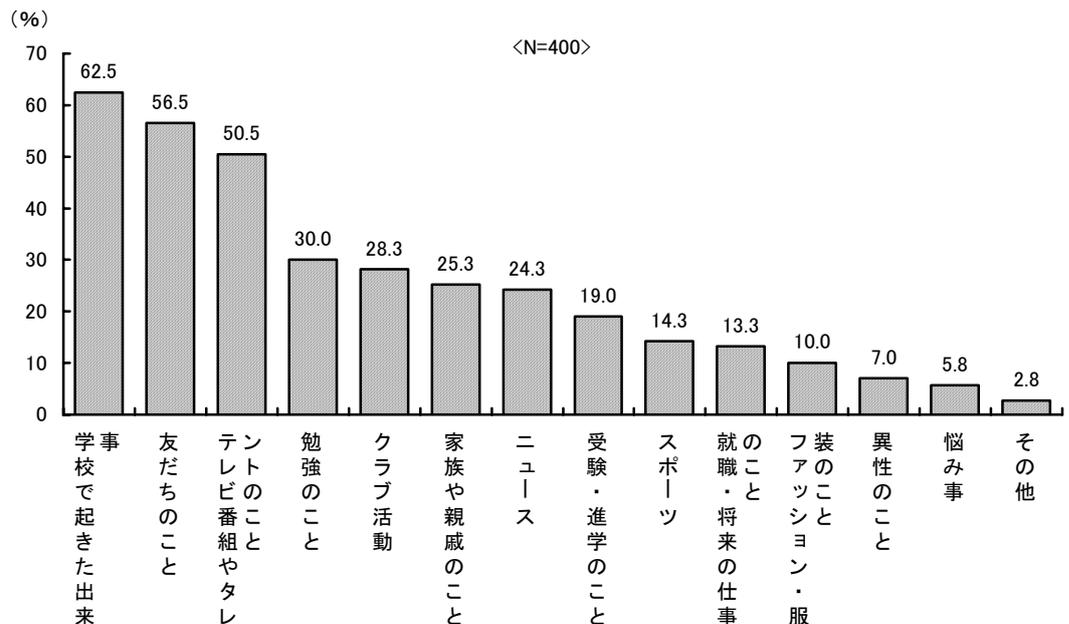
2005年に実施した前回の調査と比べ、「家族と話をする」(前回70.3%→今回85.0%)、「テレビを見る」(同65.3%→84.3%)など、前回より高い割合となっている項目が多くなっています。男子は「だまって食べているだけ」(21.5%→11.5%)と減少し、男子も団らんを大切にする傾向になっています。

2. 家で食事の時、家族と話していること

「学校で起きた出来事」(62.5%)、「友だちのこと」(56.5%)、「勉強のこと」(30.0%)、「クラブ活動」(28.3%)、「家族や親戚のこと」(25.3%)など“子どもの身の回りの話題”や、「テレビ番組やタレントのこと」(50.5%)、「ニュース」(24.3%)などを話題にしている。

●「学校で起きた出来事」「友だちのこと」「テレビ番組やタレントのこと」など、《女子》の方が高い割合の項目が多いが、「スポーツ」は《男子》の方がよく話題にしている。

図 16. 家で食事の時、家族と話していること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	53.5	45.0	44.0	29.0	31.0	22.0	25.5	21.5	22.0	14.0	5.0	3.5	2.0	4.0
	女子 <n=200>	71.5	68.0	57.0	31.0	25.5	28.5	23.0	16.5	6.5	12.5	15.0	10.5	9.5	1.5
学年	高校1年生 <n=133>	64.7	60.9	51.1	27.1	30.8	23.3	20.3	12.8	19.5	10.5	8.3	7.5	3.8	3.0
	高校2年生 <n=133>	65.4	52.6	51.9	36.1	29.3	27.8	21.1	19.5	9.8	15.8	8.3	5.3	8.3	3.8
	高校3年生 <n=134>	57.5	56.0	48.5	26.9	24.6	24.6	31.3	24.6	13.4	13.4	13.4	8.2	5.2	1.5

家で食事の時、家族と話していることは、「学校で起きた出来事」(62.5%)、「友だちのこと」(56.5%)、「勉強のこと」(30.0%)、「クラブ活動」(28.3%)、「家族や親戚のこと」(25.3%)など“子どもの身の回りの話題”や、「テレビ番組やタレントのこと」(50.5%)、「ニュース」(24.3%)などの順となっています。

性別にみると、「学校で起きた出来事」(男子 53.5%、女子 71.5%)、「友だちのこと」(同 45.0%、68.0%)、「テレビ番組やタレントのこと」(同 44.0%、57.0%)、「ファッション・服装のこと」(同 5.0%、15.0%)など、《女子》の方が高い割合の項目が多く、《女子》の方がいろいろなことを話題にしていることがうかがえますが、「スポーツ」は《女子》(6.5%)よりも《男子》(22.0%)の方がかなり高い割合となっています。

学年別にみると、「受験・進学のこと」は学年が上がるほど高い割合で、《高校3年生》(24.6%)では《高校1年生》(12.8%)のほぼ2倍の割合となっています。

【前回調査との比較】

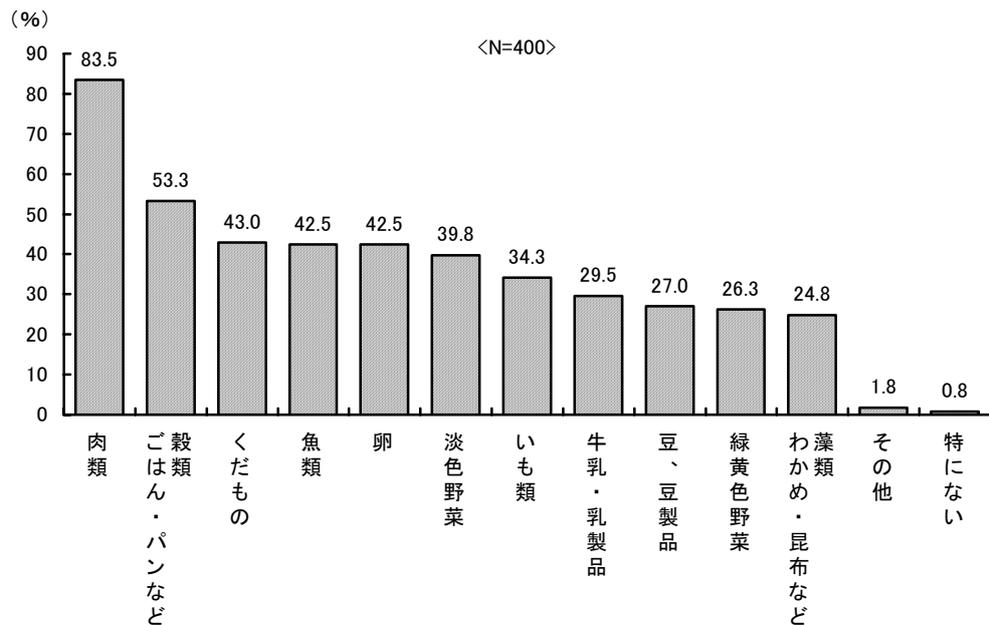
2005年に実施した前回の調査と比べ、「友だちのこと」（前回 35.0%→今回 56.5%）、「学校で起きた出来事」（同 48.5%→62.5%）など、割合のアップしている項目が多く、食事の時の話題は増えているようです。

3. 毎日の食事で好きな食材

「肉類」(83.5%)が突出して多く、以下「ごはん・パンなど穀類」(53.3%)、「くだもの」(43.0%)、「魚類」(42.5%)、「卵」(42.5%)、「淡色野菜」(39.8%)、「いも類」(34.3%)などの順。

●《男子》は「肉類」、《女子》は「くだもの」「淡色野菜」「いも類」「わかめ・昆布など藻類」が高く、《女子》の方がバランス志向。

図 17. 毎日の食事で好きな食材（複数回答）



性別	割合 (%)													
	男子 <n=200>	49.5	27.5	35.5	39.0	26.5	21.5	27.5	21.0	20.0	14.0	1.5	1.0	
女子 <n=200>	74.0	57.0	58.5	49.5	46.0	53.0	47.0	31.5	33.0	32.5	35.5	2.0	0.5	

毎日の食事で好きな食材をみると、「肉類」を8割強（83.5%）があげて突出して多くなっています。以下、「ごはん・パンなど穀類」（53.3%）、「くだもの」（43.0%）、「魚類」（42.5%）、「卵」（42.5%）、「淡色野菜」（39.8%）、「いも類」（34.3%）などが続いています。

性別にみると、男女とも「肉類」が最も多くなっていますが、その割合は《女子》（74.0%）よりも《男子》（93.0%）の方がかなり高くなっています。一方、「くだもの」（男子27.5%、女子58.5%）、「淡色野菜」（同26.5%、53.0%）、「いも類」（同21.5%、47.0%）、「わかめ・昆布など藻類」（同14.0%、35.5%）など、そのほかの食材は《女子》の方が高い割合のものが多く、《女子》の好みの方がバランスはとれているようです。

【前回調査との比較】

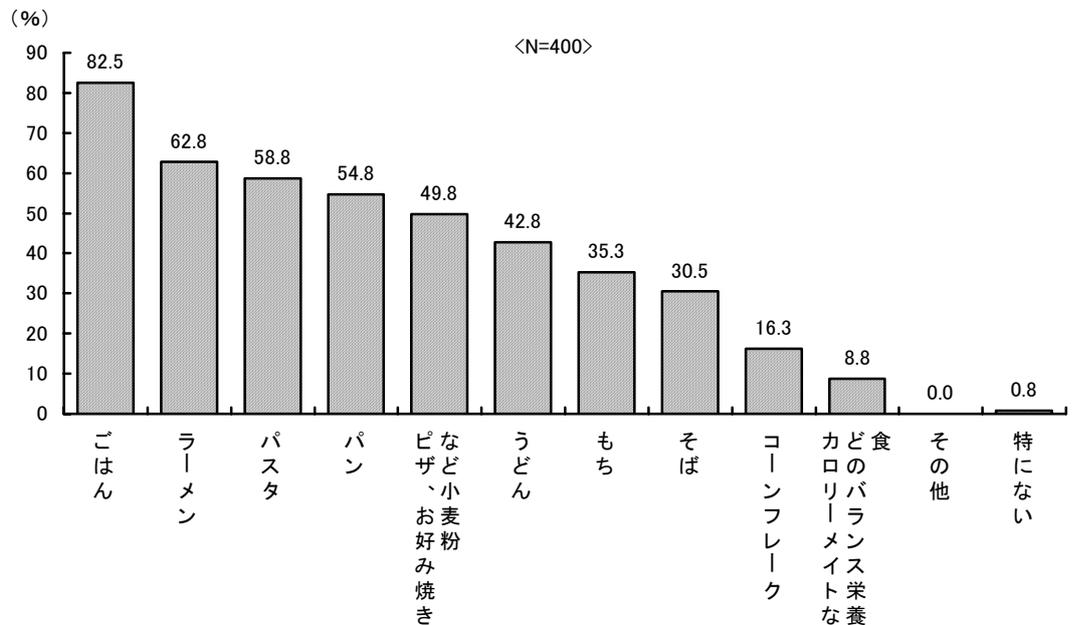
2005年に実施した前回の調査と比べ、「ごはん・パンなど穀類」（前回26.0%→今回53.3%）をはじめ、すべての項目で前回を上回っており、好きな食材が増えているようです。

4. 主食で好きなもの

「ごはん」(82.5%)が最も好きで、以下「ラーメン」(62.8%)、「パスタ」(58.8%)、「パン」(54.8%)、「ピザ、お好み焼きなど小麦粉」(49.8%)、「うどん」(42.8%)など。

●《男子》は「ごはん」「ラーメン」、《女子》は「パスタ」「パン」「もち」「コーンフレーク」が好み。

図 18. 主食で好きなもの（複数回答）



性別	男子 <n=200>	88.0	73.0	52.5	45.5	46.5	39.5	26.5	32.0	10.5	7.0	-	1.5
女子 <n=200>	77.0	52.5	65.0	64.0	53.0	46.0	44.0	29.0	22.0	22.0	10.5	-	-

主食で好きなものは、「ごはん」(82.5%)が突出して多くなっており、以下「ラーメン」(62.8%)、「パスタ」(58.8%)、「パン」(54.8%)、「ピザ、お好み焼きなど小麦粉」(49.8%)、「うどん」(42.8%)、「もち」(35.3%)、「そば」(30.5%)などが続いています。

性別にみると、「ごはん」(男子 88.0%、女子 77.0%)、「ラーメン」(同 73.0%、52.5%)は《男子》の方が、「パスタ」(男子 52.5%、女子 65.0%)、「パン」(同 45.5%、64.0%)、「もち」(同 26.5%、44.0%)、「コーンフレーク」(同 10.5%、22.0%)などは《女子》の方が高く、男女で好みはかなり違うようです。

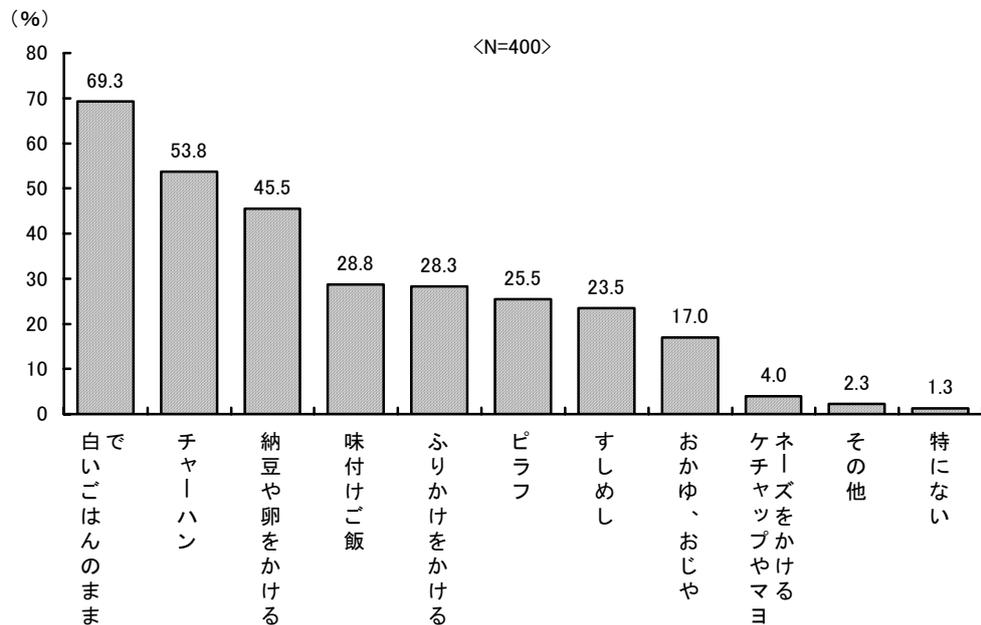
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてみると、「パン」(前回 21.3%→今回 54.8%)、「ラーメン」(同 36.0%→62.8%)、「パスタ」(同 35.8%→58.8%)、「ピザ、お好み焼きなど小麦粉」(同 28.3%→49.8%)、「もち」(同 15.3%→35.3%)など、すべての項目で前回より今回の方が高い割合で、主食で好きなものが増えているようです。

5. 「ごはん」をどのようにして食べるのが好きか

「白いごはんのままで」(69.3%)が最も多く、以下「チャーハン」(53.8%)、「納豆や卵をかける」(45.5%)などの順。

図 19. 「ごはん」をどのようにして食べるのが好きか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	76.5	57.5	37.5	22.0	26.0	24.5	17.0	9.0	3.5	1.5	0.5
	女子 <n=200>	62.0	50.0	53.5	35.5	30.5	26.5	30.0	25.0	4.5	3.0	2.0

「ごはん」をどのようにして食べるのが好きでしょうか。

「白いごはんのままで」(69.3%)が最も多く、以下「チャーハン」(53.8%)、「納豆や卵をかける」(45.5%)、「味付けご飯」(28.8%)、「ふりかけをかける」(28.3%)、「ピラフ」(25.5%)、「すしめし」(23.5%)などの順となっています。

性別にみると、「白いごはんのままで」は《女子》(62.0%)よりも《男子》(76.5%)の方が多くなっていますが、「納豆や卵をかける」(男子 37.5%、女子 53.5%)、「味付けご飯」(同 22.0%、35.5%)、「すしめし」(同 17.0%、30.0%)、「おかゆ、おじや」(同 9.0%、25.0%)などは《女子》の方が高い割合で、女子の方がいろいろな食べ方を楽しんでいるようです。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてみると、「納豆や卵をかける」(前回 21.3%→今回 45.5%)、「チャーハン」(同 37.5%→53.8%)、「ふりかけをかける」(同 15.8%→28.3%)、「すしめし」(同 12.0%→23.5%)など、すべての項目で今回の方が高い割合です。

6. 嫌いな食べ物

「野菜全般」(67 件)、「ピーマン」(43 件)、「トマト」(30 件)、「セロリ」(21 件)、「ゴーヤ」(20 件)、「玉ねぎ・ねぎ」(20 件) など“野菜”が多いほか、「果物(アボカド・柿・バナナなど)」(33 件)、「魚」(30 件)、「牛乳・乳製品」(25 件)、「納豆」(21 件)、「きのこ」(21 件)などが嫌い。

表 2. 嫌いな食べ物 (自由回答 : ベスト 10)

順位		件数	男子	女子
1	野菜全般	67	35	32
2	ピーマン	43	14	29
3	果物(アボカド・柿・バナナなど)	33	8	25
4	トマト	30	15	15
	魚	30	15	15
6	牛乳・乳製品	25	10	15
7	納豆	21	11	10
	セロリ	21	9	12
	きのこ	21	8	13
10	ゴーヤ	20	5	15
	玉ねぎ・ねぎ	20	13	7
	豆類	20	6	14

嫌いな食べ物を自由回答であげてもらったところ、「野菜全般」(67 件)が最も多くなっています。そのほかにも「ピーマン」(43 件)、「トマト」(30 件)、「セロリ」(21 件)、「ゴーヤ」(20 件)、「玉ねぎ・ねぎ」(20 件)など野菜が多いのが目立ち、“野菜嫌い”が多いことが分かります。野菜以外では、「果物(アボカド・柿・バナナなど)」(33 件)、「魚」(30 件)、「牛乳・乳製品」(25 件)、「納豆」(21 件)、「きのこ」(21 件)などがあげられています。

性別にみると、「ピーマン」や「果物(アボカド・柿・バナナなど)」は《男子》よりも《女子》の方が多くあげています。

【前回調査との比較】

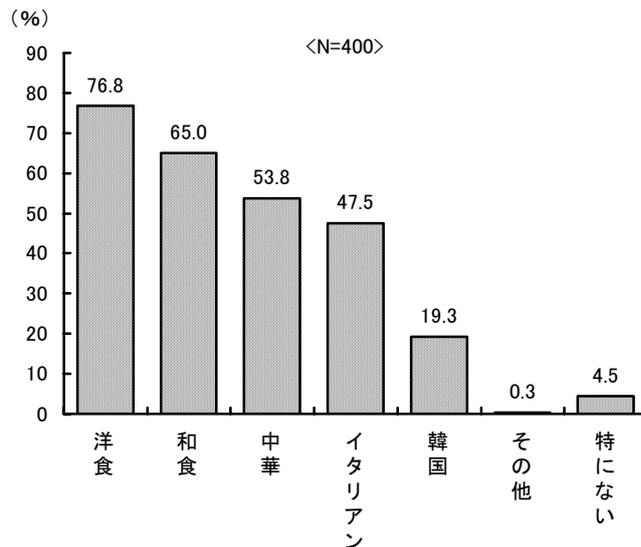
2005 年に実施した前回の調査と比べてみると、前回は「ピーマン」「魚」「セロリ」「野菜全般」「納豆」「レバー」などの順で、おおむね今回と同じような食べ物が上位となっています。

7. 好きな料理のタイプ

「洋食」(76.8%)が最も好きで、以下「和食」(65.0%)、「中華」(53.8%)、「イタリアン」(47.5%)、「韓国」(19.3%)などの順。

●「イタリアン」は《男子》(42.0%)よりも《女子》(53.0%)の方が好き。

図 20. 好きな料理のタイプ (複数回答)



性別	男子 <n=200>	和食	中華	イタリアン	韓国	その他	特にない
男子 <n=200>	76.5	63.5	57.0	42.0	15.5	0.5	7.5
女子 <n=200>	77.0	66.5	50.5	53.0	23.0	-	1.5

「和食」「洋食」などの中から好きな料理のタイプを選んでもらったところ、「洋食」(76.8%)が最も多く、以下「和食」(65.0%)、「中華」(53.8%)、「イタリアン」(47.5%)、「韓国」(19.3%)などの順となっています。

性別にみると、「イタリアン」は《男子》(42.0%)よりも《女子》(53.0%)の方が好きな料理となっています。

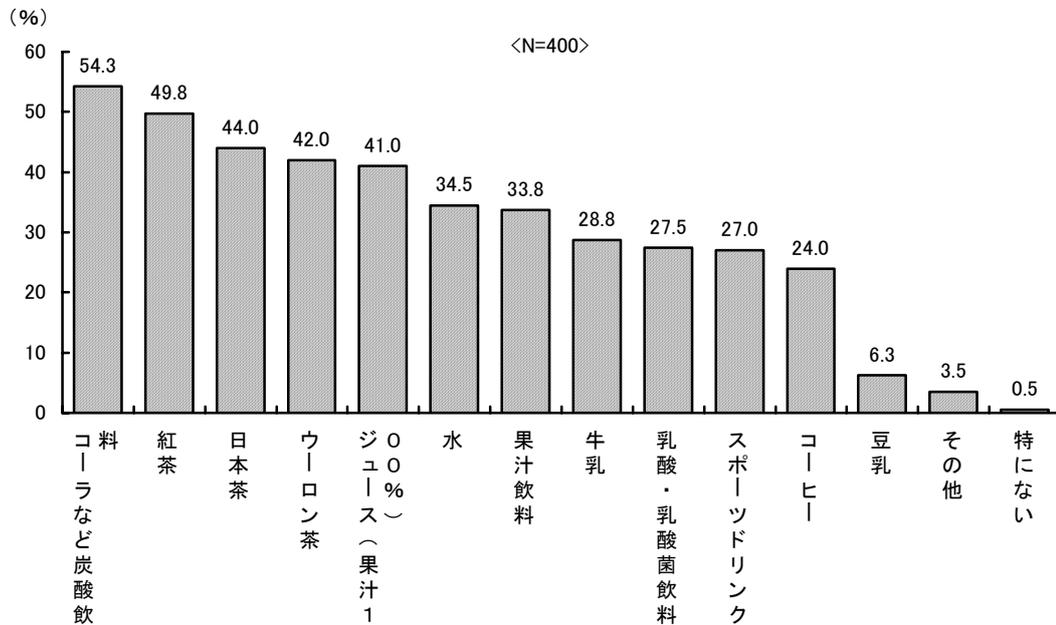
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較すると、ほとんどの項目で前回より高い割合となっており、特に「イタリアン」(前回23.0%→今回47.5%)の人気の高まっています。

8. 好きな飲み物

「コーラなど炭酸飲料」(54.3%)、「紅茶」(49.8%)、「日本茶」(44.0%)、「ウーロン茶」(42.0%)、「ジュース(果汁 100%)」(41.0%)、「水」(34.5%)、「果汁飲料」(33.8%)、「牛乳」(28.8%)、「乳酸・乳酸菌飲料」(27.5%)、「スポーツドリンク」(27.0%)、「コーヒー」(24.0%)など、さまざまな飲料があげられる。

図 21. 好きな飲み物（複数回答）



性別	男子 <n=200>	67.0	37.5	34.5	38.0	37.0	35.5	34.0	33.0	25.0	36.0	31.5	3.5	4.0	0.5
女子 <n=200>	41.5	62.0	53.5	46.0	45.0	33.5	33.5	24.5	30.0	18.0	16.5	9.0	3.0	0.5	

好きな飲み物は、「コーラなど炭酸飲料」(54.3%)が最も多くなっていますが、以下「紅茶」(49.8%)、「日本茶」(44.0%)、「ウーロン茶」(42.0%)、「ジュース(果汁100%)」(41.0%)、「水」(34.5%)、「果汁飲料」(33.8%)、「牛乳」(28.8%)、「乳酸・乳酸菌飲料」(27.5%)、「スポーツドリンク」(27.0%)、「コーヒー」(24.0%)など、清涼飲料から茶系飲料、乳製品などさまざまな飲料があげられています。

性別にみると、《男子》では「コーラなど炭酸飲料」(67.0%)が圧倒的にトップですが、《女子》(41.5%)ではかなり少なめで、「紅茶」(62.0%)、「日本茶」(53.5%)などの方が多くなっています。また、「スポーツドリンク」「コーヒー」も《男子》の方が好んでいます。

【前回調査との比較】

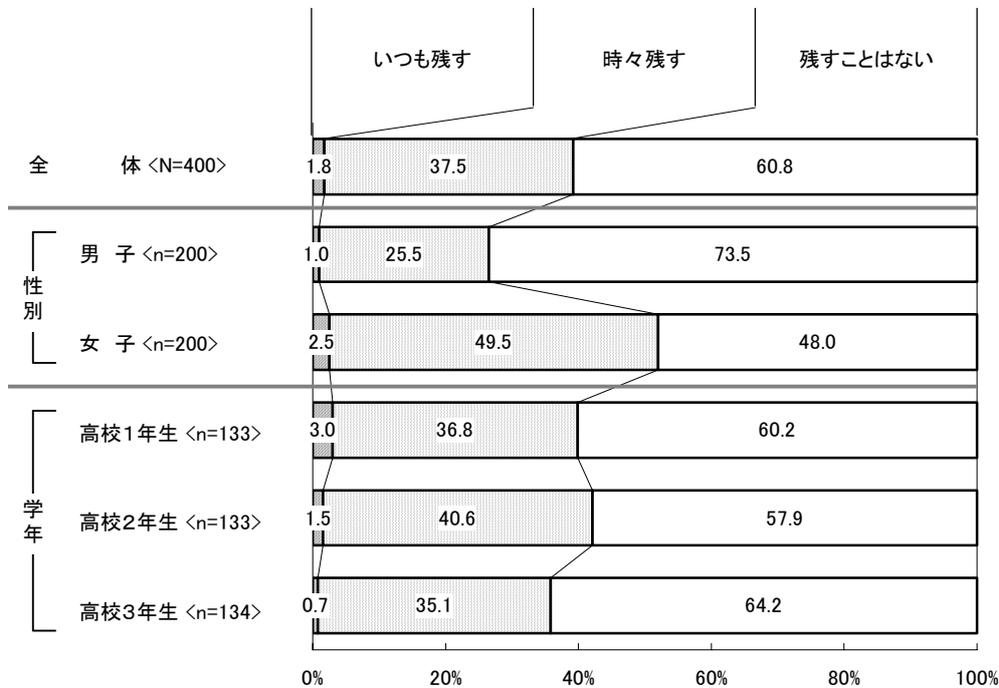
2005年に実施した前回の調査と比べ、前回より高い割合の項目が多くなっていますが、特に「コーラなど炭酸飲料」(前回30.5%→今回54.3%)、「紅茶」(同30.8%→49.8%)では20ポイントほどもアップしています。

9. 食事を残すことがあるか

“残す”(39.3%)人が4割近くに達する。

●《男子》(26.5%)よりも《女子》(52.0%)の方が“残す”割合が高い。

図 22. 食事を残すことがあるか



食事を残すことがあるかどうかをみると、「いつも残す」(1.8%)という人はわずかですが、「時々残す」(37.5%)人はかなりおり、合わせて“残す”(39.3%)という人は4割近くに達しています。「残すことはない」(60.8%)人の方が過半数を占めていますが、“残さず食べる”ことがあたりまえではないようです。

性別にみると、《男子》では「残すことはない」(73.5%)が7割を超えていますが、《女子》では「残すことはない」(48.0%)よりも“残す(いつも+時々)”(52.0%)人の方が多くなっています。《女子》は《男子》に比べて食べる量が少ないことも影響しているのでしょうか。

学年別ではあまり差はありません。

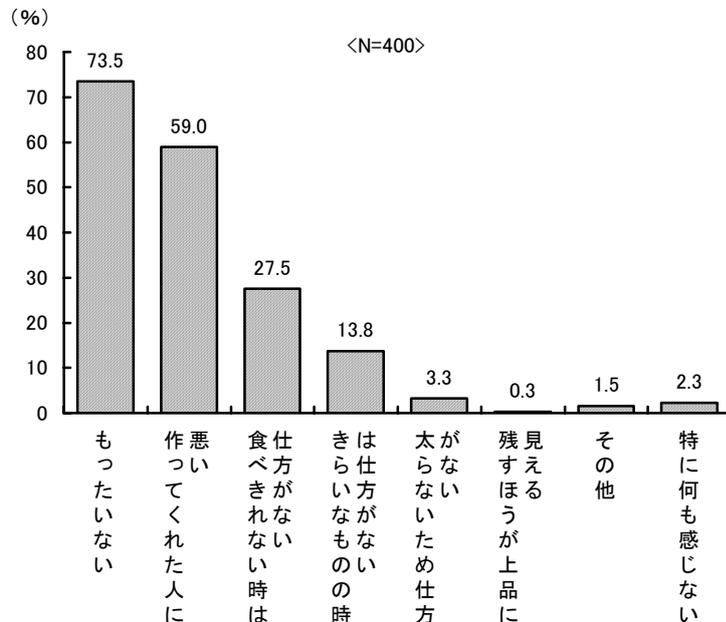
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、“残す(いつも+時々)”(前回45.8%→今回39.3%)がやや減り、「残すことはない」(同54.3%→60.8%)がやや増えており、この点についてはわずかに改善されているようです。

10. 食事を残すことについて、どう思うか

「もったいない」(73.5%)、「作ってくれた人に悪い」(59.0%)と“罪悪感を抱く”人が多く、「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「きれいなものは仕方がない」(13.8%)、「太らないため仕方がない」(3.3%)など“仕方がない”という意見はあまり多くない。

図 23. 食事を残すことについて、どう思うか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	73.0	49.5	21.5	13.5	0.5	-	1.5	4.0
	女子 <n=200>	74.0	68.5	33.5	14.0	6.0	0.5	1.5	0.5
食事	残す <n=157>	56.7	56.1	42.7	19.1	7.6	0.6	1.3	2.5
	残さない <n=243>	84.4	60.9	17.7	10.3	0.4	-	1.6	2.1

食事を残すことについて、どう思っているでしょうか。「もったいない」(73.5%)、「作ってくれた人に悪い」(59.0%)と“罪悪感を抱く”人が多く、「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「きれいなものは仕方がない」(13.8%)、「太らないため仕方がない」(3.3%)など“仕方がない”という意見はあまり多くありません。

性別にみると、「作ってくれた人に悪い」(男子 49.5%、女子 68.5%)と“罪悪感を抱く”割合は《女子》の方が高いのですが、「食べきれない時は仕方がない」(同 21.5%、33.5%)も同様に《女子》の方が高い割合となっています。女子の方が食べきれないことが多いことによるのでしょう。

また、食事を《残す》人は「食べきれない時は仕方がない」(42.7%)という回答が《残さない》(17.7%)人に比べてかなり多くなっています。《残さない》という人は「もったいない」(84.4%)という意識が《残す》(56.7%)人に比べてはるかに高くなっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「もったいない」(前回 37.0%→今回 73.5%)、「作ってくれた人に悪い」(同 34.3%→59.0%)が大幅に増え、「食べきれない時は仕方がない」(前回 43.0%→今回 27.5%)、「特に何も

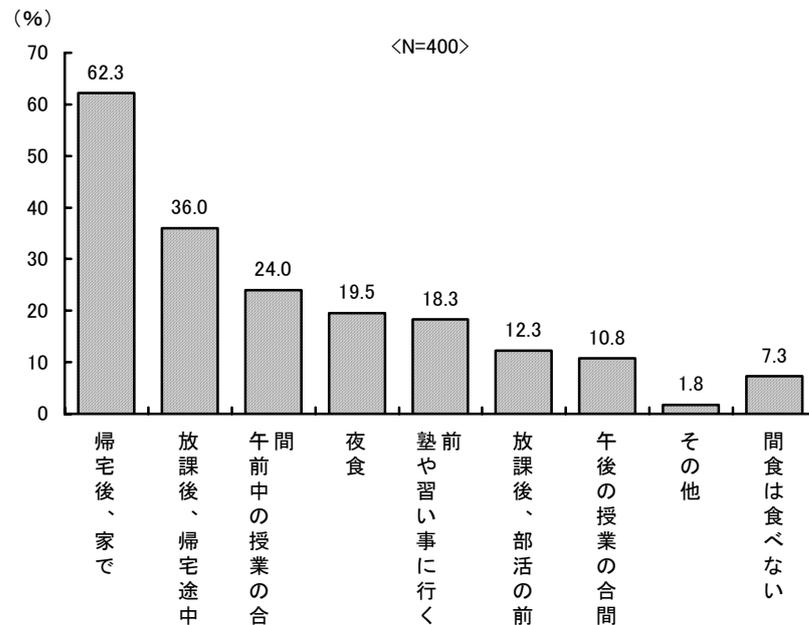
感じない」(同 18.0%→2.3%)が大きく減っています。前回に比べ、残す事への罪悪感を感じる割合が非常に高くなっていることが分かりますが、前項でみたように、実際に残してしまう割合はあまり変わっていないという状況です。

11. 毎日の食事の他に、おやつなどの間食をいつ食べているか

間食を“食べる”(92.8%)人が大半で、時間帯としては「帰宅後、家で」(62.3%)が断然多く、以下「放課後、帰宅途中」(36.0%)、「午前中の授業の合間」(24.0%)、「夜食」(19.5%)、「塾や習い事に行く前」(18.3%)など。

●間食を食べる回数は、1日「2回くらい」(39.4%)、「1回くらい」(32.1%)が多く、平均「1.6回」。

図 24. 毎日の食事の他に、おやつなどの間食をいつ食べているか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	59.0	38.5	16.5	24.0	17.0	12.5	8.5	2.5	10.0
	女子 <n=200>	65.5	33.5	31.5	15.0	19.5	12.0	13.0	1.0	4.5
学年	高校1年生 <n=133>	66.9	32.3	24.1	15.0	19.5	12.0	9.0	3.0	6.8
	高校2年生 <n=133>	59.4	36.8	27.1	19.5	17.3	8.3	13.5	0.8	8.3
	高校3年生 <n=134>	60.4	38.8	20.9	23.9	17.9	16.4	9.7	1.5	6.7

毎日の食事の他に、おやつなどの間食をいつ食べているかをみると、まず「間食は食べない」(7.3%)という人はごくわずかで、大半の人は間食を“食べる”(92.8%)と答えています。その時間帯としては、「帰宅後、家で」(62.3%)が断然多く、6割を超えています。以下、「放課後、帰宅途中」(36.0%)、「午前中の授業の合間」(24.0%)、「夜食」(19.5%)、「塾や習い事に行く前」(18.3%)、「放課後、部活の前」(12.3%)、「午後の授業の合間」(10.8%)など、さまざまな時間帯に間食が行われています。

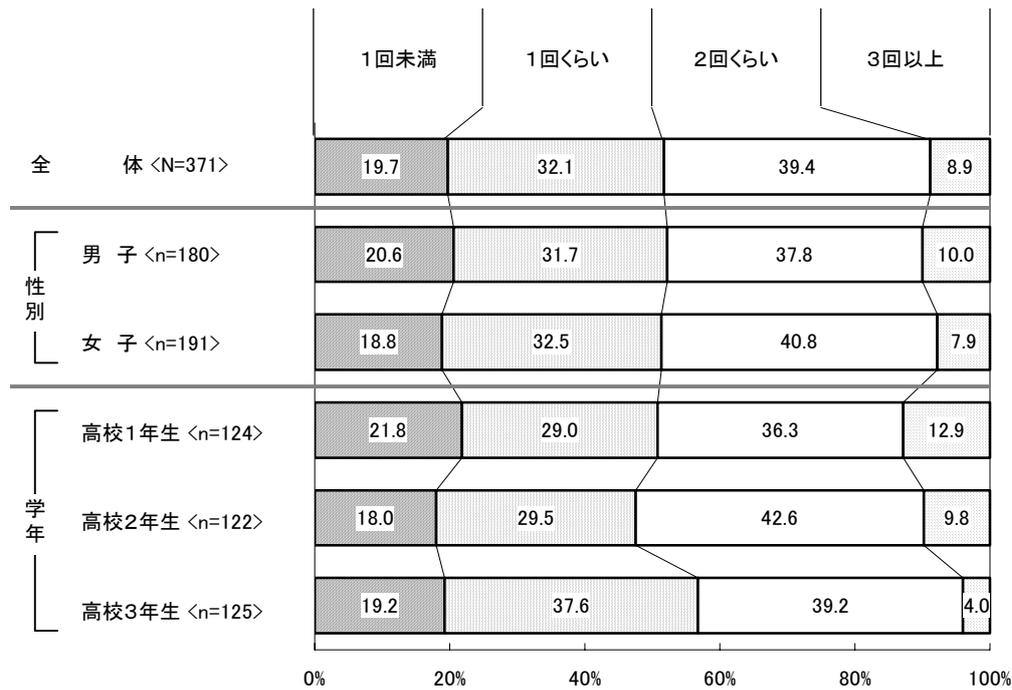
性別にみると、「午前中の授業の合間」は《女子》(31.5%)が《男子》(16.5%)の2倍近い割合です。一方、「夜食」は《女子》(15.0%)よりも《男子》(24.0%)の方が多くなっています。

学年別ではあまり大きな差はみられません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「放課後、帰宅途中」(前回22.8%→今回36.0%)、「午前中の授業の合間」(同15.8%→24.0%)に間食する割合は10ポイント前後増えています。

図 25. 間食を食べる回数は、平均して1日に何回くらいか



間食を食べる回数は、平均して1日に何回くらいかをみると、「2回くらい」(39.4%)、「1回くらい」(32.1%)がともに3割台で多く、以下「1回未満」(19.7%)、「3回以上」(8.9%)の順で、平均「1.6回」となっています。

性別ではほとんど差はありません。

学年別にみると、「高校3年生」になると「3回以上」(4.0%)が減って、「1回くらい」(37.6%)が増えており、間食の頻度は減っています。

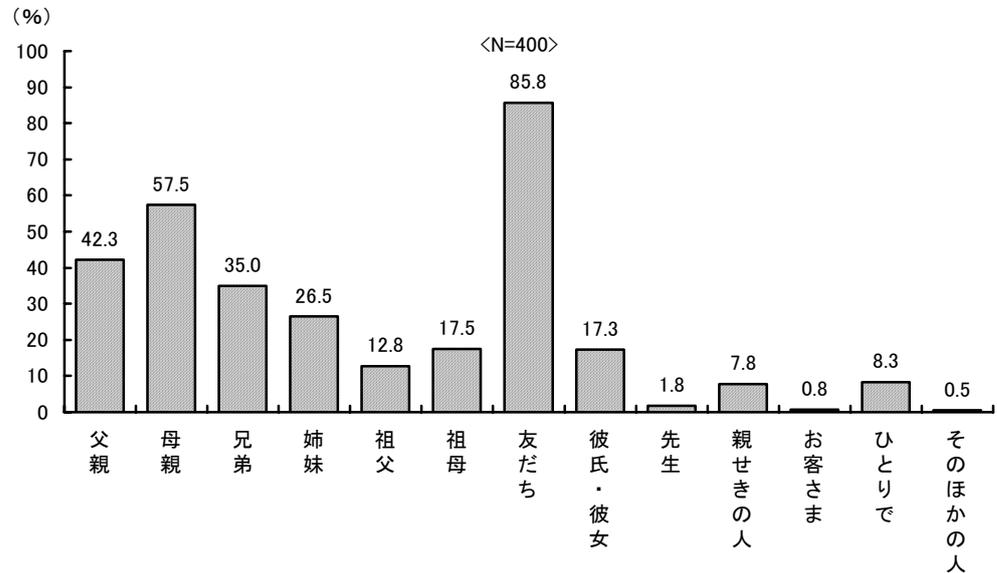
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、平均は前回「1.7回」→今回「1.6回」とあまり変わっていません。

12. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか

「友だち」(85.8%)と食べるときが最も楽しいが、以下「母親」(57.5%)、「父親」(42.3%)、「兄弟」(35.0%)、「姉妹」(26.5%)、「祖母」(17.5%)の“家族”が続く。中には「ひとりで」(8.3%)食べるのが楽しいという人も。

図 26. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか (複数回答)



性別	男子 <n=200>	38.0	44.5	37.0	16.5	8.0	13.0	83.5	17.5	1.0	8.5	0.5	7.5	1.0
	女子 <n=200>	46.5	70.5	33.0	36.5	17.5	22.0	88.0	17.0	2.5	7.0	1.0	9.0	-
学年	高校1年生 <n=133>	45.9	60.2	39.1	27.1	12.8	19.5	88.7	17.3	0.8	12.8	0.8	6.0	1.5
	高校2年生 <n=133>	39.8	53.4	36.1	24.8	11.3	15.8	84.2	12.0	3.8	6.8	0.8	9.0	-
	高校3年生 <n=134>	41.0	59.0	29.9	27.6	14.2	17.2	84.3	22.4	0.7	3.7	0.7	9.7	-

食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか聞いたところ、「友だち」(85.8%)が8割を超えており、圧倒的に多くなっています。以下、「母親」(57.5%)、「父親」(42.3%)、「兄弟」(35.0%)、「姉妹」(26.5%)、「祖母」(17.5%)の“家族”が続いていますが、それよりも気の置けない「友だち」と一緒に食べる方が楽しいと考えているようです。また、「ひとりで」(8.3%)食べるのが楽しいという人も少数ながらみられます。

性別にみると、男女とも「友だち」が第一ですが、《女子》は「母親」(男子44.5%、女子70.5%)、「姉妹」(同16.5%、36.5%)、「祖父」(同8.0%、17.5%)、「祖母」(同13.0%、22.0%)などが《男子》よりかなり高く、《男子》に比べて家族と食べる時も楽しいと感じる傾向が強くなっています。

学年別による大きな差はありません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてみると、「母親」(前回46.5%→今回57.5%)、「兄弟」(同21.3%→35.0%)、「祖母」(同7.3%→17.5%)、「友だち」(同75.0%→85.8%)など、前回よりも高い割合の項目が多く、人と一緒に食べるのが楽しいという意識が強まっているようです。「ひとりで」(前回8.0%→今回8.3%)をあげる割合は前回とほとんど変わっていません。

1. 「コンビニ」の利用状況

「ほとんど利用しない」(11.3%)という人は少なく、利用率は 88.8%。頻度は「週に2~3回」(34.8%)、「週に1回くらい」(24.3%)くらいが多く、平均週に「2.2回」。

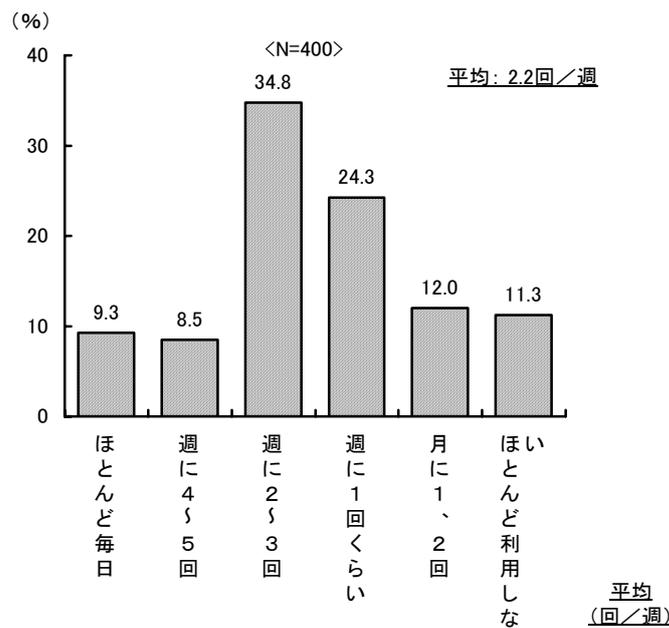
コンビニへ一緒に行く人は、「友人と」(77.2%)、もしくは「一人で」(64.5%)が多い。

よく購入する飲食物は、「パン」(58.6%)、「おにぎり・おすし」(51.3%)、「スナック菓子類」(48.2%)、「コーラ等の炭酸飲料」(38.6%)、「アイスクリーム」(34.1%)、「お茶(麦茶・ウーロン茶を含む)」(33.8%)、「チョコレート、キャンディなど」(30.7%)などの順で、おやつや軽食類が多い。

コンビニで買った食べ物を食べる場所は、「家で」(54.1%)、「学校で、昼食に」(47.3%)、「歩きながら」(38.9%)、「学校で、昼食以外に」(32.1%)など、屋内屋外を問わずいろいろな場で食べている。

1-1. コンビニの利用頻度

図 27. コンビニの利用頻度



性別	男子 <n=200>	13.5	11.0	37.0	20.0	9.5	9.0	2.6
	女子 <n=200>	5.0	6.0	32.5	28.5	14.5	13.5	
学年	高校1年生 <n=133>	8.3	9.0	32.3	21.8	14.3	14.3	2.1
	高校2年生 <n=133>	9.8	6.8	39.1	23.3	13.5	7.5	2.3
	高校3年生 <n=134>	9.7	9.7	32.8	27.6	8.2	11.9	2.2

コンビニの利用頻度をみると、まず「ほとんど利用しない」(11.3%)という人は1割程度で、“利用する”(88.8%)人が大半を占めています。頻度としては、「週に2~3回」(34.8%)、「週に1回くらい」(24.3%)、「月に1、2回」(12.0%)くらいが多く、平均は週に「2.2回」となっています。

性別にみると、総じて《男子》の方が利用頻度は高く、平均も《男子》(2.6回)の方が《女子》(1.8回)よりも高くなっています。

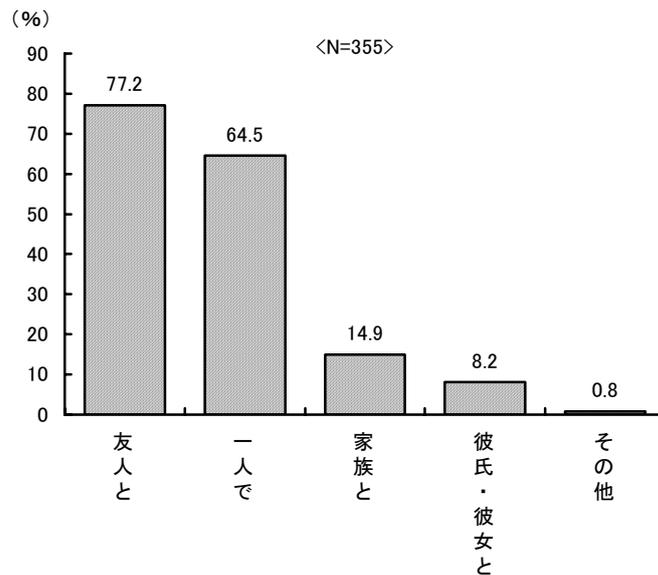
学年別ではあまり大きな差はありません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてみると、平均は前回「2.8回」→今回「2.2回」と減っています。

1-2. コンビニへ一緒に行く人

図 28. コンビニへ一緒に行く人 (複数回答)



性別	男子 <n=182>	77.5	65.4	8.8	5.5	1.6
	女子 <n=173>	76.9	63.6	21.4	11.0	-
学年	高校1年生 <n=114>	81.6	56.1	18.4	3.5	1.8
	高校2年生 <n=123>	74.8	67.5	13.8	9.8	0.8
	高校3年生 <n=118>	75.4	69.5	12.7	11.0	-

コンビニへ一緒に行く人は誰かをみると、「友人と」(77.2%)が7割台で最も多く、また「一人で」(64.5%)も6割台と非常に多くなっています。そのほかの人と一緒にに行くことはあまりなく、「家族と」(14.9%)、「彼氏・彼女と」(8.2%)などの順となっています。

性別にみると、《女子》は「家族と」(21.4%)行くことも少なくないのですが、《男子》(8.8%)はほとんどないようです。

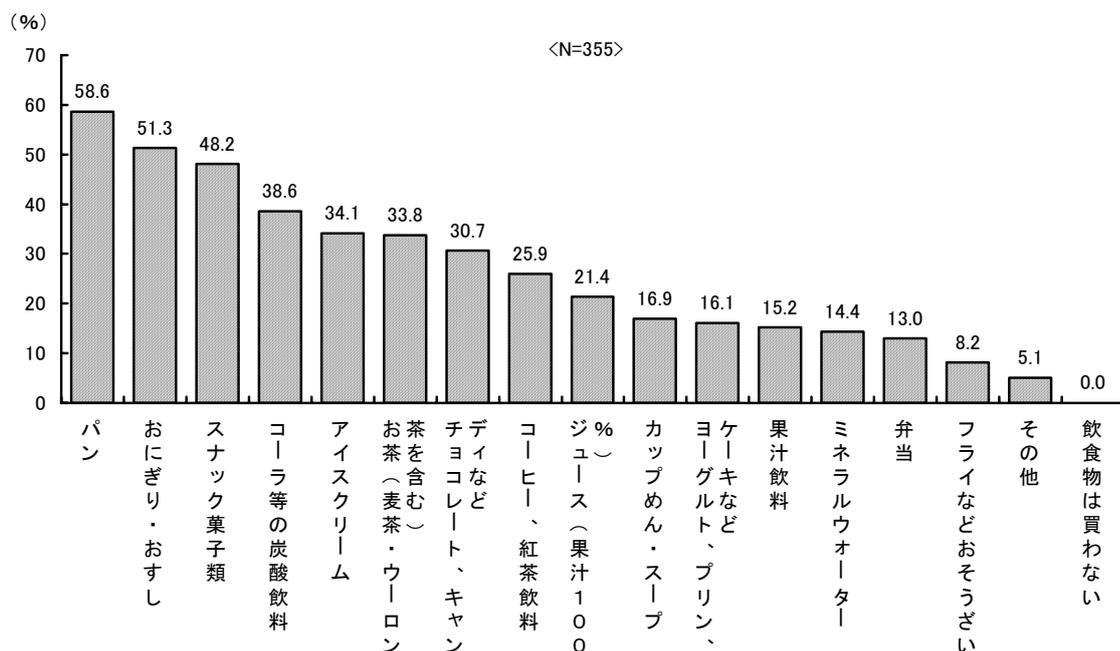
学年別にみると、学年が上がるほど「一人で」行く人が多くなっていきます。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「家族と」(前回 5.4%→今回 14.9%)行く割合がやや増えています。

1-3. コンビニでよく購入する飲食物

図 29. コンビニでよく購入する飲食物（複数回答）



性別	男子 <n=182>	57.7	48.9	43.4	54.4	29.1	32.4	15.9	27.5	18.7	23.1	8.2	15.4	17.0	14.8	11.0	4.9	-
	女子 <n=173>	59.5	53.8	53.2	22.0	39.3	35.3	46.2	24.3	24.3	10.4	24.3	15.0	11.6	11.0	5.2	5.2	-
学年	高校1年生 <n=114>	54.4	46.5	50.9	43.9	38.6	29.8	32.5	24.6	28.9	13.2	18.4	18.4	10.5	11.4	10.5	4.4	-
	高校2年生 <n=123>	64.2	55.3	47.2	35.8	30.1	30.1	26.8	24.4	18.7	19.5	13.0	11.4	14.6	17.9	8.1	7.3	-
	高校3年生 <n=118>	56.8	51.7	46.6	36.4	33.9	41.5	33.1	28.8	16.9	17.8	16.9	16.1	17.8	9.3	5.9	3.4	-

コンビニでよく購入する飲食物は、「パン」(58.6%)、「おにぎり・おすし」(51.3%)、「スナック菓子類」(48.2%)、「コーラ等の炭酸飲料」(38.6%)、「アイスクリーム」(34.1%)、「お茶（麦茶・ウーロン茶を含む）」(33.8%)、「チョコレート、キャンディなど」(30.7%)、「コーヒー、紅茶飲料」(25.9%)、「ジュース（果汁 100%）」(21.4%)などの順で、おやつや軽食類が多くなっています。

性別にみると、「コーラ等の炭酸飲料」は《男子》(54.4%)の方が《女子》(22.0%)よりも30ポイント以上も高く、また「カップめん・スープ」(男子23.1%、女子10.4%)も《男子》の方がかなり多くなっていますが、「チョコレート、キャンディなど」(男子15.9%、女子46.2%)、「ヨーグルト、プリン、ケーキなど」(同8.2%、24.3%)などスイーツ系は《女子》の方が多くあげています。

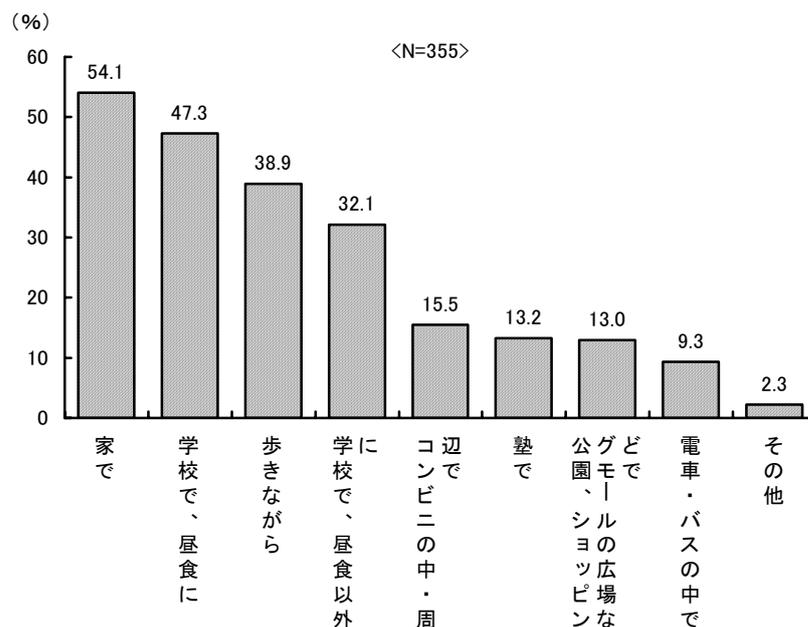
学年別にみると、「お茶（麦茶・ウーロン茶を含む）」は高学年ほど、「ジュース（果汁 100%）」は低学年ほど高い割合となっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「おにぎり・おすし」(前回34.1%→今回51.3%)、「スナック菓子類」(同33.1%→48.2%)、「コーラ等の炭酸飲料」(同28.2%→38.6%)など、多くの項目が比率を増やしていますが、「お茶（麦茶・ウーロン茶を含む）」(前回45.9%→今回33.8%)は前回よりかなり下がっています。

1-4. コンビニで買った食べ物を食べる場所

図 30. コンビニで買った食べ物を食べる場所（複数回答）



性別	男子 <n=182>	48.9	36.3	50.0	26.9	24.2	14.3	13.7	8.2	1.1
	女子 <n=173>	59.5	59.0	27.2	37.6	6.4	12.1	12.1	10.4	3.5
学年	高校1年生 <n=114>	50.9	47.4	40.4	36.8	16.7	7.0	10.5	14.0	3.5
	高校2年生 <n=123>	55.3	46.3	42.3	30.9	15.4	13.8	13.0	7.3	2.4
	高校3年生 <n=118>	55.9	48.3	33.9	28.8	14.4	18.6	15.3	6.8	0.8

コンビニで買った食べ物を食べる場所は、「家で」(54.1%)、「学校で、昼食に」(47.3%)、「歩きながら」(38.9%)、「学校で、昼食以外に」(32.1%)、「コンビニの中・周辺で」(15.5%)、「塾で」(13.2%)、「公園、ショッピングモールの広場などで」(13.0%) など、屋内屋外を問わずいろいろな場で食べているようです。

性別にみると、「歩きながら」(男子 50.0%、女子 27.2%)、「コンビニの中・周辺で」(同 24.2%、6.4%) といった“屋外”は《男子》の方が、反対に「家で」(男子 48.9%、女子 59.5%)、「学校で、昼食に」(同 36.3%、59.0%)、「学校で、昼食以外に」(同 26.9%、37.6%) といった“屋内”は《女子》の方が、それぞれ高い割合となっています。

学年別にみると、「塾で」食べる割合は学年が上がるほど高くなっていますが、これは学年が上がるほど塾に通っている割合が高いことによると思われます。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「家で」(前回 35.2%→今回 54.1%)、「歩きながら」(同 21.0%→38.9%) がかなり増えている一方、「学校で、昼食以外に」(前回 40.3%→今回 32.1%)、「塾で」(同 23.1%→13.2%)などは減っています。

2. 「ファストフード店」の利用状況

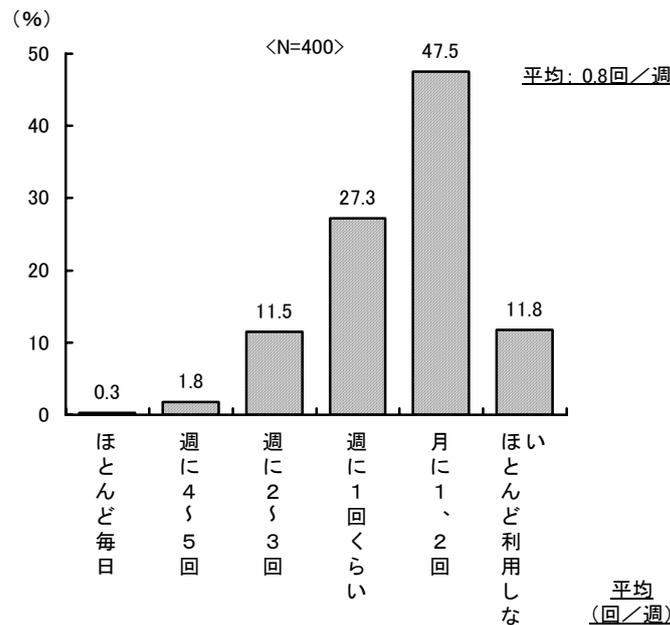
利用率は9割弱(88.3%)で、「月に1、2回」(47.5%)の頻度が最も多い。平均は週に「0.8回」。

一緒に行く人は、「友人と」(91.5%)が圧倒的に多く、以下「家族と」(30.0%)、「一人で」(15.3%)、「彼氏・彼女と」(11.6%)など。

よく購入するファストフードは、「ハンバーガー」(84.4%)が最も多く、以下「フライドポテト」(71.7%)、「ドリンク」(49.9%)、「牛丼・豚丼」(21.8%)、「フライドチキン」(20.7%)など。

2-1. ファストフード店の利用頻度

図 31. ファストフード店の利用頻度



性別	利用頻度 (%)							平均 (回/週)
	ほとんど毎日	週に4~5回	週に2~3回	週に1回くらい	月に1、2回	ほとんど利用しない		
男子 <n=200>	-	2.5	15.5	28.0	41.5	12.5	0.9	
女子 <n=200>	0.5	1.0	7.5	26.5	53.5	11.0	0.7	
学年	高校1年生 <n=133>	-	0.8	12.0	27.1	48.1	12.0	0.8
	高校2年生 <n=133>	0.8	2.3	11.3	28.6	46.6	10.5	0.9
	高校3年生 <n=134>	-	2.2	11.2	26.1	47.8	12.7	0.8

ファストフード店の利用頻度をみると、「ほとんど利用しない」(11.8%)という人が1割強おり、「利用する」人は9割弱(88.3%)となっています。頻度としては、「月に1、2回」(47.5%)が半数近くを占めて最も多く、以下「週に1回くらい」(27.3%)、「週に2~3回」(11.5%)などとなっています。平均は週に「0.8回」で、「コンビニ」の利用頻度(2.2回)に比べるとかなり低めです。

性別にみると、「男子」の方が利用頻度は高く、平均も《男子》(0.9回)が《女子》(0.7回)をやや上回っています。

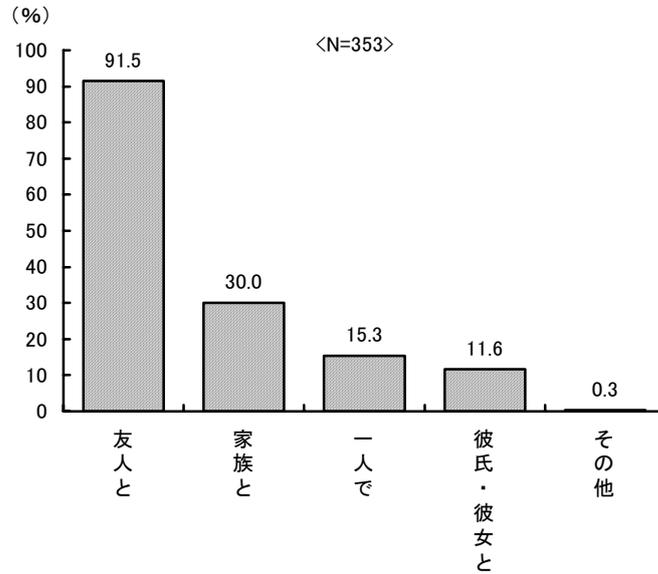
学年別ではあまり差はありません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較してみると、「利用する」割合は前回「83.0%」→今回「88.3%」、平均も前回「0.7回」→今回「0.8回」と若干増えています。

2-2. ファストフード店へ一緒に行く人

図 32. ファストフード店へ一緒に行く人（複数回答）



性別	男子 <n=175>	89.7	22.9	17.1	10.3	0.6
	女子 <n=178>	93.3	37.1	13.5	12.9	-
学年	高校1年生 <n=117>	92.3	33.3	14.5	7.7	0.9
	高校2年生 <n=119>	90.8	26.9	19.3	10.1	-
	高校3年生 <n=117>	91.5	29.9	12.0	17.1	-

ファストフード店へ一緒に行く人は誰かをみると、「友人と」（91.5%）を9割以上があげて圧倒的に多くなっています。そのほかはかなり少なくなりますが、「家族と」（30.0%）、「一人で」（15.3%）、「彼氏・彼女と」（11.6%）などが続いています。

性別にみると、「家族と」行く割合は《男子》（22.9%）よりも《女子》（37.1%）の方が15ポイント近くも高くなっています。

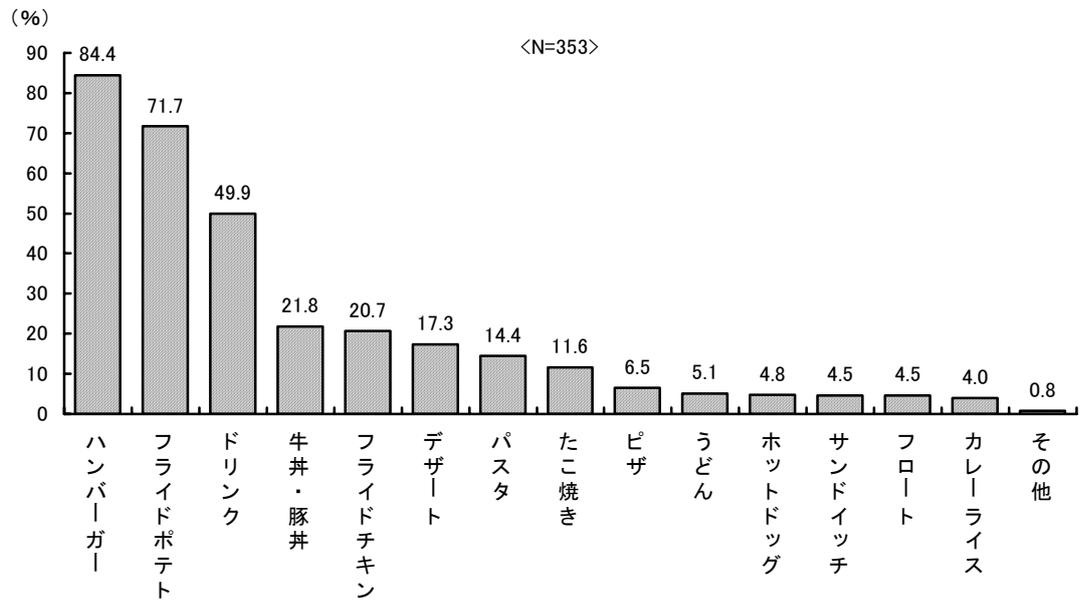
学年別にみると、「彼氏・彼女と」は、学年が上がるほど高い割合です。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較してみると、「家族と」（前回 11.1%→今回 30.0%）の割合が今回大きく増えているのが目立ちます。

2-3. よく購入するファストフード

図 33. よく購入するファストフード（複数回答）



性別	男子 <n=175>	93.1	62.9	42.9	36.6	22.9	9.1	9.1	10.3	6.9	6.9	4.6	5.7	2.3	6.3	-
	女子 <n=178>	75.8	80.3	56.7	7.3	18.5	25.3	19.7	12.9	6.2	3.4	5.1	3.4	6.7	1.7	1.7
学年	高校1年生 <n=117>	89.7	75.2	49.6	23.9	22.2	17.1	12.0	10.3	5.1	2.6	5.1	4.3	5.1	3.4	1.7
	高校2年生 <n=119>	79.8	71.4	46.2	18.5	20.2	13.4	21.0	10.9	7.6	5.0	5.0	6.7	4.2	1.7	-
	高校3年生 <n=117>	83.8	68.4	53.8	23.1	19.7	21.4	10.3	13.7	6.8	7.7	4.3	2.6	4.3	6.8	0.9

よく購入するファストフードの内容をみると、「ハンバーガー」(84.4%)が最も多く、次いで「フライドポテト」も7割強(71.7%)、以下「ドリンク」(49.9%)、「牛丼・豚丼」(21.8%)、「フライドチキン」(20.7%)、「デザート」(17.3%)、「パスタ」(14.4%)、「たこ焼き」(11.6%)などの順となっています。

性別にみると、「ハンバーガー」(男子93.1%、女子75.8%)、「牛丼・豚丼」(同36.6%、7.3%)は《男子》の方がかなり高い割合ですが、「フライドポテト」(男子62.9%、女子80.3%)、「ドリンク」(同42.9%、56.7%)、「デザート」(同9.1%、25.3%)、「パスタ」(同9.1%、19.7%)などは《女子》の方が10ポイント以上高率です。

学年別ではあまり差はありません。

【前回調査との比較】

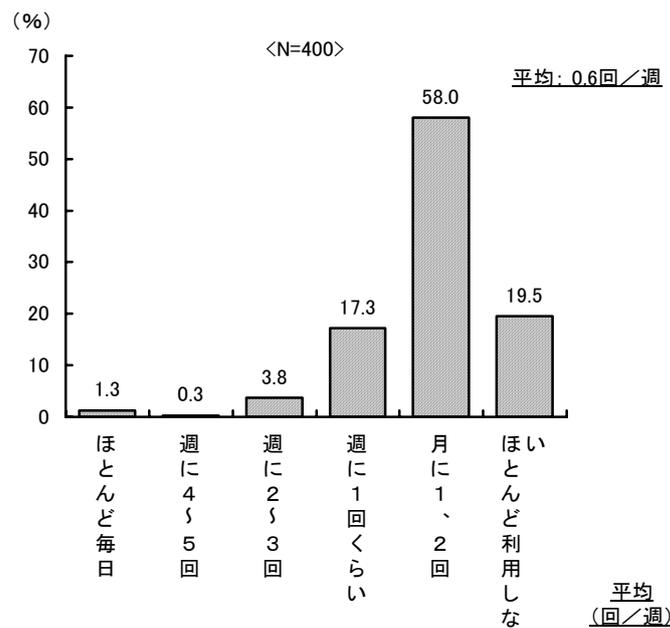
2005年に実施した前回の調査と比較すると、「フライドポテト」(前回50.6%→今回71.7%)、「ドリンク」(同33.7%→49.9%)、「デザート」(同5.7%→17.3%)などが増えています。

3. 「飲食店（ファストフード店以外）」の利用状況

利用率は8割強(80.5%)で、「月に1、2回」(58.0%)の頻度が多く、平均は週に「0.6回」。ファストフード店よりやや低め。
 一緒に行く人は、「友人と」(73.6%)に次いで「家族と」(64.3%)行くケースも多く、“ファストフード店”とはかなり異なる。
 よく利用する飲食店は、「ファミリーレストラン」(87.9%)が突出して多く、以下「すし・回転寿司」(46.9%)、「ラーメン、中華料理」(41.0%)、「パスタ、イタリアン」(34.8%)、「焼肉店」(32.6%)などの順。

3-1. 飲食店（ファストフード店以外）の利用頻度

図 34. 飲食店（ファストフード店以外）の利用頻度



性別	男子 <n=200>	1.0	0.5	4.5	14.5	58.5	21.0	平均 (回/週)
	女子 <n=200>	1.5	-	3.0	20.0	57.5	18.0	
学年	高校1年生 <n=133>	0.8	0.8	2.3	15.8	58.6	21.8	0.5
	高校2年生 <n=133>	2.3	-	3.8	18.0	57.9	18.0	0.6
	高校3年生 <n=134>	0.7	-	5.2	17.9	57.5	18.7	0.6

飲食店（ファストフード店以外）の利用頻度をみると、「ほとんど利用しない」という人は2割弱（19.5%）で、“利用する”人が8割強（80.5%）を占めています。頻度としては、「月に1、2回」（58.0%）が半数を超えており、次いで「週に1回くらい」（17.3%）が続いています。平均は週に「0.6回」で、前項の“ファストフード店”に比べ飲食店は、利用率（ファストフード店 88.3%、飲食店 80.5%）、平均頻度（同 0.8回、0.6回）ともにやや低めです。

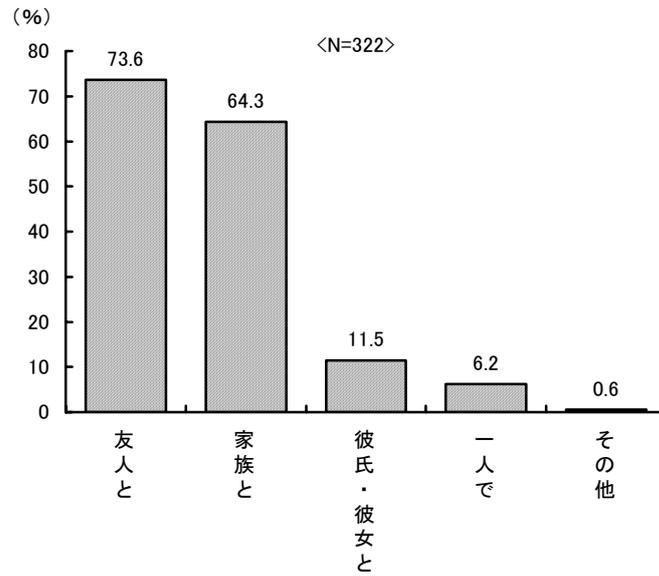
性別や学年別にみても、ほとんど差はありません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較すると、利用率は前回「73.8%」→今回「80.5%」、平均も前回「0.5回」→今回「0.6回」と、いずれも少し増えています。

3-2. 飲食店（ファストフード店以外）へ一緒に行く人

図 35. 飲食店（ファストフード店以外）へ一緒に行く人（複数回答）



性別	男子 <n=158>	73.4	57.6	10.8	7.0	1.3
	女子 <n=164>	73.8	70.7	12.2	5.5	-
学年	高校1年生 <n=104>	68.3	72.1	8.7	2.9	1.0
	高校2年生 <n=109>	77.1	56.0	11.0	9.2	0.9
	高校3年生 <n=109>	75.2	65.1	14.7	6.4	-

飲食店（ファストフード店以外）へ一緒に行く人は、「友人と」（73.6%）、または「家族と」（64.3%）が多く、「友人と」に回答が集中していた“ファストフード店”と違い、家族と行くことも多くなっています。以下、「彼氏・彼女と」（11.5%）、「一人で」（6.2%）などが続いています。

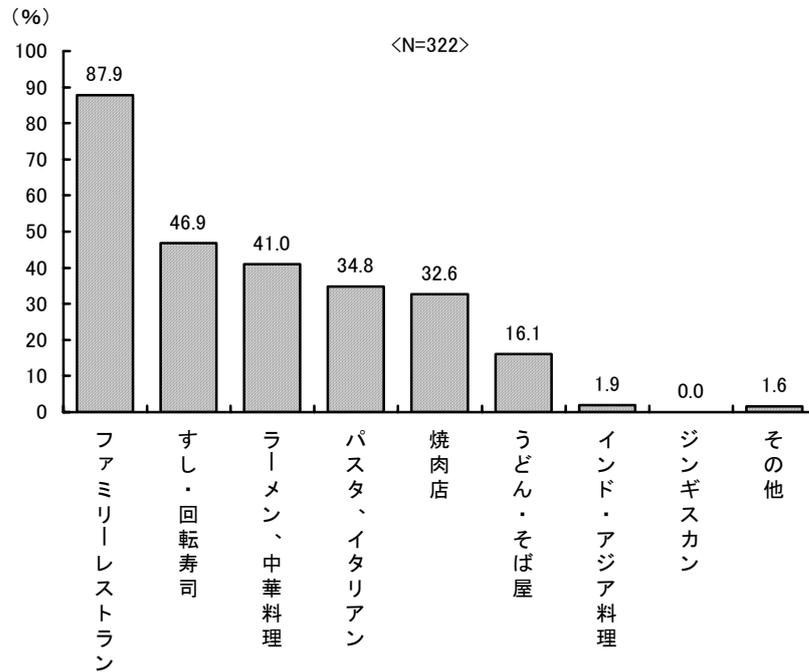
性別にみると、「家族と」行く割合は、《男子》（57.6%）よりも《女子》（70.7%）の方が10ポイント以上高く、前項の“ファストフード店”と同じ傾向がみられます。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてもあまり大きな変化はありませんが、いずれの項目も少しずつ増えています。

3-3. よく利用する飲食店（ファストフード店以外）

図 36. よく利用する飲食店（ファストフード店以外）（複数回答）



性別	男子 <n=158>	84.8	43.0	48.1	20.9	33.5	17.7	1.3	-	1.3
	女子 <n=164>	90.9	50.6	34.1	48.2	31.7	14.6	2.4	-	1.8
学年	高校1年生 <n=104>	91.3	52.9	37.5	33.7	36.5	14.4	1.0	-	1.0
	高校2年生 <n=109>	84.4	37.6	41.3	32.1	25.7	13.8	0.9	-	2.8
	高校3年生 <n=109>	88.1	50.5	44.0	38.5	35.8	20.2	3.7	-	0.9

よく利用する飲食店（ファストフード店以外）は、「ファミリーレストラン」（87.9%）が突出して多くなっています。そのほかの項目はいずれも半数以下で、「すし・回転寿司」（46.9%）、「ラーメン、中華料理」（41.0%）、「パスタ、イタリアン」（34.8%）、「焼肉店」（32.6%）、「うどん・そば屋」（16.1%）などの順となっています。

性別にみると、「ラーメン、中華料理」（男子 48.1%、女子 34.1%）は《男子》の方が、「パスタ、イタリアン」（同 20.9%、48.2%）は《女子》の方が、それぞれ高い割合となっています。

学年別では大きな傾向の違いはみられません。

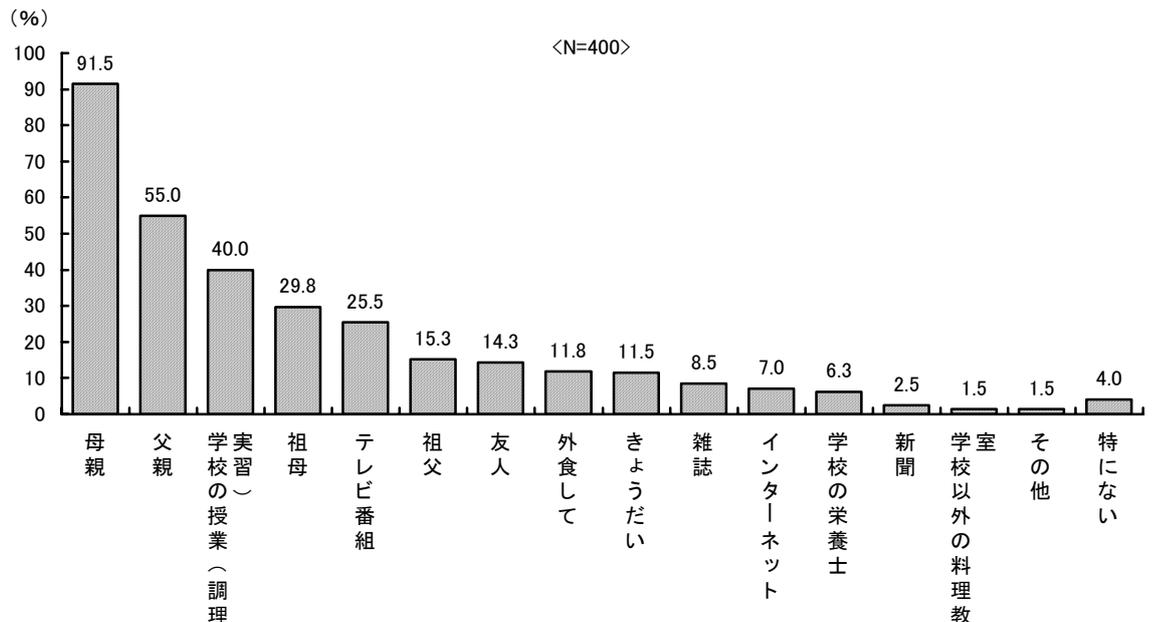
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「すし・回転寿司」（前回 29.5%→今回 46.9%）、「パスタ、イタリアン」（同 19.0%→34.8%）など、すべての項目で前回は上回っています。

1. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか

第一に「母親」(91.5%)、次いで「父親」(55.0%)と“両親”の教えが大きい。以下、「学校の授業(調理実習)」(40.0%)、「祖母」(29.8%)、「テレビ番組」(25.5%)、「祖父」(15.3%)、「友人」(14.3%)など。

図 37. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか (複数回答)



性別	男子 <n=200>	87.0	55.5	33.5	28.0	19.5	15.0	12.5	10.0	10.5	5.0	5.0	6.0	3.0	1.0	1.5	7.0
	女子 <n=200>	96.0	54.5	46.5	31.5	31.5	15.5	16.0	13.5	12.5	12.0	9.0	6.5	2.0	2.0	1.5	1.0
学年	高校1年生 <n=133>	92.5	56.4	46.6	31.6	27.8	13.5	13.5	9.8	13.5	4.5	6.8	10.5	3.8	2.3	1.5	2.3
	高校2年生 <n=133>	88.7	54.9	36.1	27.8	20.3	17.3	12.8	15.8	11.3	7.5	4.5	3.8	0.8	0.8	1.5	6.8
	高校3年生 <n=134>	93.3	53.7	37.3	29.9	28.4	14.9	16.4	9.7	9.7	13.4	9.7	4.5	3.0	1.5	1.5	3.0

これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたでしょうか。

「母親」(91.5%)が9割を超えて最も多く、次いで「父親」(55.0%)と、“両親”の教えが第一にあげられています。そのほか、「学校の授業(調理実習)」(40.0%)、「祖母」(29.8%)、「テレビ番組」(25.5%)、「祖父」(15.3%)、「友人」(14.3%)、「外食して」(11.8%)、「きょうだい」(11.5%)などの順となっています。

性別にみると、「学校の授業(調理実習)」(男子 33.5%、女子 46.5%)、「テレビ番組」(同 19.5%、31.5%)など、《女子》で高率の項目が多くなっており、《女子》の方がいろいろな場面で料理や食べ物、食べ方について学んできていることがうかがえます。

学年別ではあまり差はありません。

【前回調査との比較】

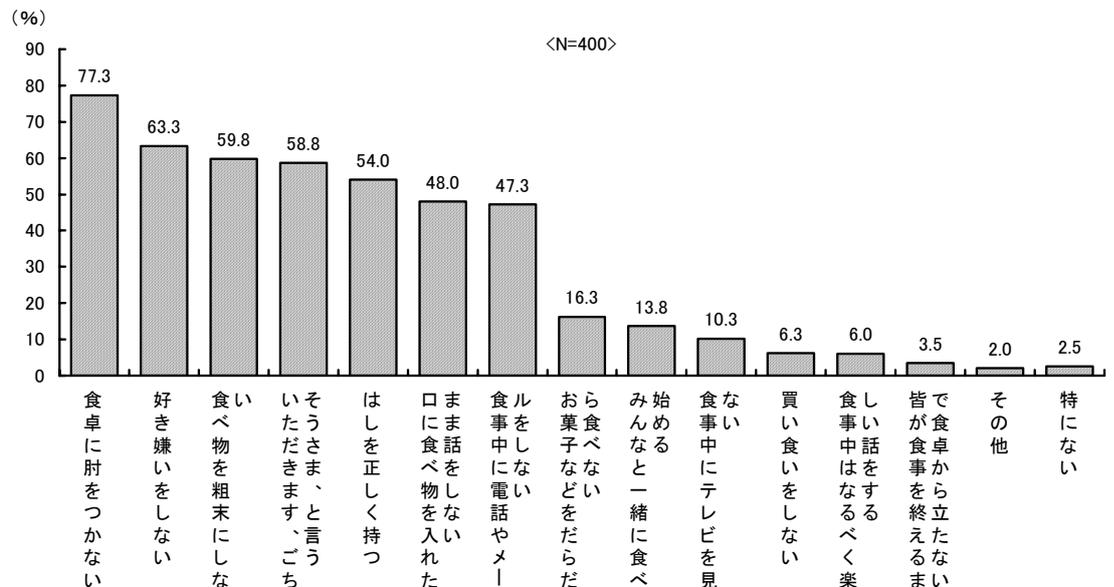
2005年に実施した前回の調査と比べると、「母親」(前回 79.0%→今回 91.5%)、「学校の授業(調理実習)」(同 21.8%→40.0%)、「祖母」(同 16.3%→29.8%)など、すべての項目で前回より今回の方が高くなっています。

2. 子どもの頃から家で食事のマナーについて守るように言われてきたこと

「食卓に肘をつかない」(77.3%)をはじめ、「好き嫌いをしない」(63.3%)、「食べ物を粗末にしない」(59.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(58.8%)、「はしを正しく持つ」(54.0%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(48.0%)、「食事中に電話やメールをしない」(47.3%)などをしつけられてきた。

●《女子》の方がしつけられてきたことは多い。

図 38. 子どもの頃から家で食事のマナーについて守るように言われてきたこと（複数回答）



性別	男子 <n=200>	73.5	66.5	58.5	55.5	52.0	43.5	41.0	13.5	10.5	11.5	7.0	5.0	4.0	1.5	3.0
	女子 <n=200>	81.0	60.0	61.0	62.0	56.0	52.5	53.5	19.0	17.0	9.0	5.5	7.0	3.0	2.5	2.0
学年	高校1年生 <n=133>	82.7	69.2	59.4	63.2	60.2	51.1	56.4	15.8	18.0	13.5	9.8	7.5	4.5	1.5	2.3
	高校2年生 <n=133>	70.7	57.1	52.6	57.1	51.9	41.4	36.8	17.3	6.8	6.8	1.5	3.8	0.8	1.5	4.5
	高校3年生 <n=134>	78.4	63.4	67.2	56.0	50.0	51.5	48.5	15.7	16.4	10.4	7.5	6.7	5.2	3.0	0.7

子どもの頃から家で食事のマナーについて守るように言われてきたのは、どのようなことでしょうか。

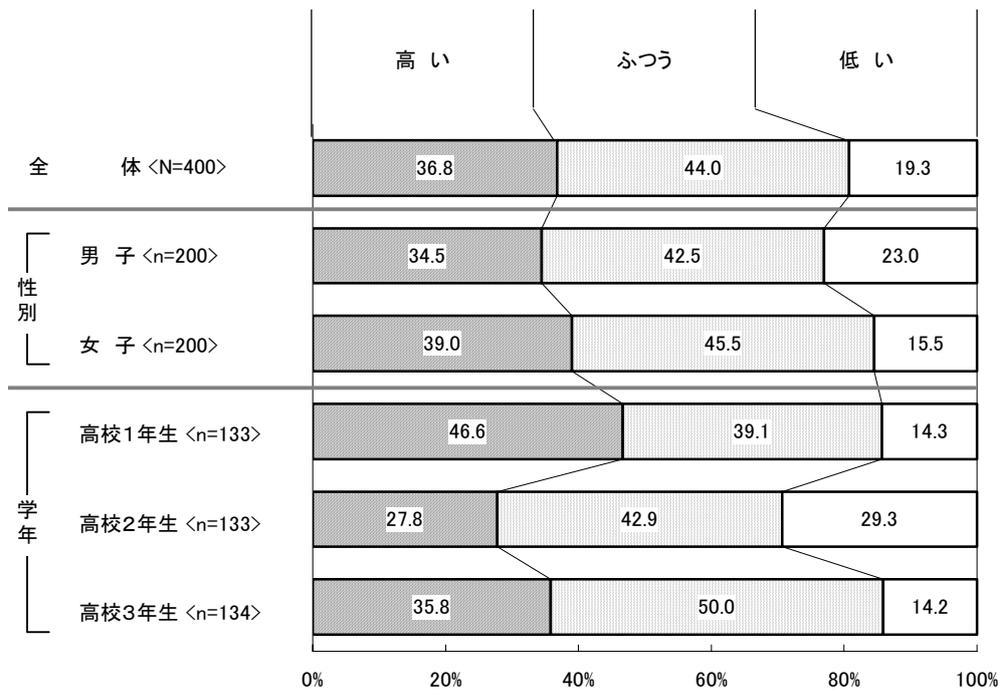
「食卓に肘をつかない」(77.3%)をはじめ、「好き嫌いをしない」(63.3%)、「食べ物を粗末にしない」(59.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(58.8%)、「はしを正しく持つ」(54.0%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(48.0%)、「食事中に電話やメールをしない」(47.3%)など、さまざまなことを教えられてきています。「特にない」(2.5%)という人はほとんどおらず、「何らかのことをしつけられた」(97.5%)人が大半となっています。

性別にみると、「食事中に電話やメールをしない」(男子 41.0%、女子 53.5%)など、《女子》で高い割合となっている項目が多く、《女子》の方がより厳しくしつけられてきたようです。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「食卓に肘をつかない」(前回 47.3%→今回 77.3%)、「好き嫌いをしない」(同 43.0%→63.3%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(同 38.8%→58.8%)、「食事中に電話やメールをしない」(同 24.0%→47.3%)など、ほとんどの項目で今回の方が高い割合となっており、また「特にない」の割合は前回「11.3%」→今回「2.5%」と減っています。

図 39. <しつけ度>



ちなみに、“子どもの頃から家で食事のマナーについて守るように言われてきたこと”としてあげている項目の個数によって、<しつけ度>を分けてみました（「高い」＝6個以上、「ふつう」＝3～5個、「低い」＝0～2個）。

その結果は、「高い」（36.8%）、「ふつう」（44.0%）、「低い」（19.3%）となっており、「高い」が「低い」の2倍近い割合になっています。

性別にみると、《女子》は《男子》に比べて「高い」が多く、「低い」は少なくなっており、ここでも《女子》の方が厳しくしつけられてきたことが分かります。

学年別にみると、「高い」が最も多いのは《高校1年生》（46.6%）、最も少ないのは《高校2年生》（27.8%）です。

表 3. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか（複数回答：しつけ度別）
(%)

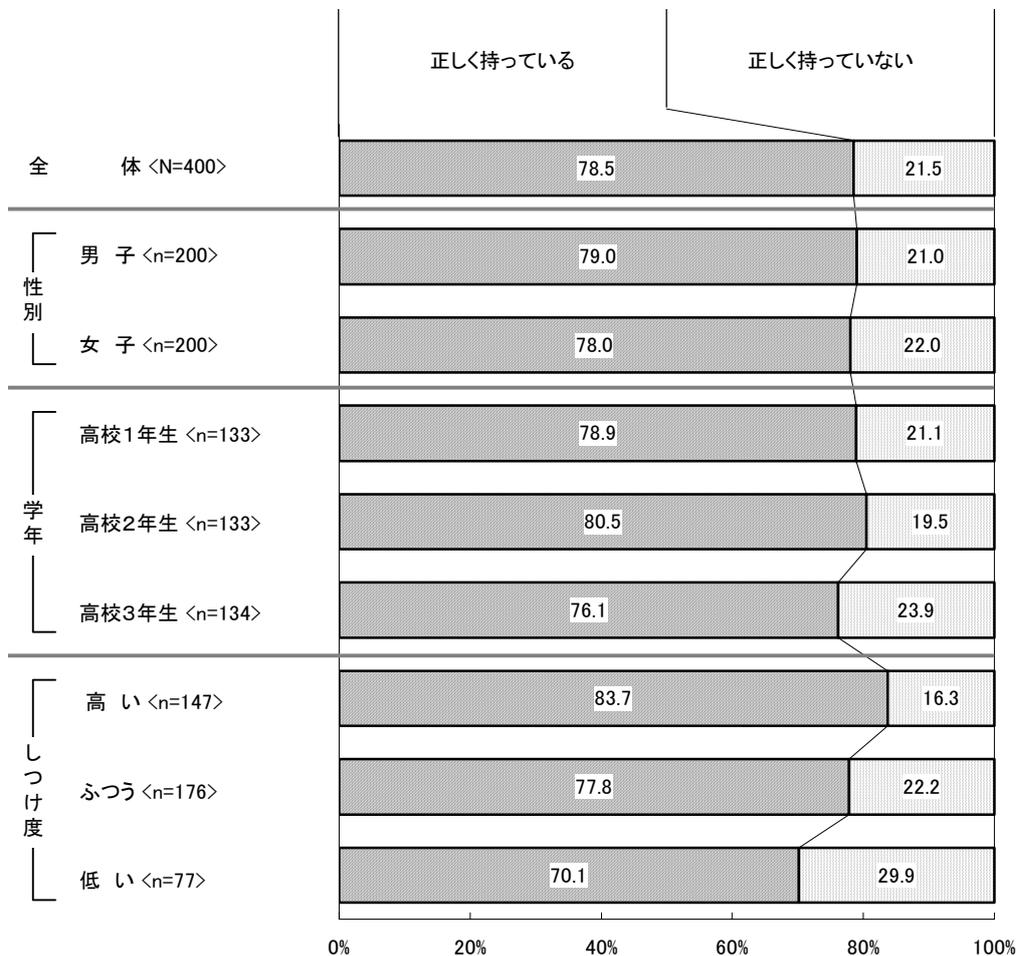
しつけ度	高い (n=147)	母親	父親	学校実習の授業 (調理)	祖母	テレビ番組	友人	祖父	外食して	きょうだい	雑誌	学校の栄養士	インターネット	新聞	学室以外の料理教	その他	特にない
		94.6	61.2	42.9	39.5	32.7	20.4	19.7	12.9	10.2	9.5	6.1	6.1	4.1	0.7	2.0	1.4
ふつう (n=176)	93.8	53.4	44.3	29.0	23.3	11.4	14.2	12.5	11.4	9.1	8.0	8.0	2.3	2.8	1.1	2.3	
低い (n=77)	80.5	46.8	24.7	13.0	16.9	9.1	9.1	7.8	14.3	5.2	2.6	6.5	-	-	1.3	13.0	

なお、この<しつけ度>別に、前項の“これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか”の結果をみると、しつけ度が高い人ほど「母親」「父親」「祖母」「テレビ番組」「友人」などほとんどの項目で高い割合となっており、多くの人や手段を通して学ぶことの大切さが分かります。

3. おはしを正しく持っているか

「正しく持っている」(78.5%)人が多いものの、「正しく持っていない」人も2割強(21.5%)と少なくない。

図 40. おはしを正しく持っているか



おはしを正しく持っているかどうか聞いたところ、「正しく持っている」は8割近く(78.5%)に及び、多数派にはなっているものの、「正しく持っていない」人も2割強(21.5%)と少なくありません。

性別や学年別ではほとんど差はなく、いずれも8割前後が「正しく持っている」としています。

また、食事マナーしつけ度別にみると、しつけ度が高い人ほど「正しく持っている」率が高く、しつけ度が《低い》(70.1%)人に比べ、《高い》(83.7%)人では10ポイント以上高くなっています。

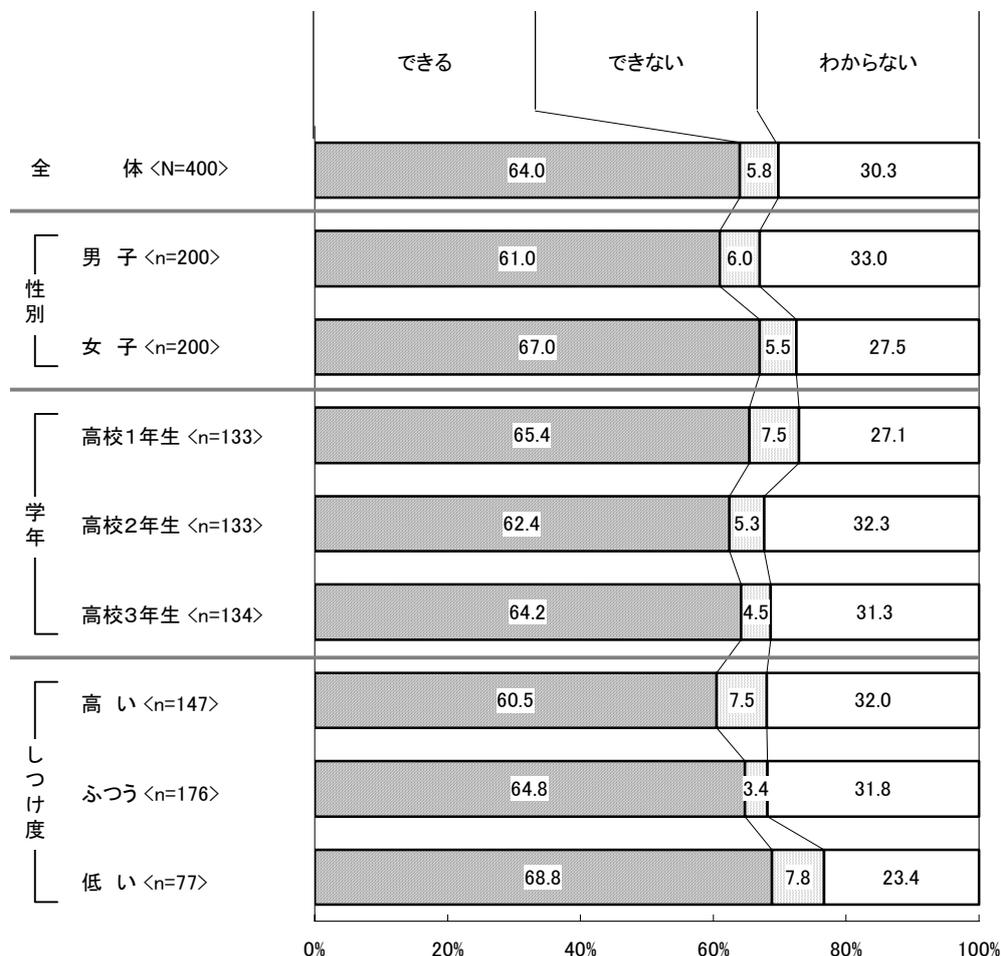
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「正しく持っている」割合は前回「65.0%」→今回「78.5%」と10ポイント以上伸びています。特に、男子(60.0%→79.0%)は20ポイント近い増加で、女子(70.0%→78.0%)を上回りました。

4. ナイフとフォークをきちんと使って食事ができるか

「できる」(64.0%)という人が主になっており、「できない」(5.8%)人はわずか。

図 41. ナイフとフォークをきちんと使って食事ができるか



ナイフとフォークをきちんと使って食事ができるかどうかについても聞いてみました。「できる」(64.0%)という人が6割を超えており、「できない」(5.8%)はわずかとなっています。なお、「わからない」という人も3割強(30.3%)みられます。

性別にみると、「できる」とする割合は、《男子》(61.0%)よりも《女子》(67.0%)の方が若干高めです。

学年別ではあまり差はありません。

食事マナーしつけ度別にみると、しつけ度の高い人ほどむしろ「できる」割合は少しずつ低くなっています。前項でみたように、「おはしの使い方」についてはしつけ度が高いほどできていましたが、ナイフとフォークについてはしつけ度の効果があまり表れていないようです。

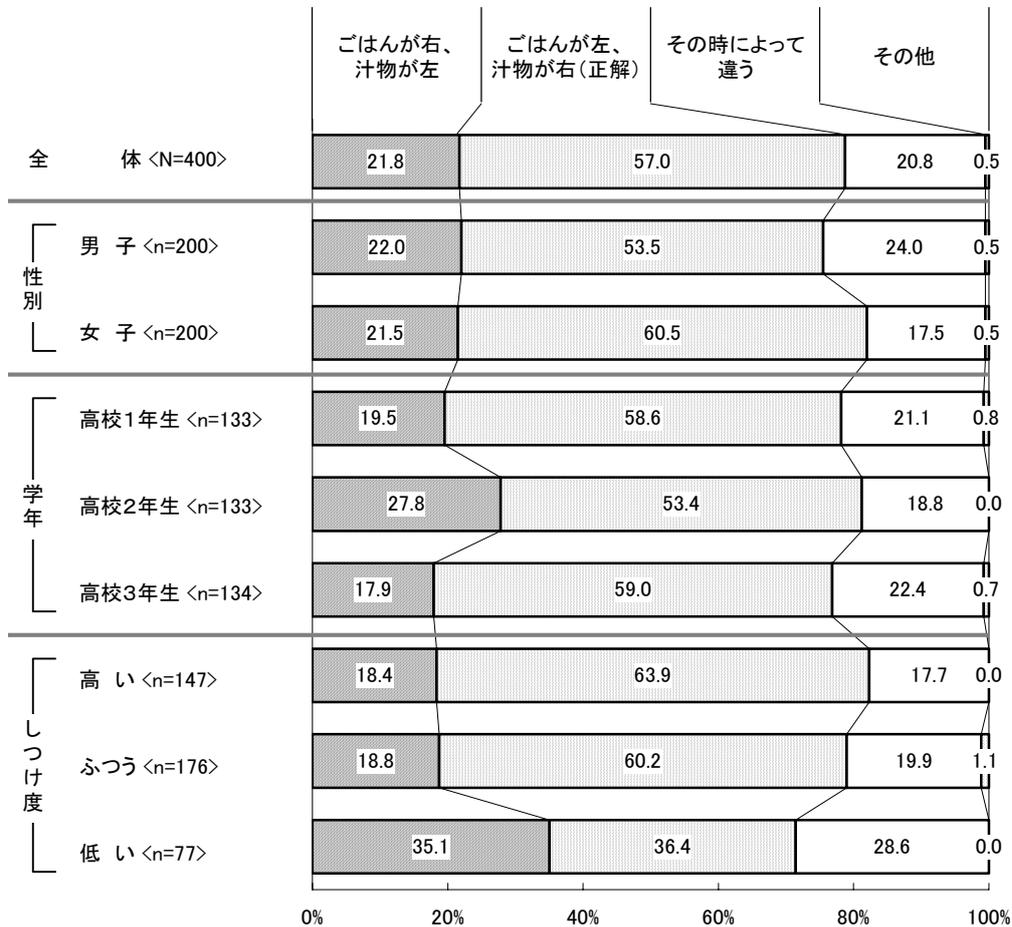
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「できる」(前回56.5%→今回64.0%)割合はやや増えている程度ですが、「できない」(同30.5%→5.8%)人は激減しており、「わからない」(同13.0%→30.3%)が大きく増えています。

5. ごはんと汁物がある食事の時、どのように置いて食事をする人が多いか

「ごはんが左、汁物が右」(57.0%)と正しい置き方をしている人が過半数を占めるが、「ごはんが右、汁物が左」(21.8%)や「その時によって違う」(20.8%)とマナーを知らないか、無視している人も合わせて4割以上。

図 42. ごはんと汁物がある食事の時、どのように置いて食事をする人が多いか



ごはんと汁物がある食事の時、「ごはんが左、汁物が右」と置くのが正しいマナー（その方が食べやすいため）ですが、実際にはどのように置いて食事をする人が多いか聞いてみたところ、「ごはんが左、汁物が右」(57.0%)と正しい置き方をしている人が過半数を占めていますが、「ごはんが右、汁物が左」(21.8%)や「その時によって違う」(20.8%)と、マナーを知らないか、無視している人も合わせて4割以上みられます。

性別にみると、「ごはんが左、汁物が右」(57.0%)と正しい置き方をしている割合は、《男子》(53.5%)よりも《女子》(60.5%)の方がやや高くなっています。

学年別にみると、正解である「ごはんが左、汁物が右」の割合は、《高校2年生》(53.4%)でやや低めです。

食事マナーしつけ度別にみると、「ごはんが左、汁物が右」の割合は、しつけ度が《高い》人(63.9%)、《ふつう》の人(60.2%)に比べ、《低い》人(36.4%)では格段に低く、やはり家庭での教育が大きく影響しているようです。

【前回調査との比較】

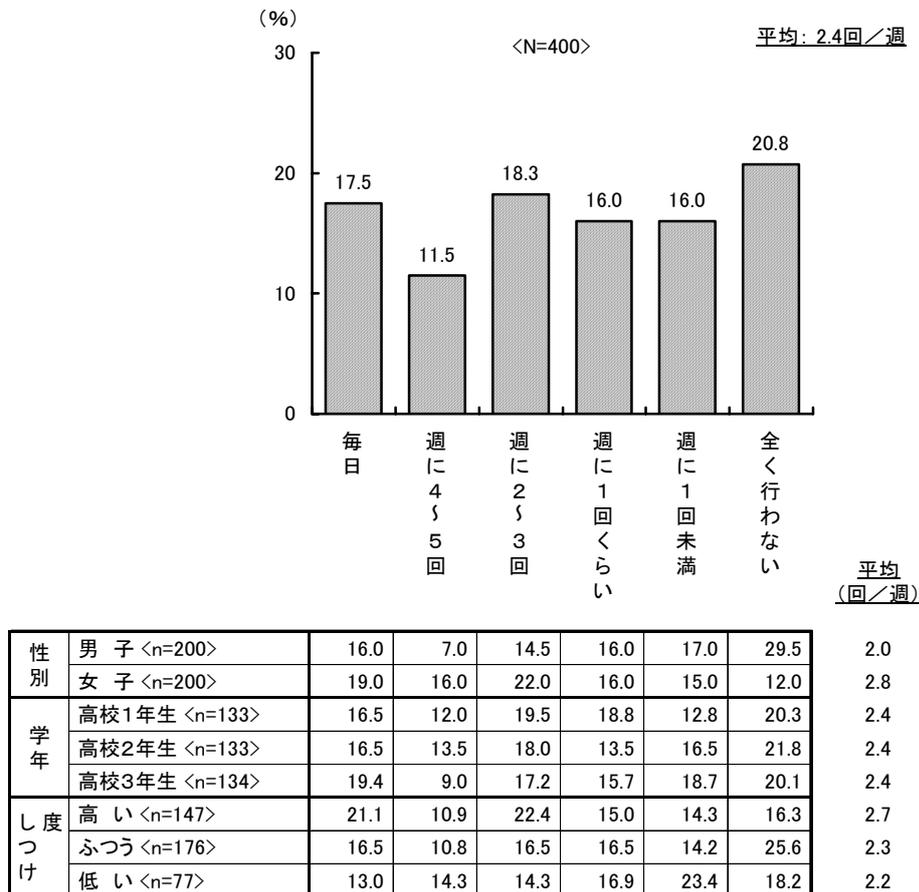
2005年に実施した前回の調査と比べてみると、正解である「ごはんが左、汁物が右」の割合は、前回59.5%→今回57.0%とあまり変わりません。

6. 家で、食事の支度をしたり手伝ったりする程度

2割の人が「全く行わない」(20.8%)。「行う」(79.3%)人の頻度は「週に2～3回」(18.3%)、「毎日」(17.5%)、「週に1回くらい」(16.0%)、「週に1回未満」(16.0%)、「週に4～5回」(11.5%)などさまざまで、平均週に「2.4回」。

●男子よりも女子の方がよく手伝っている。

図 43. 家で、食事の支度をしたり手伝ったりする程度



家では、どの程度食事の支度をしたり手伝ったりしているかをみると、2割の人が「全く行わない」(20.8%)としており、「行う」人がほぼ8割(79.3%)に達しています。頻度としては、「週に2～3回」(18.3%)、「毎日」(17.5%)、「週に1回くらい」(16.0%)、「週に1回未満」(16.0%)、「週に4～5回」(11.5%)などさまざまです。平均は週に「2.4回」となっています。

性別にみると、「男子」は「全く行わない」(29.5%)が3割近いのに対し、「女子」(12.0%)は1割程度で、「女子」の方がよく手伝っています。平均も、「男子」の「2.0回」に対し、「女子」は「2.8回」です。

学年別ではあまり変わりません。

食事マナーしつけ度別にみると、しつけ度が高い人ほど手伝う頻度も高く、平均はしつけ度が《高い》人が「2.7回」、《低い》人が「2.2回」となっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてみると、前回は「全く行わない」が約4割（39.5%）もいたのに対し、今回は2割（20.8%）と半減し、平均も前回の「1.5回」に対し、今回「2.4回」とかなり増えています。とりわけ男子では、「全く行わない」（62.0%→29.5%）が半減、女子も（17.0%→12.0%）と減りました。それに対し、「毎日」手伝う人は、（5.8%→17.5%）大幅に増加しています。

■ 以下、手伝いを“行う”という人を対象に、その詳細を聞いた結果をみていきます。

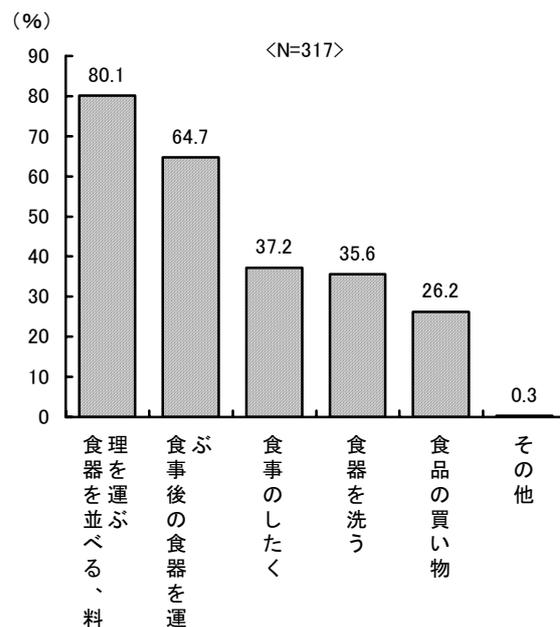
「食器を並べる、料理を運ぶ」(80.1%)、「食事後の食器を運ぶ」(64.7%)、「食器を洗う」(35.6%)、「食品の買い物」(26.2%)の食前・食後の手伝いが多いが、「食事のしたく」(37.2%)をしている人も4割近く。

「食事のしたく」は「お米をとぐ」(64.4%)、「ご飯を炊く」(52.5%)、「野菜などの皮をむく、切る」(50.8%)、「野菜などを洗う」(41.5%)など、下ごしらえが多いものの、「料理を作る」(35.6%)という人も。

「食事のしたく」に参加するようになった年齢は、平均「8.9歳」。

6-1. 食事の支度をしたり、手伝ったりしていること

図 44. 食事の支度をしたり、手伝ったりしていること（複数回答）



性別	男子 <n=141>	73.0	54.6	31.2	30.5	18.4	-
	女子 <n=176>	85.8	72.7	42.0	39.8	32.4	0.6
学年	高校1年生 <n=106>	78.3	66.0	33.0	34.0	25.5	-
	高校2年生 <n=104>	82.7	61.5	41.3	31.7	27.9	-
	高校3年生 <n=107>	79.4	66.4	37.4	41.1	25.2	0.9

食事の支度をしたり、手伝ったりしていることの内容をみると、「食器を並べる、料理を運ぶ」(80.1%)、「食事後の食器を運ぶ」(64.7%)、「食器を洗う」(35.6%)、「食品の買い物」(26.2%)と食前・食後の手伝いが多くなっていますが、「食事のしたく」(37.2%)を手伝っている人も4割近くとかなりの割合です。

性別にみると、《女子》の方がほとんどの項目で高率を示しており、全般的によく手伝っています。しかし、《男子》も「食事のしたく」を3割強(31.2%)が行っています。

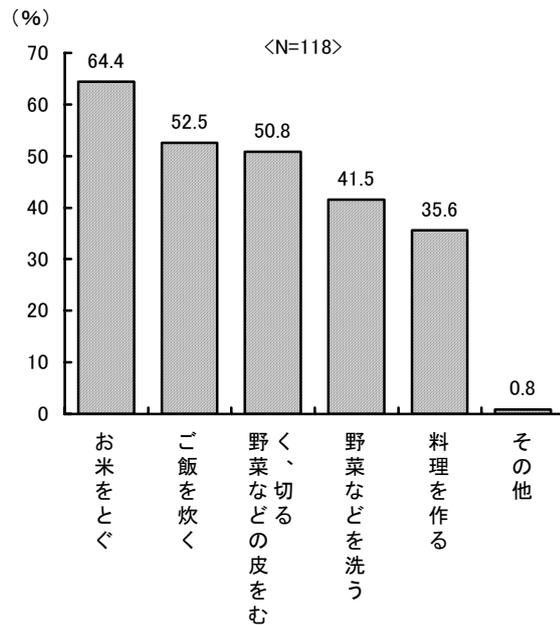
学年別にみると、《高校3年生》で「食器を洗う」(41.1%)が多いといった若干の違いがみられます。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較すると、「食品の買い物」(前回16.1%→今回26.2%)が増えているのが最も大きな変化です。

6-2. 「食事のしたく」では、どんなことをしているか

図 45. 「食事のしたく」では、どんなことをしているか（複数回答）



性別	男子 <n=44>	45.5	36.4	34.1	20.5	31.8	2.3
女子 <n=74>	75.7	62.2	60.8	54.1	37.8	-	

「食事のしたく」をしていると答えた人に、具体的にどんなことをしているか聞いてみたところ、「お米をとぐ」（64.4%）、「ご飯を炊く」（52.5%）、「野菜などの皮をむく、切る」（50.8%）、「野菜などを洗う」（41.5%）など、下ごしらえが上位を占めていますが、「料理を作る」（35.6%）も3割以上の人が行っています。

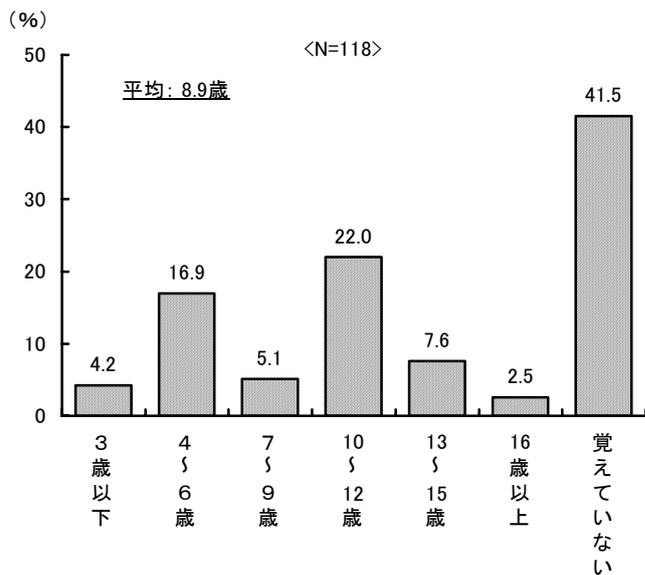
性別にみると、ほとんどの項目で《女子》の方が《男子》よりも高くなっていますが、「料理を作る」は《男子》（31.8%）と《女子》（37.8%）の差があまりありません。

なお、「料理を作る」という人の、よく作る料理名（自由回答）は以下の通りです（単位：件）。

「カレーライス」	15
「チャーハン」	7
「麺類（パスタ・ラーメン・焼きそば）」	7
「味噌汁・スープ」	6
「卵料理」	6
「野菜炒め」	6
「サラダ」	5
「ハンバーグ」	4

6-3. 「食事のしたく」に参加するようになった年齢

図 46. 「食事のしたく」に参加するようになった年齢

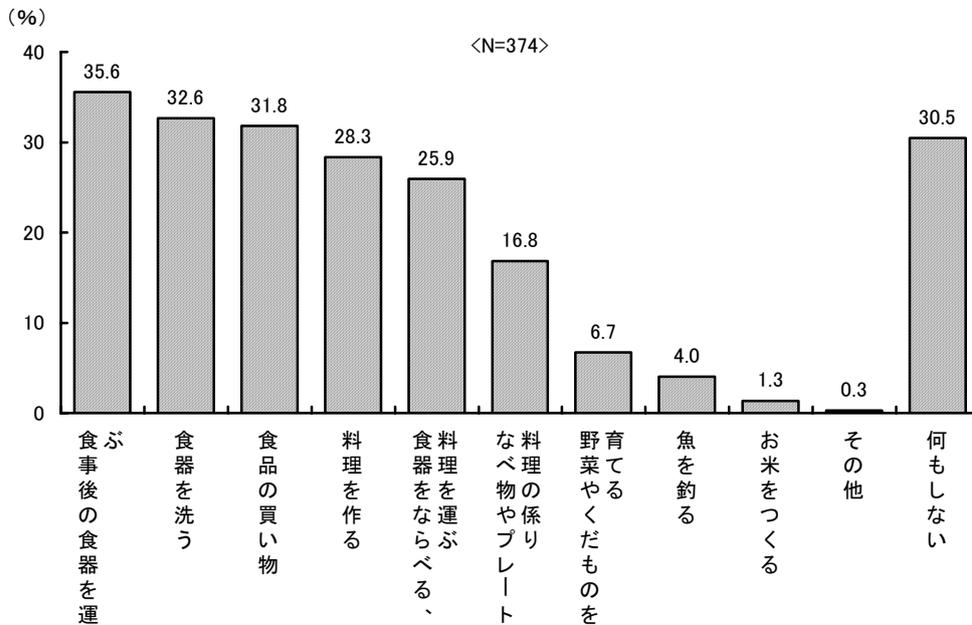


「食事のしたく」に参加するようになった年齢は、「覚えていない」という人が4割強(41.5%)を占めています。覚えていない人では、「10~12歳」(22.0%)、「4~6歳」(16.9%)、「13~15歳」(7.6%)などの順で、平均「8.9歳」となっています。

7. 父親は、食べ物や食事についてどんなことをしているか

約7割(69.5%)は“何らかをしている”父親で、その内容は「食事後の食器を運ぶ」(35.6%)、「食器を洗う」(32.6%)、「食品の買い物」(31.8%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(25.9%)といった簡単な手伝いのほか、「料理を作る」(28.3%)という父親も3割近い。

図 47. 父親は、食べ物や食事についてどんなことをしているか（父親が同居世帯）（複数回答）



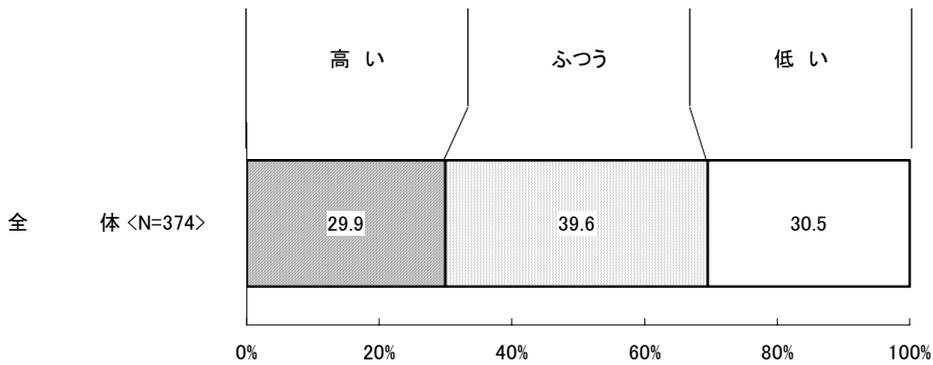
父親は、食べ物や食事についてどんなことをしているでしょうか。

「何もしない」という回答は約3割（30.5%）で、残りの約7割（69.5%）は“何らかをしている”と回答しています。その内容としては、「食事後の食器を運ぶ」（35.6%）、「食器を洗う」（32.6%）、「食品の買い物」（31.8%）、「食器をならべる、料理を運ぶ」（25.9%）といった簡単な手伝いのほか、「料理を作る」（28.3%）という父親も3割近くいます。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比較してみると、「食事後の食器を運ぶ」（前回16.6%→今回35.6%）、「食器を洗う」（同13.7%→32.6%）、「食器をならべる、料理を運ぶ」（同11.9%→25.9%）など、前回より比率が増えている項目が多く、父親が手伝いをすることは増えているようです。そして、「何もしない」（前回45.1%→今回30.5%）割合は逆に15ポイントも下がっています。

図 48. <参加度>



ちなみに、父親が食べ物や食事に関して行っていることの個数にしたがって、父親の<参加度>を「高い」= 3 個以上、「ふつう」= 1~2 個、「低い」= 0 個に分類してみたところ、「高い」(29.9%)、「ふつう」(39.6%)、「低い」(30.5%) という分布になりました。

【前回調査との比較】

2005 年に実施した前回の調査と比較してみると、「高い」(前回 17.1%→今回 29.9%)が増えて、「低い」(同 45.1%→30.5%)が減っており、父親の参加度は向上しています。

表 4. 家で、子どもが食事の支度をしたり手伝ったりする程度 (父親の参加度別)

		(%)						
		毎日	週に 4 回	週に 2 回	週に 1 回くらい	週に 1 回未満	全く行わない	平均 (回/週)
父参加度	高い <n=112>	21.4	13.4	17.0	17.0	17.9	13.4	2.8
	ふつう <n=148>	19.6	8.8	20.3	15.5	17.6	18.2	2.5
	低い <n=114>	13.2	13.2	15.8	15.8	10.5	31.6	2.1

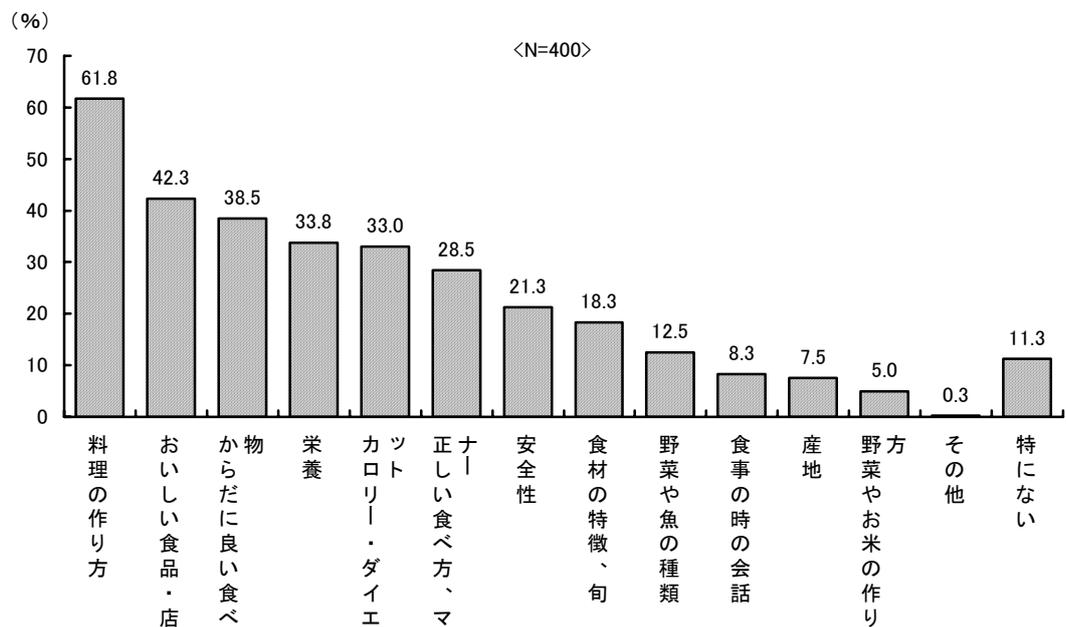
なお、父親の参加度別に、先にみた、子ども自身が“家で、食事の支度をしたり手伝ったりする程度”の違いをみると、父親の参加度が高くなるにつれ、子どもが手伝う割合が高くなっています。父親の家事に対する態度が、子どもにも大きな影響を与えていることがうかがえます。

1. 食について、関心があること

「料理の作り方」(61.8%)、「おいしい食品・店」(42.3%)、「からだに良い食べ物」(38.5%)、「栄養」(33.8%)、「カロリー・ダイエット」(33.0%)、「正しい食べ方、マナー」(28.5%)、「安全性」(21.3%)など、関心の幅は広い。「特にない」(11.3%)という人は少なく、大半の人は何らかの関心のあることをあげている。

●総じて《女子》の方が関心は高い

図 49. 食について、関心があること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	女子 <n=200>	料理の作り方	おいしい食品・店	からだに良い食べ物	栄養	カロリー・ダイエット	正しい食べ方、マナー	安全性	食材の特徴、旬	野菜や魚の種類	食事の時の会話	産地	野菜やお米の作り	その他	特にない
男子 <n=200>	51.5	36.0	33.0	30.0	11.5	22.5	18.0	17.5	12.5	6.5	7.0	4.5	0.5	18.5		
女子 <n=200>	72.0	48.5	44.0	37.5	54.5	34.5	24.5	19.0	12.5	10.0	8.0	5.5	-	4.0		
学年	高校1年生 <n=133>	60.9	40.6	39.1	29.3	32.3	28.6	13.5	15.8	11.3	9.8	9.0	4.5	-	10.5	
高校2年生 <n=133>	57.9	39.1	33.8	34.6	30.8	23.3	24.1	15.0	10.5	4.5	4.5	5.3	-	13.5		
高校3年生 <n=134>	66.4	47.0	42.5	37.3	35.8	33.6	26.1	23.9	15.7	10.4	9.0	5.2	0.7	9.7		

食について、関心があるのはどんなことでしょうか。

「料理の作り方」(61.8%)、「おいしい食品・店」(42.3%)、「からだに良い食べ物」(38.5%)、「栄養」(33.8%)、「カロリー・ダイエット」(33.0%)、「正しい食べ方、マナー」(28.5%)、「安全性」(21.3%)などの順となっており、幅広くいろいろなことに関心を持っているようです。「特にない」(11.3%)という人は1割程度にとどまり、大半の高校生は何らかの関心のあることをあげています。

性別にみると、「カロリー・ダイエット」は《女子》(54.5%)では過半数が関心を持っているのに対し、《男子》(11.5%)では1割程度です。そのほかの項目も、「料理の作り方」(男子51.5%、女子72.0%)、「おいしい食品・店」(同36.0%、48.5%)、「からだに良い食べ物」(同33.0%、44.0%)、「正しい食べ方、マナー」(同22.5%、34.5%)など、ほとんどの項目で《女子》の方が高い割合で、《女子》の食に対する関心の高さがうかがえます。

学年別にみると、あまり差のない項目が多いのですが、「安全性」の割合は学年が上がるほど高くなっています。

【前回調査との比較】

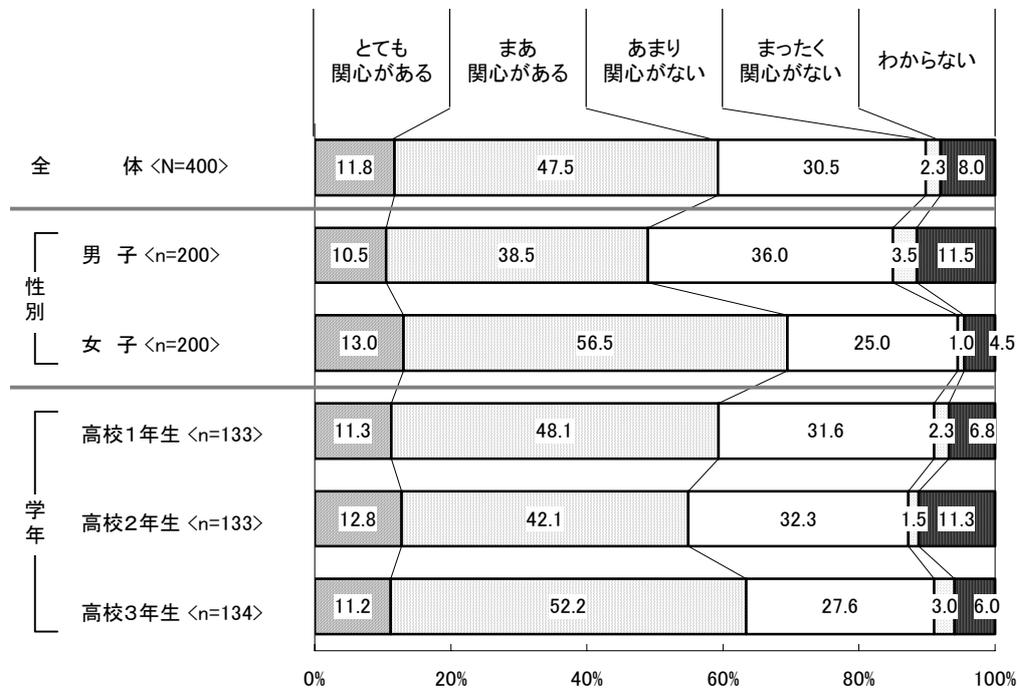
2005年に実施した前回の調査と比べ、ほとんどの項目で割合は高くなっており、特に「料理の作り方」(前回 36.3% →今回 61.8%)、「おいしい食品・店」(同 21.8% →42.3%) は 20 ポイント以上伸びています。一方、関心のあることは「特にない」(前回 38.5% →今回 11.3%) という回答は大幅に減っています。前回は、男子の 1 位が「特にない」(55.0%)、女子の 1 位が「カロリー・ダイエット」(50.0%) だったのを踏まえれば、高校生の食への意識が劇的に変化していることがうかがえます。

2. 「食の安全」への関心度

“関心がある”人がほぼ6割(59.3%)を占めるが、“関心がない”(32.8%)人も少なくない。

具体的な関心の内容は、「食品添加物」(51.9%)、「農業」(46.8%)、「保存期間」(39.2%)、「輸入食品」(35.0%)、「産地や材料」(30.0%)、「ファストフードやインスタント食品」(22.8%)、「遺伝子組換え食品」(22.4%)など。

図 50. 「食の安全」への関心度



「食の安全」にどの程度の関心があるかをみると、「とても関心がある」が1割強(11.8%)おり、「まあ関心がある」(47.5%)を合わせると6割近くの人が“関心がある”(59.3%)としています。「あまり関心がない」(30.5%)、「まったく関心がない」(2.3%)を合わせた“関心がない”(32.8%)人は3割程度で、“関心がある”人の方が多数派にはなっているものの、関心のない人も少なくはありません。

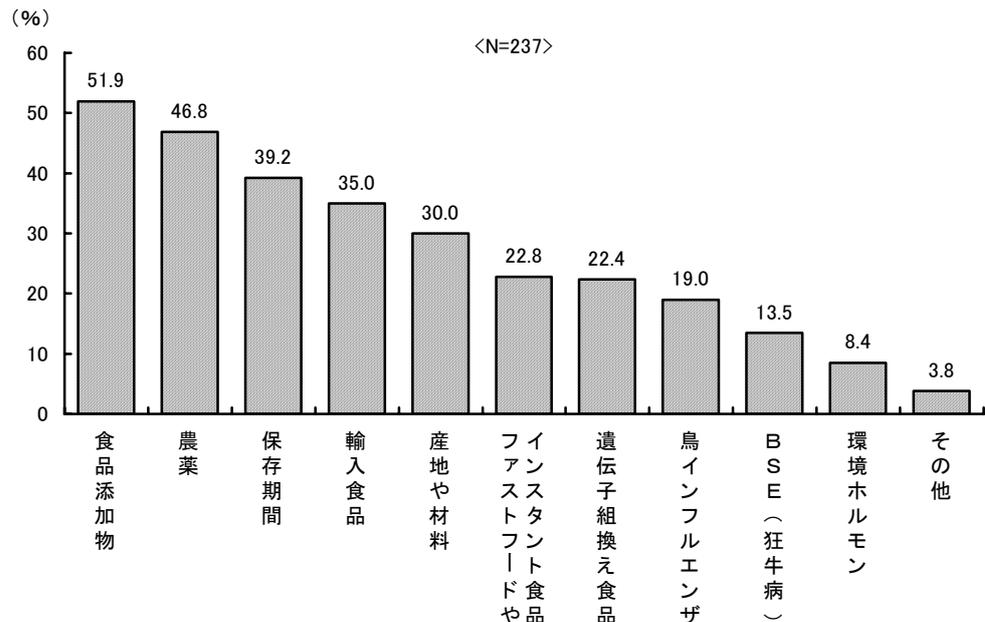
性別にみると、「とても関心がある」「まあ関心がある」を合わせた“関心がある”割合は、《男子》(49.0%)では半数を下回っているのに対し、《女子》ではほぼ7割(69.5%)に達しており、《女子》の方が高い関心を示しています。

学年別では大きな違いはみられません。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査との比較では、“関心がない”(前回41.8%→今回32.8%)がやや減って、“関心がある”(同52.5%→59.3%)がやや増えており、関心度は7年前よりも増しています。

図 51. 関心のあること（複数回答）



性別	男子 <n=98>	51.0	48.0	39.8	30.6	29.6	26.5	19.4	22.4	14.3	9.2	4.1
	女子 <n=139>	52.5	46.0	38.8	38.1	30.2	20.1	24.5	16.5	12.9	7.9	3.6
学年	高校1年生 <n=79>	50.6	45.6	40.5	26.6	32.9	25.3	24.1	16.5	13.9	7.6	-
	高校2年生 <n=73>	49.3	42.5	43.8	27.4	24.7	23.3	11.0	15.1	6.8	5.5	5.5
	高校3年生 <n=85>	55.3	51.8	34.1	49.4	31.8	20.0	30.6	24.7	18.8	11.8	5.9

“関心がある”と答えた人の、**具体的な関心の内容**をみると、「食品添加物」（51.9%）、「農薬」（46.8%）、「保存期間」（39.2%）、「輸入食品」（35.0%）、「産地や材料」（30.0%）、「ファーストフードやインスタント食品」（22.8%）、「遺伝子組換え食品」（22.4%）などの順となっています。

性別ではあまり差はみられません。

学年別では、「輸入食品」は《高校1年生》（26.6%）、《高校2年生》（27.4%）に比べ、《高校3年生》（49.4%）で急に高くなっているのが目につきます。

【前回調査との比較】

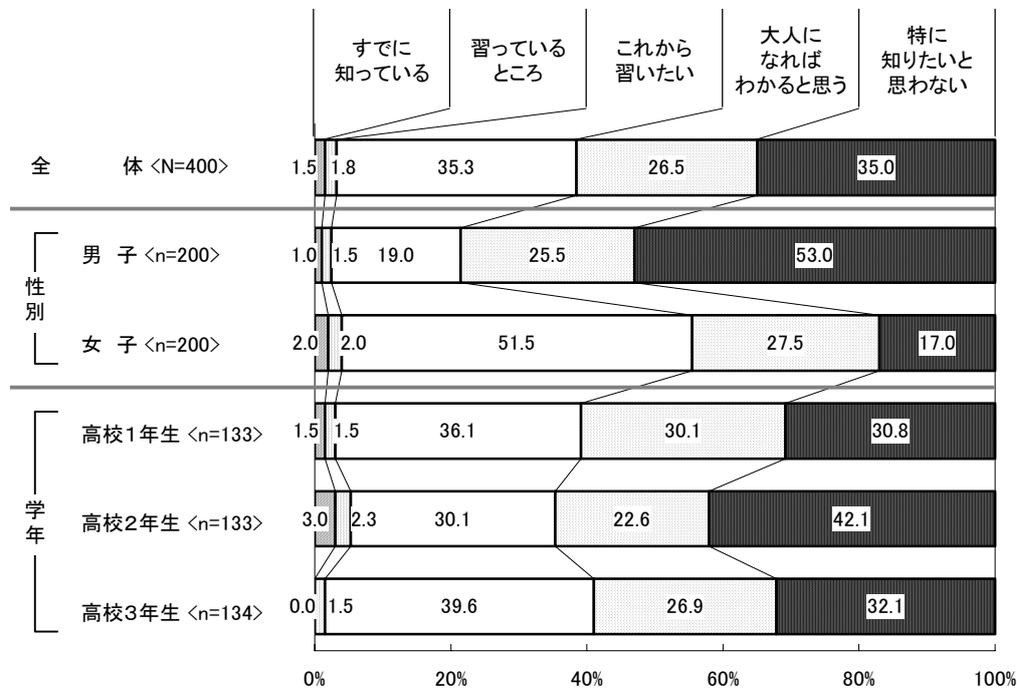
2005年に実施した前回の調査と比べると、「食品添加物」（前回28.1%→今回51.9%）、「輸入食品」（同23.8%→35.0%）、「産地や材料」（同12.9%→30.0%）への関心は10ポイント以上アップしています。一方、「鳥インフルエンザ」（前回68.1%→今回19.0%）、「BSE（狂牛病）」（同66.7%→13.5%）への関心は大幅に下がっています。「鳥インフルエンザ」と「BSE（狂牛病）」は前回調査時に話題になっていたため、関心事の1位、2位を占めていましたが、今回は別のことに関心が移っています。

3. 郷土料理や行事食の作り方を知りたいと思うか

「すでに知っている」(1.5%)や「習っているところ」(1.8%)という人は少ないが、「これから習いたい」(35.3%)と意欲を示す人が3割を超える。

●《女子》では「これから習いたい」(51.5%)という人が半数を超えているが、《男子》(19.0%)では少ない。

図 52. 郷土料理や行事食の作り方を知りたいと思うか



郷土料理や行事食の作り方を知りたいと思うかどうか聞いたところ、「すでに知っている」(1.5%)や「習っているところ」(1.8%)という人はごくわずかですが、「これから習いたい」(35.3%)と意欲を示す人が3割台を占めています。そのほかの人はあまり知りたいという意欲はなく、「大人になればわかると思う」(26.5%)と自然に任せるという人や、「特に知りたいと思わない」(35.0%)と興味を示さない人となっています。

性別にみると、「これから習いたい」とする割合は、《女子》(51.5%)では半数を超えています。《男子》(19.0%)でははるかに低い割合にとどまり、「特に知りたいと思わない」(53.0%)の方が半数を超えています。

学年別ではあまり大きな差はありませんが、《高校2年生》で「特に知りたいと思わない」(42.1%)の割合が高くなっています。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べると、「特に知りたいと思わない」(前回48.8%→今回35.0%)が10ポイント以上減り、「大人になればわかると思う」(同18.3%→26.5%)や「これから習いたい」(同30.8%→35.3%)がやや増えています。前回よりもわずかながら興味を示すようになってきています。

4. 好きな郷土料理・行事食

「雑煮」(70件)、「ちらし寿司」(63件)、「お節料理」(45件)、「栗きんとん」(29件)、「伊達巻」(24件)、「餅」(22件)などの順で、総じて正月料理が多い。

表 5. 好きな郷土料理・行事食 (自由回答：ベスト10)

順位		件数	男子	女子
1	雑煮	70	24	46
2	ちらし寿司	63	15	48
3	お節料理	45	21	24
4	栗きんとん	29	6	23
5	伊達巻	24	10	14
6	餅	22	7	15
7	恵方巻	19	10	9
8	ほうとう	17	10	7
9	おはぎ	16	9	7
10	赤飯	13	8	5

好きな郷土料理・行事食を自由回答であげてもらった結果をみると、「雑煮」(70件)と「ちらし寿司」(63件)が多く、以下「お節料理」(45件)、「栗きんとん」(29件)、「伊達巻」(24件)、「餅」(22件)などの順となっています。総じて正月料理が多いのが目立ちます。

性別にみると、「雑煮」(男子24件、女子46件)、「ちらし寿司」(同15件、48件)、「栗きんとん」(同6件、23件)など、上位項目は《女子》の方が多くあげている項目が多くなっています。

【前回調査との比較】

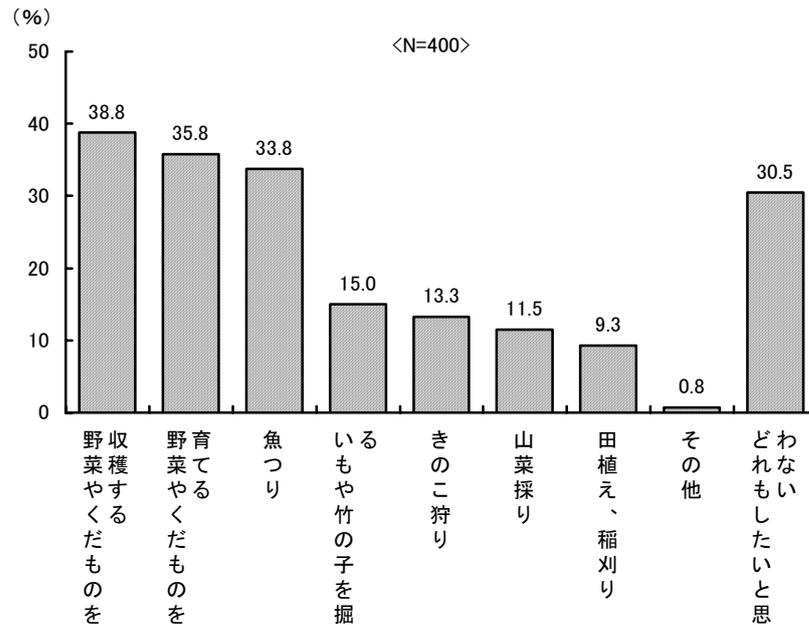
2005年に実施した前回の調査でも、「雑煮」が最も多く、以下「ちらし寿司」「栗きんとん」「お節料理」「おはぎ」「伊達巻」「餅」などの順で、今回と大きくは変わっていません。

5. 農業や食物の収穫で、行ってみたいこと

「野菜やくだものを収穫する」(38.8%)、「野菜やくだものを育てる」(35.8%)、「魚つり」(33.8%)、「いもや竹の子を掘る」(15.0%)、「きのこ狩り」(13.3%)、「山菜採り」(11.5%)などをしてみたい割合が高いが、「どれもしたいと思わない」という人も3割(30.5%)。

●総じて《男子》よりも《女子》の方が行ってみたいことは多いが、「魚つり」は《男子》(40.0%)の方が《女子》(27.5%)よりもかなり多い。

図 53. 農業や食物の収穫で、行ってみたいこと（複数回答）



性別	男子 <n=200>	27.0	24.0	40.0	12.0	11.5	10.5	8.5	1.0	35.0
	女子 <n=200>	50.5	47.5	27.5	18.0	15.0	12.5	10.0	0.5	26.0
学年	高校1年生 <n=133>	42.1	39.1	36.1	14.3	11.3	11.3	6.8	0.8	28.6
	高校2年生 <n=133>	34.6	31.6	34.6	12.0	11.3	11.3	10.5	0.8	33.8
	高校3年生 <n=134>	39.6	36.6	30.6	18.7	17.2	11.9	10.4	0.7	29.1

農業や食物の収穫で、行ってみたいことを聞いたところ、「野菜やくだものを収穫する」(38.8%)、「野菜やくだものを育てる」(35.8%)、「魚つり」(33.8%)の3つは3割以上の方が行ってみたいとしています。以下、「いもや竹の子を掘る」(15.0%)、「きのこ狩り」(13.3%)、「山菜採り」(11.5%)などの順となっていますが、「どれもしたいと思わない」という人も3割(30.5%)を占めています。

性別にみると、《女子》の方が高い割合を示す項目が多く、特に「野菜やくだものを収穫する」(男子27.0%、女子50.5%)、「野菜やくだものを育てる」(同24.0%、47.5%)では、《女子》が《男子》を20ポイント以上も上回っています。一方、「魚つり」は《男子》(40.0%)の方が《女子》(27.5%)よりもかなり多くなっています。

学年別ではあまり差はありません。

【前回調査との比較】

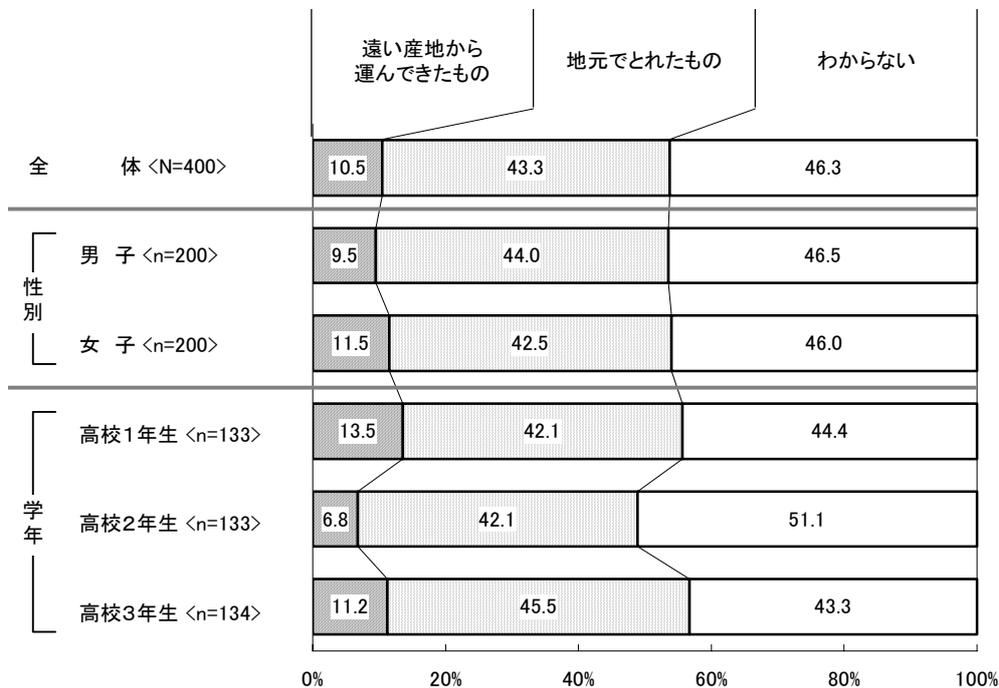
2005年に実施した前回の調査と比べてみると、「どれもしたいと思わない」が前回「53.8%」と半数を超えてい

たのに対し、今回は 30.5%と激減しています。行ってみたい内容としては、「野菜やくだものを収穫する」（前回 22.3%→今回 38.8%）、「野菜やくだものを育てる」（同 20.5%→35.8%）、「魚つり」（同 23.0%→33.8%）が 10 ポイント以上増えています。

6. 遠い産地から運んで来た野菜や果物と、地元でとれたもののどちらを利用したいか

「地元でとれたもの」(43.3%)という人の方が「遠い産地から運んできたもの」(10.5%)よりもはるかに多い。

図 54. 遠い産地から運んで来た野菜や果物と、地元でとれたもののどちらを利用したいか



野菜や果物は、遠い産地から運んで来たものと、地元でとれたもののどちらを利用したいと思っているのでしょうか。

「わからない」(46.3%)という人が半数近くを占めていますが、それ以外では、「地元でとれたもの」(43.3%)の方が「遠い産地から運んできたもの」(10.5%)よりもはるかに多くなっており、「地産地消」の意識を多くの高校生が持っていることが分かります。

性別ではほとんど差はありません。

学年別でも大きな傾向の違いはみられませんが、「高校2年生」で「わからない」(51.1%)の割合がやや高めです。

【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べてみると、「遠い産地から運んできたもの」(前回 25.5%→今回 10.5%)が大きく減り、「わからない」(同 35.8%→46.3%)や「地元でとれたもの」(同 38.8%→43.3%)が増えています。

なお、それぞれの回答について、そう答えた理由を自由回答であげてもらいました。まず「遠い産地から運んできたもの」を利用したい理由（単位：件）は、

「おいしいから」	26
「安心だから」	8
「種類が多いから」	6
「その他」	5

といった結果になっており、「おいしいから」が突出して多くなっています。

次いで、「地元でとれたもの」を利用したい理由をみると、

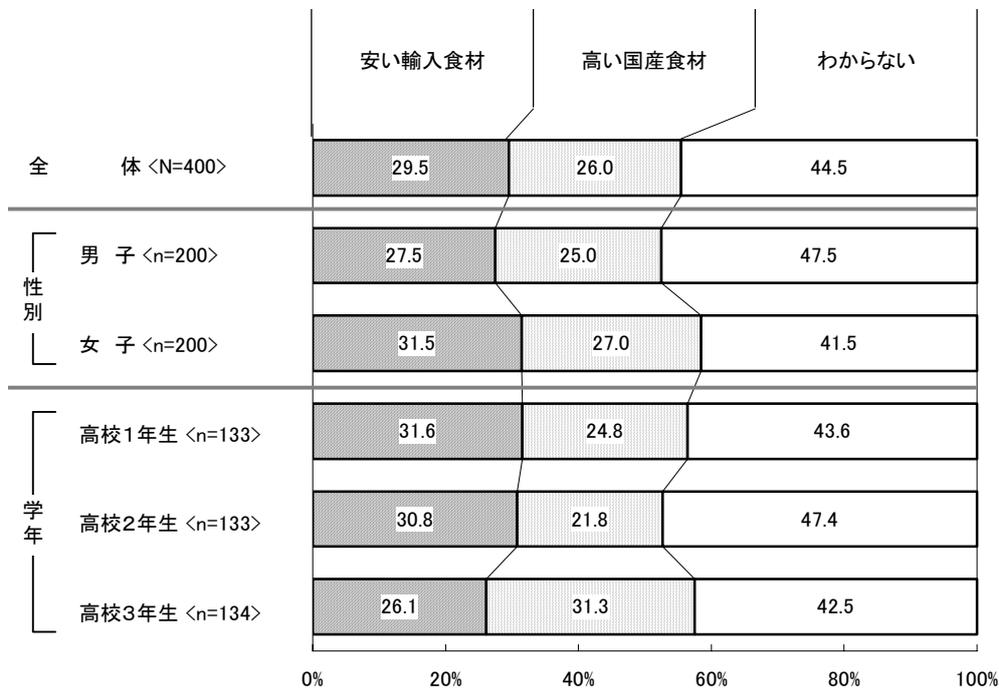
「新鮮だから」	61
「安心だから」	55
「地元のためになるから」	31
「親近感があるから」	18
「価格が安いから」	15
「美味しいから」	10
「簡単に手に入るから」	5
「その他」	3

などとなっており、「新鮮だから」「安心だから」「価格が安いから」といった自分にとってのメリットだけではなく、「地元のためになるから」と“地元を応援する気持ち”もかなり大きな理由となっているようです。

7. 野菜や果物などの農産物を購入する時、安い輸入食材と高い国産食材のどちらを選ぶか

「安い輸入食材」(29.5%)と「高い国産食材」(26.0%)はほぼ同率で、“安全性”と“価格”で意見が分かれる。

図 55. 野菜や果物などの農産物を購入する時、安い輸入食材と高い国産食材のどちらを選ぶか



野菜や果物などの農産物を購入する時、安い輸入食材と高い国産食材のどちらを選びたいでしょうか。

「わからない」(44.5%)という人が多く、それ以外の「安い輸入食材」(29.5%)と「高い国産食材」(26.0%)は同じくらいの割合となっています。高校生にとって、“安全性”と“価格”のどちらをとるかという問題は意見の分かれるところとなっています。

性別にみると、大きな傾向の差はありませんが、《男子》で「わからない」(47.5%)とする割合が、《女子》(41.5%)に比べてやや高めです。

学年別でもあまり差はありませんが、《高校3年生》では「安い輸入食材」(26.1%)より「高い国産食材」(31.3%)の方が高く、“安全性”の方にやや意見が傾いています。

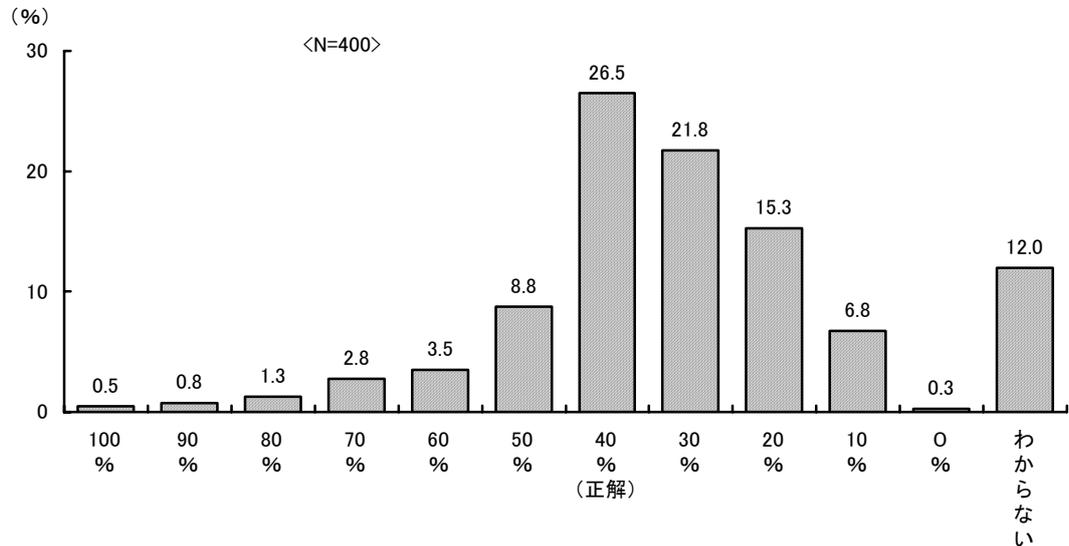
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査との比較をみると、「安い輸入食材」(前回33.8%→今回29.5%)がやや減り、「高い国産食材」(同23.3%→26.0%)がやや増えており、“安全性”の方に重点が少し移ってきています。

8. 現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うか

「40%（正解）」は約4人に1人(26.5%)にとどまり、「30%」(21.8%)、「20%」(15.3%)や「わからない」(12.0%)など、4人に3人は不正解。

図 56. 現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うか



性別	男子 <n=200>	1.0	0.5	1.0	2.5	2.5	9.0	29.5	20.0	14.5	6.0	0.5	13.0
	女子 <n=200>	-	1.0	1.5	3.0	4.5	8.5	23.5	23.5	16.0	7.5	-	11.0
学年	高校1年生 <n=133>	0.8	-	1.5	4.5	3.0	11.3	22.6	22.6	14.3	4.5	-	15.0
	高校2年生 <n=133>	0.8	2.3	2.3	2.3	5.3	6.0	21.8	21.1	17.3	10.5	-	10.5
	高校3年生 <n=134>	-	-	-	1.5	2.2	9.0	35.1	21.6	14.2	5.2	0.7	10.4

現在、日本の食料自給率は40%程度ですが、高校生はどれくらいだと考えているでしょうか。

「40%（正解）」(26.5%)と答えた人は約4人に1人の割合にとどまり、「30%」(21.8%)、「20%」(15.3%)などや、「わからない」(12.0%)など、4人に3人は不正解となっています。

性別にみると、「40%（正解）」の割合は《女子》(23.5%)よりも《男子》(29.5%)の方が若干高くなっていますが、あまり大きな差ではありません。

学年別にみると、正解率は《高校1年生》(22.6%)、《高校2年生》(21.8%)では2割程度ですが、《高校3年生》(35.1%)では3割台半ばと急に増えています。

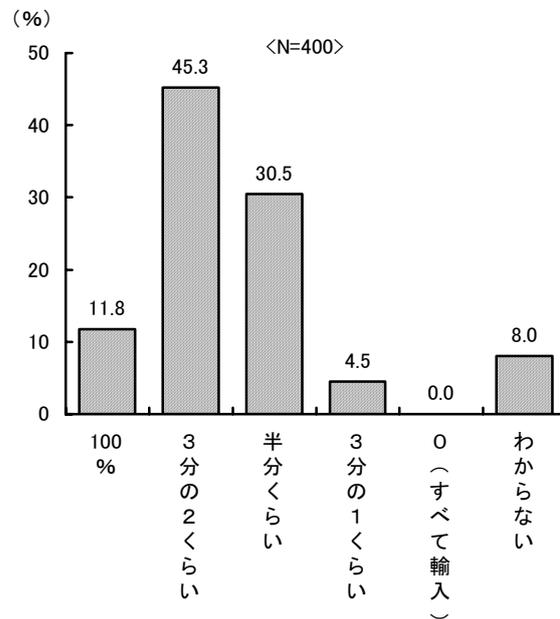
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「40%（正解）」(前回13.8%→今回26.5%)の割合はほぼ倍増しています。まだ十分に認識しているとは言えませんが、最近食料自給率が話題になることが多くなってきたためか、認知度が上がっている傾向ははっきりみられます。

9. 日本は、どの程度食料を自給すべきだと思うか

「3分の2くらい」(45.3%)、「半分くらい」(30.5%)くらいが多く、「100%」(11.8%)は1割程度。

図 57. 日本は、どの程度食料を自給すべきだと思うか



性別	男子 <n=200>	100%	3分の2くらい	半分くらい	3分の1くらい	0 (すべて輸入)	わからない
女子 <n=200>	9.5	46.0	31.5	5.5	-	7.5	
学年	高校1年生 <n=133>	7.5	48.9	27.1	4.5	-	12.0
	高校2年生 <n=133>	16.5	40.6	30.8	4.5	-	7.5
	高校3年生 <n=134>	11.2	46.3	33.6	4.5	-	4.5

では、日本は、どの程度食料を自給すべきだと思っているのでしょうか。

「3分の2くらい」(45.3%)が最も多く、以下「半分くらい」(30.5%)、「100%」(11.8%)などの順となっています。先進国では食糧自給率が100%を超える国も多いのですが、高校生はそこまで必要と考える人は少ないようです。

性別ではあまり大きな差はありません。

学年別でもあまり差はありませんが、低学年の人ほど「わからない」という割合が少しずつ高くなっています。

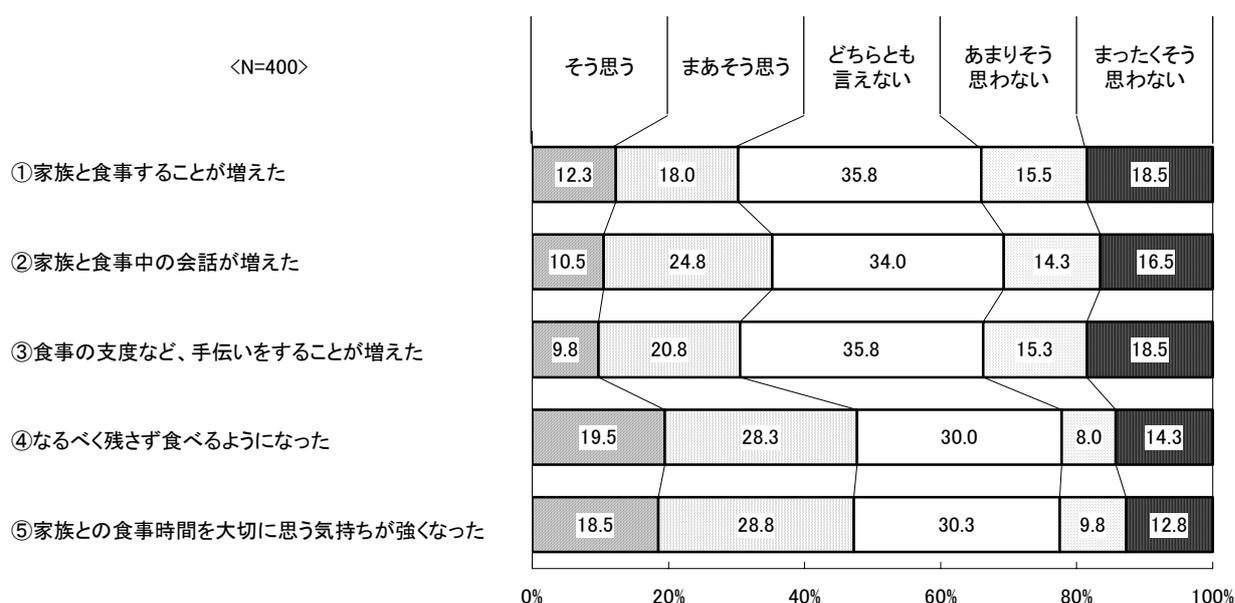
【前回調査との比較】

2005年に実施した前回の調査と比べ、「半分くらい」(前回 43.3%→今回 30.5%)が10ポイント以上減り、「100%」(同 7.0%→11.8%)、「3分の2くらい」(同 40.5%→45.3%)が増えています。高校生は、より高い自給率が必要だと考えるようになってきています。

1. 昨年の東日本大震災から1年過ぎて、家族との食や食生活はどのような変化があったか

“そう思う”割合は、【④なるべく残さず食べるようになった】(47.8%)と【⑤家族との食事時間を大切に思う気持ちが強くなった】(47.3%)で半数近くと高い。【②家族と食事時の会話が増えた】(35.3%)、【③食事の支度など、手伝いをすることが増えた】(30.5%)、【①家族と食事することが増えた】(30.3%)は3割台。

図 58. 昨年の東日本大震災から1年過ぎて、家族との食や食生活はどのような変化があったか



昨年3月11日の東日本大震災から1年過ぎて、家族との食や食生活は何か変化があったでしょうか。【①家族と食事することが増えた】～【⑤家族との食事時間を大切に思う気持ちが強くなった】の5項目について、そう思うかどうか答えてもらったところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が高いのは【④なるべく残さず食べるようになった】(47.8%)と【⑤家族との食事時間を大切に思う気持ちが強くなった】(47.3%)で、ともに半数近い割合です。そのほかの項目は、【②家族と食事時の会話が増えた】(35.3%)、【③食事の支度など、手伝いをすることが増えた】(30.5%)、【①家族と食事することが増えた】(30.3%)と、いずれも3割台です。

なお、提示した上記の項目以外に何か変化があったか、自由回答で答えてもらった結果をみると、「食べ物の大切さを感じた」(9件)、「安全な食品を求めるようになった」(8件)、「普通に食事ができる有難さを知った」(6件)、「家族の大切さを感じた」(6件)、「被災地のものを買うようになった」(4件)などがあげられています。

表 6. 昨年の東日本大震災から1年過ぎて、家族との食や食生活はどのような変化があったか（属性別“そう思う”割合）

(%)

		①	②	③	④	⑤	
	サンプル数	家族が増え食事するこ	家族が増え食事の会	食手が増え支度など、	なべるべくうに残さず食た	家族と大が切強に思なうつ時	
全 体		400	30.3	35.3	30.5	47.8	47.3
性別	男子	200	22.5	28.5	23.0	39.0	34.5
	女子	200	38.0	42.0	38.0	56.5	60.0
学年	高校1年生	133	38.3	40.6	34.6	54.1	51.1
	高校2年生	133	27.1	33.1	29.3	43.6	42.9
	高校3年生	134	25.4	32.1	27.6	45.5	47.8

性別にみると、いずれの項目も《女子》の方が《男子》より10ポイント以上高い割合で、震災後に変化があった割合が高くなっています。特に、【⑤家族との食事時間を大切に思う気持ちが強くなった】は、《女子》(60.0%)が《男子》(34.5%)を25ポイント以上も上回っています。

学年別にみると、総じて学年が低いほど“そう思う”割合が高い傾向がみられます。